2025年度

文学研究科

便覧・講義概要

◈

北海学園大学大学院

文学研究科　便覧・講義概要 | 目次

文学研究科 行事日程表 …… 2
文学研究科の目的 …… 4
【日本文化専攻修士課程】授業科目及び講義概要 …… 7
【英米文化専攻修士課程】授業科目及び講義概要 …… 31
【日本文化専攻博士（後期）課程】授業科目及び講義概要 …… 59
【英米文化専攻博士（後期）課程】授業科目及び講義概要 …… 79

研究科諸規程
北海学園大学大学院学則 …… 105
北海学園大学大学院研究生規程 …… 122
北海学園大学大学院委託生規程 …… 123
北海学園大学大学院科目等履修生規程 …… 124
北海学園大学大学院文学研究科規則 …… 126
北海学園大学大学院文学研究科履修規程 …… 128
北海学園大学学位規則 …… 130
北海学園大学大学院学位論文審査手数料の取り扱いに関する規程 …… 136
北海学園大学大学院文学研究科修士学位申請論文指導要項 …… 137
北海学園大学大学院文学研究科課程博士学位申請論文指導要項 …… 138
北海学園大学大学院文学研究科博士学位申請論文（論文博士）提出要項 …… 139
文学研究科長期履修の取扱いに関する内規 …… 140
文学研究科継続履修内規 …… 141
北海学園大学　研究活動の基本精神及び行動規範 …… 142
北海学園大学　研究活動上の不正行為に関する規程 …… 143

特別聴講学生（単位互換制度）について …… 149
成績照会 …… 150
修士・博士論文研究計画届 …… 151
修士・博士論文題目届 …… 152
学位論文審査願（修士課程） …… 154
学位論文審査願（博士（後期）課程） …… 155
学位論文審査願（論文博士） …… 156
許諾書（修士論文） …… 157
学位論文公表申請書（博士論文） …… 158
履歴書 …… 159
院生研究図書費について …… 160

2025年度 文学研究科 行事日程表

月	日	月	火	水	木	金	土	行　事　予　定
4月			1	2	3	4	5	1（火）　健康診断（２年生以上） 最終時間割発表 1（火）～12（土）　外国人研究生（２学期入学）出願受付 2（水）　入学式 5（土）　健康診断（１年生） 8（火）　前期授業開始 19（土）　修士・博士論文研究計画届提出締切
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				
5月						1	2	7（水）　振替月曜日 8（木）　振替火曜日 9（金）～24（土）　外国人研究生（２学期）合格発表～入学手続 16（金）　学園創立記念日
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
6月	1	2	3	4	5	6	7	4（水）　第１回　大学院委員会 10（火）　論文提出期限（課程博士９月期修了・論文博士）・９月期修了手続締切（課程博士） 28（土）　全体ゼミ資料提出日（博士・修士２年）
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
7月			1	2	3	4	5	5（土）　全体ゼミ（博士・修士２年）、第１回大学院進学説明会 10（木）　論文提出期限（修士９月期修了）・９月期修了手続締切（修士） 22（火）・23（水）　予備日①・② 23（水）　口述・修了試験（９月期） 28（月）　論文審査報告書（９月期）、製本用原稿・公開用原稿データ提出期限 29（火）～8/4（月）　審査論文公開 30（水）　前期授業終了
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
8月						1	2	8（金）　夏季休業開始 13（水）～16（土）　全学休業（事務取扱休止） 22（金）～9/8（月）　修士Ⅰ期入学者選抜願書受付
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24/31	25	26	27	28	29	30	
9月		1	2	3	4	5	6	5（金）～13（土）　研究生（２学期）願書受付 9（火）　９月期修了審査研究科委員会 10（水）　第２回　大学院委員会 12（金）　９月期修了生発表 19（金）　夏季休業終了 20（土）　後期授業開始 24（水）～27（土）　研究生（２学期）合格者発表～入学手続 30（火）　９月期学位記授与式、修士・博士論文題目届提出締切
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					

月	日	月	火	水	木	金	土	行　事　予　定
10月					1	2	3 4	4（土）　修士Ⅰ期入学者選抜 11（土）～13（月）　十月祭 25（土）　全体ゼミ資料提出日（修士１年） 23（木）～11/7（金）　外国人研究生願書受付
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
11月							1	1（土）　全体ゼミ（修士１年） 7（金）　振替月曜日 7（金）～22（土）　修士Ⅰ期入学者選抜合格発表～入学手続 21（金）～12/9（火）　外国人研究生合格発表～入学手続
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23/30	24	25	26	27	28	29	
12月		1	2	3	4	5	6	6（土）　第２回大学院進学説明会 10（水）　論文提出期限（博士） 第３回　大学院委員会 27（土）　冬季休業開始
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
1月						1	2 3	7（水）　冬季休業終了 8（木）　授業再開・振替月曜日 8（木）～15（木）　修士Ⅱ期・博士入学者選抜願書受付 10（土）　論文提出期限（修士） 14（水）・15（木）　予備日①・② 16（金）　大学入学共通テスト準備日（全学休講） 17（土）～18（日）　大学入学共通テスト（全学休講） 21（水）　第４回　大学院委員会 26（月）　後期授業終了 28（水）　口述・修了試験
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
2月	1	2	3	4	5	6	7	2（月）　論文審査報告書、製本用原稿・公開用原稿データ提出期限 3（火）～12（木）　審査論文公開 5（木）　成績採点締切 8（日）　一般選抜準備日 9（月）・10（火）　一般選抜 14（土）　修士Ⅱ期・博士入学者選抜 14（土）～3/3（火）　ＴＡ募集希望受付（専任） 19（木）　研究科委員会（修了審査）
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
3月	1	2	3	4	5	6	7	3（火）～10（火）　修士Ⅱ期・博士入学者選抜合格発表～入学手続、ＴＡ募集希望受付（非常勤） 4（水）　第５回　大学院委員会 4（水）～11（水）　研究生（１学期）願書受付 10（火）　卒業・修了生発表 20（金）　学位記授与式 20（金）～25（水）　研究生（１学期）合格者発表～入学手続 21（土）～25（水）　成績照会
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

文学研究科の目的

文学研究科は，日本文化と英米文化の２つの専攻に修士と博士（後期）の両課程を備えた大学院です。日本文化専攻修士課程が設置された平成 11（1999）年 4 月に発足し，平成 13（2001）年に日本文化専攻博士（後期）課程，平成 15（2003）年に英米文化専攻修士課程，平成 17（2005）年に英米文化専攻博士（後期）課程が増設されて，今日に至ります。

「北緯 40 度圏という北の大地から『新しい人文学』を創成する」――これが，開設以来の文学研究科の理念です。「新しい人文学」あるいは「新人文主義」とは，伝統的な「人文主義」が人間解放＝人間至上の名の下に自然と世界を支配することに道を開いた隘路を凝視し，人間が人間であるとは何かを問い質そうとするものです。

修士課程では両専攻とも文学・言語学・思想を柱とする「言語・思想文化」, 歴史学 , 人類学を柱とする「歴史・環境文化」の２分野を広く視野に入れながら , 新人文主義の可能性を探ります。日本文化専攻は , 北海道という地域的特性を生かしながら日本文化の遺産を自分自身の目でみつめ問い質す営みをとおして，その創造的発展を目指しています。英米文化専攻は日本にとって欧米世界とは何かを問いかけ , この問いを主体的に読み直すことを目指しています。

博士（後期）課程では，修士課程における研究をさらに深めて，学位論文が先行研究を凌駕する独創的な研究の成果となるよう指導・助言を行うことをとおして，研究者として自立できる人材を育成することを目的としています。

以上のように, 本研究科は, 人間の営みを総合的に把握しうる「新しい人文学」の構築を目指して, 教員と院生とが一体となって研鑽に努めています。

双方向型リアルタイム遠隔授業

国内の遠隔地に在住しているなどの事由により通学が困難であると本研究科が認めた場合には，修士課程に限り，修了要件のすべての科目をオンライン・ビデオ会議システムを使った双方向型リアルタイム遠隔授業によって例外的に履修することができる。ただし，全体ゼミ（中間発表会）および口述修了試験は，対面を原則とする。

※文学研究科では，双方向型リアルタイム遠隔授業について，担当教員がメール，オンライン・ビデオ会議システムのいずれかの方法で，事前相談に応じます。まずは，①氏名，②連絡先メールアドレス，③日本文化・英米文化専攻の別，④おおよその研究分野やテーマ，⑤事前相談はメール，オンライン・ビデオ会議システムのどちらを希望するか（後者の場合は Zoom 等の使用ツールも記入）をお書き添えのうえ，相談窓口（jinbun@hgu.jp）までお問い合わせください。

【日本文化専攻　修士課程】

授業科目及び講義概要

文学研究科日本文化専攻修士課程の科目履修について

修士課程の科目群は「言語・思想文化科目」と「歴史・環境文化科目」の 2 分野からなっているが，科目履修にあたっては「大学院設置基準」の修士課程における教育目的にもとづき，次の原則を考慮すること。

1. 「専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業に必要な高度の能力」を養うために，指導教授の特殊講義科目および演習科目計 12 単位を必修とする。
2. その他の選択科目（特殊講義，必修以外の演習）20 単位以上の履修にあたっては，「広い視野に立って精深な学識」を得るために，分野・時代・内容が偏ることがないように留意する。

授業科目及び担当者

言語・思想文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
日本文学特殊講義Ⅰ	4	准教授 関　本　真　乃	1	15以降	12
日本文学特殊講義演習ⅠA	4	准教授 関　本　真　乃	1	15以降	12
日本文学特殊講義演習ⅠB	4	准教授 関　本　真　乃	2	15以降	13
日本文学特殊講義Ⅱ	4	教授 田　中　　綾	1	15以降	13
日本文学特殊講義演習ⅡA	4	教授 田　中　　綾	1	15以降	14
日本文学特殊講義演習ⅡB	4	教授 田　中　　綾	1	15以降	14
日本文学特殊講義Ⅲ	4	講師 月　岡　道　晴	1	15以降	15
比較文学特殊講義Ⅱ	4	准教授 杉　江　聡　子	1	15以降	15
比較文学特殊講義演習ⅡA	4	准教授 杉　江　聡　子	1	15以降	16
比較文学特殊講義演習ⅡB	4	准教授 杉　江　聡　子	2	15以降	16
［非開講］日本思想特殊講義Ⅰ	4	教授 鈴　木　英　之	1	15以降	17
［非開講］日本思想特殊講義演習ⅠA	4	教授 鈴　木　英　之	1	15以降	17
［非開講］日本思想特殊講義演習ⅠB	4	教授 鈴　木　英　之	2	15以降	18
日本思想特殊講義Ⅱ	4	教授 大　石　和　久	1	15以降	18
日本思想特殊講義演習ⅡA	4	教授 大　石　和　久	1	15以降	19
日本思想特殊講義演習ⅡB	4	教授 大　石　和　久	2	15以降	19

授業科目及び担当者

言語・思想文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
日本語研究特殊講義Ⅰ	4	准教授 丸　島　　歩	1	15以降	20
日本語研究特殊講義演習ⅠA	4	准教授 丸　島　　歩	1	15以降	20
日本語研究特殊講義演習ⅠB	4	准教授 丸　島　　歩	2	15以降	21
日本語研究特殊講義Ⅱ	4	教授 徳　永　良　次	1	15以降	21
日本語研究特殊講義演習ⅡA	4	教授 徳　永　良　次	1	15以降	22
日本語研究特殊講義演習ⅡB	4	教授 徳　永　良　次	2	15以降	22

歴史・環境文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
日本史特殊講義Ⅰ	4	教授 片　岡　耕　平	1	15以降	23
日本史特殊講義演習ⅠA	4	教授 片　岡　耕　平	1	15以降	23
日本史特殊講義演習ⅠB	4	教授 片　岡　耕　平	2	15以降	24
日本史特殊講義Ⅱ	4	教授 郡　司　　淳	1	15以降	24
日本史特殊講義演習ⅡA	4	教授 郡　司　　淳	1	15以降	25
日本史特殊講義演習ⅡB	4	教授 郡　司　　淳	2	15以降	25
日本史特殊講義Ⅲ	4	講師 東　　俊　佑	1	21以降 (15~20)	26
環境文化特殊講義ｊⅠ	4	教授 手　塚　　薫	1	15以降	26
環境文化特殊講義演習ｊⅠA	4	教授 手　塚　　薫	1	15以降	27

授業科目及び担当者

歴史・環境文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
環境文化特殊講義演習ｊⅠB	4	教授 手　塚　　薫	2	15以降	27
環境文化特殊講義ｊⅡ	4	教授 須　田　一　弘	1	15以降	28
環境文化特殊講義演習ｊⅡA	4	教授 須　田　一　弘	1	15以降	28
環境文化特殊講義演習ｊⅡB	4	教授 須　田　一　弘	2	15以降	29

言語・思想文化科目、歴史・環境文化科目共通

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
論文指導	2	各指導教員（主査）	2	15以降	30

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本文学特殊講義I	4	関本　真乃

●授業の到達目標及びテーマ

『源氏物語』が社会および物語作者に与えた影響について理解する。中古から近世にかけての文献を正確に読解できる力を身につける。

●授業の概要

『源氏物語』がその成立以後どのように享受されたのかをさまざまな文献（物語・古注釈等）から読み解き、『源氏物語』が社会および物語作者に与えた影響について考察する。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　『源氏物語』の成立・文体
第３回　『源氏物語』作者についての言説①（中古・中世）
第４回　『源氏物語』作者についての言説②（中世・近世）
第５回　中古の『源氏物語』読者①（同時代における享受）
第６回　中古の『源氏物語』読者②（院政期における享受）
第７回　『源氏物語』の影響　狭衣物語①（和歌）
第８回　『源氏物語』の影響　狭衣物語②巻1・2（表現・修辞）
第９回　『源氏物語』の影響　狭衣物語③巻3・4（構成・人物造型）
第10回　『源氏物語』の影響　栄花物語①正編前半（表現・修辞）
第11回　『源氏物語』の影響　栄花物語②正編後半（構成・人物造型）
第12回　『源氏物語』の影響　栄花物語③続編（内容読解）
第13回　『源氏物語』の影響　夜の寝覚①前半（表現・修辞）
第14回　『源氏物語』の影響　夜の寝覚②後半（構成・人物造型）
第15回　前期まとめ
第16回　中世の『源氏物語』読者①鎌倉時代
第17回　中世の『源氏物語』読者②南北朝時代
第18回　中世の『源氏物語』読者③室町時代
第19回　『源氏物語』の影響　石清水物語①（表現・修辞にみる摂取）
第20回　『源氏物語』の影響　石清水物語②（人物造型にみる摂取）
第21回　『源氏物語』の影響　苔の衣
第22回　『源氏物語』の影響　我身にたどる姫君
第23回　『源氏物語』の影響　いはでしのぶ
第24回　『源氏物語』の影響　海人の刈藻
第25回　『源氏物語』古注釈①中古・中世
第26回　『源氏物語』古注釈②中世
第27回　『源氏物語』古注釈③近世以降
第28回　近世の『源氏物語』読者①北村季吟
第29回　近世の『源氏物語』読者②本居宣長
第30回　まとめと課題

●準備学習の内容

講義で取り上げる内容について予め参考文献を読んでくること。

●テキスト

プリントを配付する。

●参考書

講義中に適宜指示する。

●学生に対する評価

平常点（出席点は含まない）とレポート
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本文学特殊講義演習IA	4	関本　真乃

●授業の到達目標及びテーマ

中古・中世の文学について理解を深める。文献を正確に読解する力を養い、文学研究の基礎的な方法を身につける。

●授業の概要

中古・中世の物語を精読する。影響を受けた作品やことばの用例分析を行い、文化・歴史にも目を配りつつ、その物語の主題に迫る。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　『狭衣物語』①　巻1成立・評価・読解（狭衣の紹介）
第３回　『狭衣物語』②　巻1読解（源氏の宮恋慕）
第４回　『狭衣物語』③　巻1読解（飛鳥井の女君）
第５回　『狭衣物語』④　巻2読解（女二の宮出産）
第６回　『狭衣物語』⑤　巻2読解（狭衣の苦悩）
第７回　『狭衣物語』⑥　巻3読解（一品宮との結婚）
第８回　『狭衣物語』⑦　巻3読解（出家の決意）
第９回　『狭衣物語』⑧　巻4読解（宮の姫君）
第10回　『狭衣物語』⑨　巻4読解・主題分析（狭衣即位）
第11回　『狭衣物語』⑩『物語百番歌合』について
第12回　『夜の寝覚』①巻1成立・評価・読解（中の君懐妊）
第13回　『夜の寝覚』②巻2読解・構成（広沢）
第14回　『夜の寝覚』③中間欠巻部分・巻3 読解・表現分析（帝の思い）
第15回　『夜の寝覚』④巻4読解・構成（生霊騒ぎ）
第16回　『夜の寝覚』⑤巻5・末尾欠巻部分 読解・主題分析
第17回　『浜松中納言物語』①散逸首巻　成立・評価・読解
第18回　『浜松中納言物語』②巻1読解・表現分析（唐后）
第19回　『浜松中納言物語』③巻2読解・構成分析（帰国）
第20回　『浜松中納言物語』④巻3読解・人物造型分析（吉野）
第21回　『浜松中納言物語』⑤巻4読解・表現分析（吉野姫君）
第22回　『浜松中納言物語』⑥巻5読解・主題分析（吉野姫君懐妊）
第23回　『栄花物語』①巻1～巻10　成立・評価・文体分析
第24回　『栄花物語』②巻11～巻18　読解・表現分析
第25回　『栄花物語』③巻19～巻26　読解・構成分析
第26回　『栄花物語』④巻27～巻33　成立・評価・文体分析
第27回　『栄花物語』⑤巻34～巻40　読解・表現分析
第28回　『堤中納言物語』①成立・評価・読解（虫めづる姫君）
第29回　『堤中納言物語』②成立・評価・読解（貝合・ほどほどの懸想）
第30回　まとめと今後の課題

●準備学習の内容

予めテキストを配付するので、事前に読解し、語句等を調べておくこと。

●テキスト

プリントを配付する。

●参考書

講義中に適宜指示する。

●学生に対する評価

平常点（出席点は含まない）とレポート
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
日本文学特殊講義演習IB

■単位
4

■担当教員名
関本　真乃

●授業の到達目標及びテーマ
中古・中世の文学について理解を深める。文献を正確に読解する力を養い、文学研究の基礎的な方法を身につける。

●授業の概要
中古・中世の物語を精読する。影響を受けた作品やことばの用例分析を行い、文化・歴史にも目を配りつつ、その物語の主題に迫る。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　『とりかへばや物語』①成立と評価、巻1読解（若君と姫君）
第３回　『とりかへばや物語』②巻1読解・構成分析（四の君懐妊）
第４回　『とりかへばや物語』③巻2読解（宰相中将との関係）
第５回　『とりかへばや物語』④巻2読解・構成分析（中納言懐妊）
第６回　『とりかへばや物語』⑤巻3読解（大将失踪）
第７回　『とりかへばや物語』⑥巻3読解・構成分析（男君と女君の入れ替わり）
第８回　『とりかへばや物語』⑦巻4読解（帝、今尚侍を寵愛）
第９回　『とりかへばや物語』⑧巻4読解・主題分析（大団円）
第10回　『とはずがたり』①成立と評価、巻1読解（院との新枕）
第11回　『とはずがたり』②巻1読解（雪の曙との密会）
第12回　『とはずがたり』③巻2読解（粥杖事件）
第13回　『とはずがたり』④巻3読解（有明の月）
第14回　『とはずがたり』⑤巻4読解（東国）
第15回　『とはずがたり』⑥巻4読解（西国）
第16回　『とはずがたり』⑦巻5読解・主題分析（院崩御）
第17回　『しのびね』①成立と評価、読解（中納言と姫君の出会い）
第18回　『しのびね』②読解（中納言結婚、姫君は内侍に）
第19回　『しのびね』③読解（中納言と姫君の再会）
第20回　『しのびね』④読解・主題分析（男君出家遁世・帝の寵愛）
第21回　『しのびね』⑤読解（しのびね型の検討）
第22回　『松浦宮物語』①作者と評価、巻1読解（主人公紹介）
第23回　『松浦宮物語』②巻1読解（華陽公主）
第24回　『松浦宮物語』③巻2読解（反乱鎮圧）
第25回　『松浦宮物語』④巻3読解・主題分析（帰国）
第26回　『松浦宮物語』⑤偽跋分析
第27回　『無名草子』①成立と評価、読解・分析（序・源氏物語）
第28回　『無名草子』②読解・分析（その他の物語）
第29回　『無名草子』③読解・分析（女の論）
第30回　まとめと今後の課題

●準備学習の内容
予めテキストを配付するので、事前に読解し、語句等を調べておくこと。

●テキスト
プリントを配付する。

●参考書
講義中に適宜指示する。

●学生に対する評価
平常点（出席点は含まない）とレポート
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
日本文学特殊講義Ⅱ

■単位
4

■担当教員名
田中　綾

●授業の到達目標及びテーマ
テーマは「戦後短歌史の再評価」。敗戦後の日本に沸き起こった短歌否定論に対し、戦後派の歌人たち、そして前衛短歌運動を担った歌人たちはどのように回答したのか、具体的な作品評釈をとおして理解することを目標とする。

●授業の概要
テキストを精読し、戦後短歌史における第二芸術論議の影響の大きさ、さらに前衛短歌運動の意義を、具体的な作品評釈をしながら検証していく。

●授業計画
第１回　「二つの声」（1）斎藤茂吉
第２回　「二つの声」（2）近藤芳美
第３回　「傍観の知性」（1）近藤芳美の戦後
第４回　「傍観の知性」（2）歌集『埃吹く街』
第５回　「反英雄の道」（1）宮柊二の戦後
第６回　「反英雄の道」（2）歌集『小紺珠』
第７回　「戦後派の倫理の基盤」（1）近藤芳美『早春歌』
第８回　「戦後派の倫理の基盤」（2）宮柊二『山西省』
第９回　「短歌否定論と『八雲』」（1）短歌否定論
第10回　「短歌否定論と『八雲』」（2）雑誌『八雲』
第11回　「新歌人集団の結成」（1）戦後派
第12回　「新歌人集団の結成」（2）新歌人集団
第13回　「戦後派歌集の展開」（1）女性歌人
第14回　「戦後派歌集の展開」（2）魂のリアリズム
第15回　戦後派の短歌まとめ
第16回　「溶けるピアノ」（1）塚本邦雄
第17回　「溶けるピアノ」（2）歌集『水葬物語』
第18回　「前衛短歌時代の開幕」（1）「乳房喪失」
第19回　「前衛短歌時代の開幕」（2）「チェホフ祭」
第20回　「前衛短歌の磁力」（1）塚本邦雄『装飾楽句』
第21回　「前衛短歌の磁力」（2）岡井隆『斉唱』
第22回　「前衛短歌とは何か」（1）想像力の犯罪性
第23回　「前衛短歌とは何か」（2）寺山修司
第24回　「前衛短歌の収穫Ⅰ・塚本邦雄」
第25回　「前衛短歌の収穫Ⅱ・岡井隆」
第26回　「前衛短歌の収穫Ⅲ・寺山修司」
第27回　「前衛短歌の収穫Ⅳ・春日井建」
第28回　「前衛短歌時代の終幕とその後」（1）編集者・中井英夫
第29回　「前衛短歌時代の終幕とその後」（2）フェスティバル律
第30回　前衛短歌まとめ

●準備学習の内容
1945年から1964年の日本社会の情勢、政治的動向、文学史全般を事前に調べておくこと。

●テキスト
菱川善夫『歌のありか』（国文社、1980年）。

●参考書
講義時に適宜指示する。

●学生に対する評価
平常点（出席点は含まない）50%とレポート50%により評価する。
レポートの講評は個々にコメントを返却する。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本文学特殊講義演習ⅡA	4	田中　綾

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは「前衛短歌運動の意義」。塚本邦雄、岡井隆ら前衛短歌運動の騎手に加え、斎藤史、山中智恵子ら女性歌人の前衛性を確認し、自らの戦後短歌史構想を深めることを目標とする。

●授業の概要

テキストを精読し、前衛短歌運動の渦中の歌人たちの作品と、その前後の歌人たちの作品とに共通点を見出し、前衛短歌運動の意義を確認していく。

●授業計画

第１回　「斎藤史『うたのゆくへ』論」(1) 歌集『うたのゆくへ』
第２回　「斎藤史『うたのゆくへ』論」(2) ロマン主義の宣言
第３回　「塚本邦雄論・歌人からうたびとへ」(1) うたびと
第４回　「塚本邦雄論・歌人からうたびとへ」(2) 定型観の変貌
第５回　「塚本邦雄論・不滅の前衛精神」(1) 前衛短歌運動
第６回　「塚本邦雄論・不滅の前衛精神」(2) 前衛精神
第７回　「塚本邦雄が最後に視たもの」(1) 最終歌集
第８回　「塚本邦雄が最後に視たもの」(2) 歌集『約翰伝偽書』
第９回　「岡井隆歌集解説」(1) 文庫版『岡井隆歌集』
第10回　「岡井隆歌集解説」(2) 1970年代からの変化
第11回　「自己覚醒の発射装置」(1) 寺山修司
第12回　「自己覚醒の発射装置」(2) 歌集『田園に死す』
第13回　「想像力だけが権力を奪い得るか?」(1) 寺山修司の問い
第14回　「想像力だけが権力を奪い得るか?」(2) 言葉による革命
第15回　前期まとめ
第16回　「春日井建論」(1) 永遠の悲歌
第17回　「春日井建論」(2) 苦痛がもたらす此岸の蜜
第18回　「山中智恵子論」(1) 歌人・山中智恵子
第19回　「山中智恵子論」(2) きらめくロゴスの刃
第20回　「山中智恵子論」(3) アンドロギュノスへの道
第21回　「山中智恵子論」(4) 誄歌
第22回　「佐佐木幸綱論」(1) 歌人・佐佐木幸綱
第23回　「佐佐木幸綱論」(2)「しらべ」
第24回　「『夏の鏡』」(1) 初期佐佐木幸綱歌集
第25回　「『夏の鏡』」(2) 言葉の行動力と闇の認識
第26回　「権力対野性」
第27回　「福島泰樹論」(1) 歌人・福島泰樹
第28回　「福島泰樹論」(2) 死者のエチカを生者のエチカへ
第29回　「土の思想が前衛となるとき」
第30回　後期まとめと今後の課題

●準備学習の内容

取り上げる歌人の歌集は、国文社「現代歌人文庫」シリーズが入手しやすい。事前に読み込んでおくこと。

●テキスト

菱川善夫著作集7『前衛短歌の列柱　現代歌人論』(沖積舎、2011年)。

●参考書

講義時に適宜指示する。

●学生に対する評価

発表50%及び平常点(出席点は含まない)50%により評価する。
発表に対する講評は個々にコメントを返却する。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本文学特殊講義演習ⅡB	4	田中　綾

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは「現代短歌の美と思想」。昭和十年代のアンソロジー歌集『新風十人』に、危機時代における美と思想の表現を見出し、現代短歌の基点と位置づけた菱川短歌史観を確認する。そして、自らの戦後短歌史構想を深めることを目標とする。

●授業の概要

テキストを精読し、昭和十年代と戦後短歌史との共通点を見出してゆく。さらに、キーワード「美と思想」を、それぞれの作品評釈をとおして確認していく。

●授業計画

第１回　「美と思想」(1) 現代短歌未来論
第２回　「美と思想」(2) 反塚本美学の道
第３回　「実感的前衛短歌論」(1)「辞」の変革
第４回　「実感的前衛短歌論」(2) 笠原伸夫の論をめぐって
第５回　「戦後短歌史論」(1) 戦後とは何か
第６回　「戦後短歌史論」(2) 戦後短歌の基点
第７回　「続戦後短歌史論」(1) 批評基準
第８回　「続戦後短歌史論」(2) 岡井隆以後
第９回　「昭和短歌史」(1) 昭和三十年代
第10回　「昭和短歌史」(2) 戦後文学との差異
第11回　「楯としての前衛歌集」(1) 歌集『装飾楽句』
第12回　「楯としての前衛歌集」(2) 歌集『眼底紀行』
第13回　「現代短歌史論序説」(1) 歌集『新風十人』
第14回　「現代短歌史論序説」(2) 危機時代の美意識
第15回　前期まとめ
第16回　「現代短歌と近代短歌」(1) 現代短歌
第17回　「現代短歌と近代短歌」(2) 近代短歌
第18回　「昭和十年代短歌史評価の問題」(1) 昭和十年代短歌史
第19回　「昭和十年代短歌史評価の問題」(2) 太平洋戦争下の空白
第20回　「ゆがめられた戦後短歌史」(1) 前衛否定説
第21回　「ゆがめられた戦後短歌史」(2) 近代短歌伝統
第22回　「短歌批評の可能性」(1) 文学史とは何か
第23回　「短歌批評の可能性」(2) 玉城徹の論をめぐって
第24回　「『新風十人』の美と思想」(1) 屈折表現
第25回　「『新風十人』の美と思想」(2) 韜晦
第26回　「昭和十年代の花」(1) 歌集『新風十人』の表現
第27回　「昭和十年代の花」(2) 女性歌人の表現
第28回　「現代短歌における美と思想」(1) 象徴的美意識
第29回　「現代短歌における美と思想」(2) 辺境の思想
第30回　後期まとめと今後の課題

●準備学習の内容

取り上げる歌人の歌集は、国文社「現代歌人文庫」シリーズが入手しやすい。事前に読み込んでおくこと。

●テキスト

菱川善夫著作集4『美と思想　短歌史論』(沖積舎、2007年)。

●参考書

講義時に適宜指示する。

●学生に対する評価

発表50%及び平常点(出席点は含まない)50%により評価する。
発表に対する講評は個々にコメントを返却する。

■授業科目名
日本文学特殊講義Ⅲ

■単位
4

■担当教員名
月岡　道晴

●授業の到達目標及びテーマ
【テーマ】万葉歌から読み解く近現代の短歌文芸
【到達目標】明治近代国家が国民一体化の象徴として発明して以来、令和の現在でも「我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴する国書」（首相談話より）とされる『萬葉集』とその作品群が、近現代の短歌文芸に与えてきた影響の大きさを見定め、古典と現代を往還して文学作品を読む意義を理解する。

●授業の概要
近代における『萬葉集』信奉は、根岸短歌会を組織した正岡子規の「歌よみに与ふる書」（1898）に始まり、これを引き継いだアララギ派の伊藤左千夫から島木赤彦、斎藤茂吉、土屋文明へと受け継がれて歌壇を覆ったとの理解が一般的だが、明治23年（1890）に出版された日本初の文学史書の2冊には、いずれもこの集をわが国の聖典と見るべき記述が見える。万葉崇敬は決してアララギ派が占有していたわけではない。太平洋戦争後も形を変えて続いた『萬葉集』の影響の大きさを、近現代の歌人の論作と照らし合わせながら講述する。

●授業計画
第１回　『萬葉集』とはどんな和歌集なのか
第２回　『萬葉集』の歴史性・政治性
第３回　五七調と七五調――『萬葉集』から勅撰二十一代集へ
第４回　万葉歌とアニメーション作品
第５回　現代短歌における「相聞」・「挽歌」と万葉歌
第６回　夏目漱石『草枕』と万葉歌
第７回　賀茂真淵「ますらをぶり」と正岡子規「歌よみに与ふる書」
第８回　正岡子規「歌よみに与ふる書」と萬葉集巻十六の諧謔
第９回　正岡子規と近現代文学の〈写生〉について
第10回　近代国民国家「日本」における『萬葉集』の発明
第11回　佐佐木信綱による『校本萬葉集』の編纂と東京大学古典講習科
第12回　和歌の基本構造と現代の「棒立ち」短歌
第13回　枕詞・序詞と和歌の〈心物対応構造〉
第14回　〈見立て〉と世界を塗り替える想像力
第15回　和歌・短歌の比喩について――直喩・暗喩・換喩と提喩
第16回　和歌・短歌のオノマトペと音喩
第17回　和歌・短歌の固有名詞と〈歌枕〉
第18回　万葉歌の鑑賞と窪田空穂の「気分」
第19回　大伴家持『萬葉集』巻十九巻末「絶唱三首」と近代青年の「でりかしい」
第20回　釈迢空晩年の歌論「無内容な歌」の内容と万葉歌
第21回　「連作」作品について(1)――正岡子規と伊藤左千夫
第22回　「連作」作品について(2)――柿本人麻呂の七夕歌、梓弓と真弓、光厳院の燈火、橘曙覧
第23回　「連作」作品について(3)――齋藤茂吉「死にたまふ母」と近現代短歌の連作選
第24回　柿本人麻呂の長歌作品と窪田空穂「捕虜の死」
第25回　和歌・短歌文芸と戦争
第26回　万葉歌における長歌の変遷と高橋虫麻呂の伝説歌
第27回　万葉歌における呼称の表現性と短歌の一人称
第28回　現代短歌における〈文語〉／〈口語〉
第29回　多面的な表現者による短歌――工藤玲音／くどうれいん、小佐野彈、錦見映理子など
第30回　総まとめ

定期試験

●準備学習の内容
シラバスに予告している内容の万葉歌、近現代の短歌を読み込んでおくこと。

●テキスト
井手至・毛利正守編『新校注　萬葉集』（和泉書院、平20）

●参考書
品田悦一『万葉集の発明　新装版　国民国家と文化装置としての古典』（新曜社、令元）
小松靖彦『戦争下の文学者たち　「萬葉集」と生きた歌人・詩人・小説家』（花鳥社、令3）
三枝昂之『昭和短歌の精神史』（角川ソフィア文庫、平24）
高野公彦編『現代の短歌』（講談社学術文庫、平3）※絶版
山田航編著『桜前線開架宣言Born after 1970 現代短歌日本代表』（左右社、平27）

●学生に対する評価
コメントペーパー（評価用紙）50%、学年末レポート50%

■授業科目名
比較文学特殊講義Ⅱ

■単位
4

■担当教員名
杉江　聡子

●授業の到達目標及びテーマ
現代中国文学の閲読を通じて、中国の歴史、文化、社会問題についての理解を深めると共に、マルチモーダルなコミュニケーションの可能性を探究することを目的とする。

●授業の概要
現代中国の文学作品を取り上げ、中国語原文、日本語訳、実写コンテンツ等、異なるコミュニケーションモードを比較することにより、伝達する情報の内容、表現の手法、読者・視聴者の解釈の可能性を深める。テクスト分析等の手法を用いながら、作品理解と解釈の表象について実践を通じて理解を深め、混合研究法による文学研究の可能性を探究する。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　マルチモダリティとコミュニケーション概説
第３回　「三体」（原作）の訳読（前編）
第４回　「三体」（原作）の訳読（中編）
第５回　「三体」（原作）の訳読（後編）
第６回　「三体」（日本語訳）の閲読（前編）
第７回　「三体」（日本語訳）の閲読（中編）
第８回　「三体」（日本語訳）の閲読（後編）
第９回　「三体」（実写化映像）の視聴と解釈（前編）
第10回　「三体」（実写化映像）の視聴と解釈（中編）
第11回　「三体」（実写化映像）の視聴と解釈（後編）
第12回　「三体」のマルチモダリティ比較（前編）
第13回　「三体」のマルチモダリティ比較（中編）
第14回　「三体」のマルチモダリティ比較（後編）
第15回　作品理解と解釈のプレゼンテーション
第16回　質的研究概説
第17回　文学研究におけるリサーチ・クエスチョン
第18回　質的研究のデザイン
第19回　文学研究におけるデータ採取
第20回　文学研究におけるデータ分析
第21回　質的研究の結果の表象
第22回　文学研究のための諸課題
第23回　KHCoder を用いた計量テクスト分析
第24回　SCAT を用いた質的データ分析
第25回　異なるメディアで表現される「三体」：コード化
第26回　異なるメディアで表現される「三体」：構成概念
第27回　異なるメディアで表現される「三体」：解釈
第28回　異なるメディアで表現される「三体」：再文脈化
第29回　作品理解と解釈のプレゼンテーション（言語モード）
第30回　作品理解と解釈のプレゼンテーション（マルチモーダル）

●準備学習の内容
配布される資料や参考文献を事前に読み、内容を理解した上で、疑問点や自分の考えを整理しておくことが必要です。テキストや作品に出てくるキーワードの意味を調べ、把握しておくこと。発表が予定されている場合は、レジュメやスライドを作成し、参加者と事前に共有すること。授業ではノートテイキングを心がけ、質問やディスカッションを活発に行うことが求められます。データ分析やコンテンツ作成が予定されている場合は、データと PC を持参すること。

●テキスト
特になし（必要に応じて資料配布）

●参考書
『三体』（劉慈欣・著，立原透耶・監，大森望，光吉さくら，ワンチャイ・訳）（早川書房，2019）を参照することが望ましい。

●学生に対する評価
①平常点（出席点は含まない）②課題・成果物　③発表・プレゼンテーションの完成度と質に基づき総合的に評価する。課題・成果物、発表・プレゼンテーションのフィードバックは、授業内で個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
比較文学特殊講義演習ⅡA	4	杉江　聡子

●授業の到達目標及びテーマ

文学とその関連領域の研究デザインや方法論について、作品分析を通じて理解と研究応用力を身に付ける。類似のジャンルやトピックを扱う中国、日本、欧米等の文学作品を題材として、内容や表現に埋め込まれた社会文化的な特徴や表象に対する理解を深める。思考、情景、記憶等を表現する上で、言語以外のマルチモーダルな表現手法の可能性を探究する。

●授業の概要

文学研究の基本概念の導入として、研究デザインと方法論の基礎を紹介し、文学作品の分析と解釈の方法を探索します。中国と日本の他、異なる文化圏の類似ジャンルやトピックを扱う文学作品を比較研究することで、異文化間の相違点と共通点を理解し、作品がいかに社会文化的特徴や表象を反映しているかを分析します。言語に限らず、他の表現手法(例:視覚、聴覚、身体性等)を統合的に用いることで、思考、情景、記憶をどのように表現できるか、マルチモーダルな表現や文学作品を鑑賞する新しい視点を探ります。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　文学研究のデザイン
第３回　先行研究のレビュー：中国文学
第４回　先行研究のレビュー：日本文学
第５回　問い(リサーチクエスチョン)とデータ採取
第６回　文学研究の方法論と分析手法
第７回　文学研究の分析結果の表象
第８回　中国短編小説の閲読と解釈：夏笳「おやすみなさい、メランコリー」
第９回　中国短編小説の閲読と解釈：劉慈欣「月の光」
第10回　中国短編小説の閲読と解釈：韓松「潜水艇」「サリンジャーと朝鮮人」
第11回　中国短編小説の閲読と解釈：程婧波「さかさまの空」
第12回　中国短編小説の閲読と解釈：宝樹「金色昔日」
第13回　中国短編小説の閲読と解釈：郝景芳「正月列車」
第14回　中国短編小説の閲読と解釈：飛氘「ほら吹きロボット」
第15回　中国短編小説の閲読と解釈：張冉「晋陽の雪」
第16回　中国短編小説の閲読と解釈：吴霜「宇宙の果てのレストラン――臘八粥」
第17回　中国短編小説の閲読と解釈：馬伯庸「始皇帝の休日」
第18回　中国短編小説の閲読と解釈：顧適「鏡」
第19回　中国短編小説の閲読と解釈：王侃瑜「プレインボックス」
第20回　中国短編小説の閲読と解釈：陳楸帆「開光」「未来病史」
第21回　エッセイ：王侃瑜、宋明煒、飛氘
第22回　ネット小説の閲読と解釈：Twitter 小説(第１部)
第23回　ネット小説の閲読と解釈：Twitter 小説(第２部)
第24回　ネット小説の閲読と解釈：Twitter 小説(第３部)
第25回　ネット小説の閲読と解釈：Twitter 小説(第４部)
第26回　ジェンダー／セクシュアリティと小説：理論
第27回　ジェンダー／セクシュアリティと小説：分析
第28回　ジェンダー／セクシュアリティと小説：考察
第29回　作品の理解と解釈のプレゼンテーション
第30回　まとめと振り返り

●準備学習の内容

配布される資料や参考文献を事前に読み、内容を理解した上で、疑問点や自分の考えを整理しておくことが必要です。テキストや作品に出てくるキーワードの意味を調べ、把握しておくこと。発表が予定されている場合は、レジュメやスライドを作成し、参加者と事前に共有すること。授業ではノートテイキングを心がけ、質問やディスカッションを活発に行うことが求められます。データ分析やコンテンツ作成が予定されている場合は、データと PC を持参すること。

●テキスト

特になし(必要に応じて資料配布)

●参考書

『金色昔日』現代中国 SF アンソロジー(早川書房 , 2022)
『本当に欲しかったものは、もう』Twitter 文学アンソロジー(集英社 , 2023)を参照することが望ましい。

●学生に対する評価

①平常点（出席点は含まない）②課題・成果物　③発表・プレゼンテーションの完成度と質に基づき総合的に評価する。課題・成果物、発表・プレゼンテーションのフィードバックは、授業内で個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
比較文学特殊講義演習ⅡB	4	杉江　聡子

●授業の到達目標及びテーマ

中国と日本の怪奇小説を題材として、内容や表現に埋め込まれた社会文化的な特徴や表象、「奇妙さ」の演出と構成要素、異文化間の相違等について探究する。VR やメタバースを用いて文学作品の世界観をマルチモーダルな表現手法で創造、構築し、コミュニケーションツールとしての活用可能性を探究する。

●授業の概要

中国と日本には様々な怪奇小説(妖怪譚、怪談話)が残されています。「恐ろしさ」や「奇妙さ」は、人々の日常生活を構成している境界線がゆらぎ、変容する時に「非日常」体験として認識されるのではないでしょうか。日本や中国の作品を題材として、「怪奇」を構成する要素に関する異文化間比較を通じ、その社会文化的な特徴、表現や表象について理解を深めます。さらに、文学鑑賞を通じた表現と情報共有の一形態として、VRやメタバースを用いた作品世界の構築を行います。言語モードによる理解や解釈をバーチャル空間のマルチモーダルな表現へ転移させることで、文学を通じた新時代のコミュニケーションの可能性を探ります。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　日本妖怪譚：「鬼桃太郎」尾崎紅葉、「天守物語」泉鏡花
第３回　日本妖怪譚：「獅子舞考」柳田國男、「ざしき童子のはなし」宮澤賢治
第４回　日本妖怪譚：「ムジナ」小泉八雲、「貉」芥川龍之介「狢」瀧井孝作
第５回　日本妖怪譚：「最後の狐狸」檀一雄、「山姫」日影丈吉
第６回　日本妖怪譚：「屋上の怪音」徳田秋聲、「天狗」室生犀星
第７回　日本妖怪譚：「一反木綿」椋鳩十、「件」内田百閒
第８回　日本妖怪譚：「からかさ神」小田仁二郎、「邪恋」火野葦平
第９回　日本妖怪譚：「山妖海異」佐藤春夫、「荒譚」稲垣足穂
第10回　日本妖怪譚：「兵六夢物語」獅子文六、「化物の進化」寺田寅彦
第11回　中国怪奇小説(第１部)
第12回　中国怪奇小説(第２部)
第13回　中国怪奇小説(第３部)
第14回　中国怪奇小説(第４部)
第15回　中国怪奇小説(第５部)
第16回　中国怪奇小説(第６部)
第17回　中国怪奇小説(第７部)
第18回　VR・メタバースの基本：メタバース × 文学の可能性
第19回　VR・メタバースの基本：Spatial の設定と基本操作
第20回　作品世界の構築：空間デザイン
第21回　作品世界の構築：3D デザインツールを用いた 3D モデル加工
第22回　作品世界の構築：Blender の基本
第23回　作品世界の構築：Blender の応用
第24回　作品世界の構築：Blender を用いた 3D モデル加工
第25回　作品世界の構築：空間の実装
第26回　作品世界の構築：空間の修正
第27回　作品世界の構築：天球の実装
第28回　作品世界の構築：3D アセットの配置
第29回　作品世界の構築：動作テスト
第30回　成果発表：VR・メタバースを用いたプレゼンテーションと交流

●準備学習の内容

配布される資料や参考文献を事前に読み、内容を理解した上で、疑問点や自分の考えを整理しておくことが必要です。テキストや作品に出てくるキーワードの意味を調べ、把握しておくこと。発表が予定されている場合は、レジュメやスライドを作成し、参加者と事前に共有すること。授業ではノートテイキングを心がけ、質問やディスカッションを活発に行うことが求められます。データ分析やコンテンツ作成が予定されている場合は、データと PC を持参すること。

●テキスト

特になし(必要に応じて資料配布)

●参考書

『文豪妖怪名作選』(東京創元社 , 2017)
『中国怪奇小説集 新装版』(光文社 , 2006)
を参照することが望ましい。

●学生に対する評価

①平常点（出席点は含まない）②課題・成果物　③発表・プレゼンテーションの完成度と質に基づき総合的に評価する。課題・成果物、発表・プレゼンテーションのフィードバックは、授業内で個々にコメントする。

■授業科目名
［非開講］
日本思想特殊講義Ⅰ

■単位
4

■担当教員名
鈴木　英之

●授業の到達目標及びテーマ
テーマ：日本の文学作品を通じて、人々の願いや思いを感じ取る。
到達目標：古代から中世に成立した文学作品・資料から、人々の思いや願いを正確に読み取ることができるようになることを目指す。

●授業の概要
仏教の伝来以来、日本では神と仏が複雑に混じり合い、独自の文化・風土が生まれていった。本講義では、古代から中世に成立した文学作品（神話・説話・随筆・軍記）などの読解を通じて、日本文化の文学的表現の変遷について考えていきたい。

●授業計画
第１回　オリエンテーション
第２回　古事記・日本書紀の読解（天地開闢）
第３回　古事記・日本書紀の読解（国産み～黄泉国往還譚）
第４回　古事記・日本書紀の読解（三貴子の誕生と天石戸）
第５回　日本紀講筵（日本紀注釈の展開と表現）
第６回　日本紀講筵（日本紀注釈と中世日本紀）
第７回　日本霊異記の読解ならびに表現・技法の確認（仏教伝来説話）
第８回　日本霊異記の読解ならびに表現・技法の確認（輪廻転生説話）
第９回　日本霊異記の読解ならびに表現・技法の確認（地獄訪問説話）
第10回　往生要集の読解ならびに表現・技法の確認（厭離穢土に見る地獄・餓鬼・畜生の描写）
第11回　往生要集の読解ならびに表現・技法の確認（厭離穢土に見る修羅・人・天の描写）
第12回　往生要集の読解ならびに表現・技法の確認（欣求浄土）
第13回　往生要集の読解ならびに表現・技法の確認（極楽証拠）
第14回　往生要集の読解ならびに表現・技法の確認（正修念仏）
第15回　前期のまとめ
第16回　方丈記の読解ならびに表現・技法の確認
第17回　発心集の読解ならびに表現・技法の確認
第18回　今昔物語集の読解ならびに表現・技法の確認（往生説話）
第19回　今昔物語集の読解ならびに表現・技法の確認（地蔵説話）
第20回　今昔物語集の読解ならびに表現・技法の確認（神仏霊験説話）
第21回　今昔物語集の読解ならびに表現・技法の確認（釈迦の一代記と本生譚）
第22回　平家物語の読解ならびに表現・技法の確認
第23回　春日権現験記の読解ならびに表現・技法の確認
第24回　沙石集の読解ならびに表現・技法の確認（神仏説話の世界）
第25回　沙石集の読解ならびに表現・技法の確認（和歌陀羅尼観）
第26回　古今注の読解ならびに表現・技法の確認
第27回　太平記の読解ならびに表現・技法の確認
第28回　御伽草子（本地物）の読解ならびに表現・技法の確認（熊野）
第29回　御伽草子（本地物）の読解ならびに表現・技法の確認（諏訪）
第30回　一年のまとめ

●準備学習の内容
講義で取り上げる内容について予め参考書を読んでくること。

●テキスト
資料プリントを配付する。

●参考書
日本史小百科『神道』（東京堂出版）、ワードマップ『神道』（新曜社）、末木文美士『中世の神と仏』（日本史リブレット 32、山川出版社）、伊藤聡『神道とは何か ―神と仏の日本史』（中公新書 2158）など。このほかは授業中に指示する。

●学生に対する評価
平常点による（出席点は含まない）。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
［非開講］
日本思想特殊講義演習ⅠA

■単位
4

■担当教員名
鈴木　英之

●授業の到達目標及びテーマ
テーマ：親鸞の主著である『教行信証』の輪読を通じて、親鸞の極楽浄土に対する文学的な心情を読み取り、表現方法や叙述スタイルを確認する。
到達目標：文献を読解する能力を身につけ、調査した内容を他者に正確に伝える力を身につけること。

●授業の概要
真宗の祖・親鸞は、法然の浄土教学をもとに独自の教学大系を創りあげたが、その著作は仏教文学と言っても良いほど、豊かな表現で叙情的に人間親鸞の信仰心が表現されている。本講義演習では、親鸞の主著『教行信証』を文学的・語学的な観点から考察していく。

●授業計画
第１回　前期オリエンテーション
第２回　親鸞伝記に見る生涯
第３回　先行研究論文の輪読
第４回　先行研究論文の輪読
第５回　序の読解と注釈
第６回　序における親鸞のねらい
第７回　教巻の読解と注釈
第８回　教巻の読解と注釈（親鸞の狙いについて）
第９回　行巻の読解と注釈（真実行）
第10回　行巻の読解と注釈（諸仏称名願の概要）
第11回　行巻の読解と注釈（諸仏称名願の展開）
第12回　行巻の読解と注釈（諸仏称名願の経証ならびに領解）
第13回　行巻の読解と注釈（浄土祖師の解釈①　第一祖龍樹）
第14回　行巻の読解と注釈（浄土祖師の説②　第二祖天親）
第15回　前期のまとめ
第16回　後期オリエンテーション
第17回　行巻の読解と注釈（浄土祖師の説③　第三祖曇鸞）
第18回　行巻の読解と注釈（浄土祖師の説④　第四祖道綽）
第19回　行巻の読解と注釈（浄土祖師の説⑤　第五祖善導）
第20回　行巻の読解と注釈（浄土祖師の説⑥　第六祖源信）
第21回　行巻の読解と注釈（浄土祖師の説⑦　第七祖源空）
第22回　行巻の読解と注釈（親鸞の領解）
第23回　行巻の読解と注釈（称名の偏数について）
第24回　行巻の読解と注釈（結語）
第25回　行巻の読解と注釈（他力の意義）
第26回　行巻の読解と注釈（一乗海）
第27回　行巻の読解と注釈（念仏と諸善の比較）
第28回　行巻の読解と注釈（本願念仏を嘆いて一乗人に告ぐ）
第29回　行巻の読解と注釈（正信念仏偈）
第30回　後期のまとめ

●準備学習の内容
講義で取り上げる内容について予め参考文献を読んでくること。

●テキスト
『真宗史料集成』一（同朋舎）。

●参考書
親鸞『教行信証』（岩波文庫）、日本古典文学大系 82『親鸞集・日蓮集』（岩波書店）、末木文美士『親鸞』（ミネルヴァ書房）。この他は適宜教場で紹介する。

●学生に対する評価
平常点による（出席点は含まない）。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
［非開講］ 日本思想特殊講義演習ＩＢ	4	鈴木　英之

●授業の到達目標及びテーマ

テーマ：慈遍『豊葦原神風和記』の読解を通じて、日本中世の宗教文芸の表現・叙述スタイルを学ぶ。

到達目標：宗教文芸から著者の意図を正確に読み取り、他者に発表できる能力を身につける。

●授業の概要

『豊葦原神風和記』は、鎌倉末期の天台僧慈遍によって編まれた典籍である。興国元年(1340)に新待賢門院に献上されたもので、日本の神々の姿や縁起が和文（平易な表現）で述べられるなど、宗教文芸としての側面をもつ。本授業では、『豊葦原神風和記』を文学的に読み解くことによって、慈遍の表現方法や叙述方法を読み取りたい。

●授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　中世の宗教文芸について
第３回　神道大意①（天地開闢）
第４回　神道大意②（一人之皇徳）
第５回　神道大意③（要文）
第６回　天地開闢①（前半部）
第７回　天地開闢②（後半部）
第８回　天地開闢③（要文）
第９回　天神七代①（国常立尊～諾冉二神）
第10回　天神七代②（素盞烏尊）
第11回　天神七代③（要文）
第12回　地神五代①（天照大神）
第13回　地神五代②（正哉吾勝尊～鵜草葺不合尊）
第14回　地神五代③（要文）
第15回　両宮鎮座①（三種神器）
第16回　両宮鎮座②（両宮鎮座）
第17回　神態忌物①（伊奘冉尊の死と忌み）
第18回　神態忌物②（不浄と内外潔斎）
第19回　神業忌物③（要文）
第20回　尊神霊験①（倭姫命皇女詔）
第21回　尊神霊験②（三種神）
第22回　尊神霊験③（要文）
第23回　仏神同異①（仏法以前）
第24回　仏神同異②（神道・仏教の交替説話）
第25回　仏神同異③（要文）
第26回　仏神誓別①（混沌之始）
第27回　仏神誓別②（慈遍自跋）
第28回　仏神誓別③（要文）
第29回　学生の考察・発表
第30回　全体のまとめ

●準備学習の内容

講義で取り上げる内容について、予め参考文献を読んでくること。

●テキスト

慈遍『豊葦原神風和記』（神道大系『天台神道（上）』所収）。

●参考書

日本史小百科『神道』（東京堂出版）、ワードマップ『神道』（新曜社）、末木文美士『中世の神と仏』（日本史リブレット32、山川出版社）、伊藤聡『神道とは何か　―神と仏の日本史』（中公新書2158）。このほかは授業中に指示する。

●学生に対する評価

平常点による（出席点は含まない）。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本思想特殊講義Ⅱ	4	大石　和久

●授業の到達目標及びテーマ

テーマ：映画と「表象」

到達目標：映画の「表象」としての性質についての理解を，具体的作品分析に即しつつ，理論的に深める。

●授業の概要

現在「表象」という語が意味しているのは，外的対象の忠実な再現としてのイメージではなく，文化的にコード化され，政治的意味合いを担ったイメージのことだろう。本講義では映画をその「表象」の一例として捉えたい。ただし，映画をそのような「表象」に還元することも同時に警戒しつつ。というのも映画は「表象」としての自己を裏切り，それに亀裂をもたらすような力も持っているように思われるからである。また，この講義では外国語（英語や仏語）の文献の講読を行う。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　表象とは何か(1)表象の定義
第３回　表象とは何か(2)表象の種類
第４回　表象とは何か(3)表象の政治性
第５回　映像とは何か(1)映像の定義
第６回　映像とは何か(2)映像の種類
第７回　映像とは何か(3)映像の政治性
第８回　映像としての映画(1)映画の基本的表現素材としての映像
第９回　映像としての映画(2)運動イメージとしての映画
第10回　映像としての映画(3)時間イメージとしての映画
第11回　表象としての映画(1)映画のイデオロギー性
第12回　表象としての映画(2)映画とリアリズム
第13回　表象としての映画(3)映画の政治性
第14回　映像と文化的コード(1)映画における文化的コード
第15回　映像と文化的コード(2)映画のコノテーション
第16回　映像と文化的コード(3)映画のカルチュラル・スタディーズ
第17回　映画の修辞学(1)映画の記号論
第18回　映画の修辞学(2)映画的隠喩
第19回　映画の修辞学(3)映画的換喩
第20回　映画と政治(1)差別的表象
第21回　映画と政治(2)フェミニズム
第22回　映画と政治(3)地域の表象
第23回　映画テキスト分析(1)映画とテキスト
第24回　映画テキスト分析(2)映画テキスト分析の方法
第25回　映画テキスト分析(3)具体的作品の分析
第26回　映画の可能性(1)映画的リアリズムの可能性
第27回　映画の可能性(2)人間を越え出る映画
第28回　映画の可能性(3)映画の脱イデオロギー性
第29回　映画と表象
第30回　総括

●準備学習の内容

講義で取り上げる映画については予めチェックし、調べておくこと。

●テキスト

配布プリント

●参考書

講義内で紹介する。

●学生に対する評価

平常点による（出席点は含まない）。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
日本思想特殊講義演習ⅡA

■単位
4

■担当教員名
大石　和久

●授業の到達目標及びテーマ
テーマ：「表象」についての理論的考察
到達目標：「表象」についての理解を，主に映画を具体例として取り上げながら，理論的テクストを読み込むことで深めてゆく。

●授業の概要
「表象」をめぐる映画理論の諸問題について検討する。

●授業計画
第１回　映画とリアリズム(1)映像とリアリティ
第２回　映画とリアリズム(2)映像の信憑性
第３回　映画とリアリズム(3)映像による自然化
第４回　映画とリアリズム(4)映像の政治学
第５回　映画とリアリズム(5)映像とシュルレアリスム
第６回　映画とテクスト(1)テクストとしての映像
第７回　映画とテクスト(2)イデオロギー
第８回　映画とテクスト(3)反省性
第９回　映画とテクスト(4)エクリチュール
第10回　映画とテクスト(5)間テクスト性
第11回　映画と精神分析(1)映像と精神分析
第12回　映画と精神分析(2)同一化
第13回　映画と精神分析(3)縫合
第14回　映画と精神分析(4)まなざし
第15回　映画と精神分析(5)フェミニズム
第16回　映画と現象学(1)映像と知覚
第17回　映画と現象学(2)映像と想像
第18回　映画と現象学(4)運動と知覚
第19回　映画と現象学(5)映画と他の諸芸術
第20回　映画と現象学(1)映画は現象学的か？
第21回　映画とベルクソニスム(1)「イマージュ」と知覚
第22回　映画とベルクソニスム(2)ベルクソンの芸術論と映画
第23回　映画とベルクソニスム(3)ベルクソンの映画論
第24回　映画とベルクソニスム(4)アンドレ・バザン
第25回　映画とベルクソニスム(5)ジル・ドゥルーズ
第26回　表象と映画(1)政治
第27回　表象と映画(2)ジェンダー
第28回　表象と映画(3)権力
第29回　表象と映画(4)言説
第30回　表象と映画(5)哲学

●準備学習の内容
予習として、本演習で取り上げるテキストに出てくるキーワードを探しだし、その意味を把握しておくこと。

●テキスト
講義開始時に指示する。

●参考書
随時紹介する。

●学生に対する評価
平常点による(出席点は含まない)。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
日本思想特殊講義演習ⅡB

■単位
4

■担当教員名
大石　和久

●授業の到達目標及びテーマ
テーマ：修士論文作成
到達目標：自ら問題を設定し，修士論文を完成させることを通して，自らの研究を深めてゆく態度を養う。

●授業の概要
修士論文を完成するために必要な基礎的なスキルを身につけながら，実際に論文を仕上げてゆく。

●授業計画
第１回　オリエンテーション
第２回　問題設定
第３回　概要提出
第４回　資料収集(1)図書館利用法
第５回　資料収集(2)ウエッブ利用法
第６回　資料収集(3)映像資料を探す
第７回　資料収集(4)文献を探す
第８回　資料整理(1)映像資料を整理する
第９回　資料整理(2)文献資料を整理する
第10回　映像紹介(1)映像資料(主に映画)を紹介する
第11回　映像紹介(2)映像資料(映画以外)を紹介する
第12回　文献講読(1)表象と文化
第13回　文献講読(2)表象としての映画
第14回　文献講読(3)表象と権力
第15回　文献講読(4)表象とイデオロギー
第16回　論文中間発表(1)進捗状況
第17回　論文中間発表(2)問題点の指摘
第18回　論文指導(1)問題設定の検討
第19回　論文指導(2)問題設定の決定
第20回　論文指導(3)映像文献の考察
第21回　論文指導(4)文献資料の考察
第22回　論文指導(5)資料分析
第23回　論文指導(6)章立ての検討
第24回　論文指導(7)章立ての決定
第25回　論文指導(8)全体構成の検討
第26回　論文指導(9)全体構成の決定
第27回　論文指導(10)文章表現の吟味
第28回　論文指導(11)最終チェック
第29回　論文指導(12)完成
第30回　総括

●準備学習の内容
毎回、修士論文作成のための課題を出すので、その課題をこなしてくること。

●テキスト
講義開始時に指示する。

●参考書
随時紹介する。

●学生に対する評価
修士論文への取り組みと完成度を評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 日本語研究特殊講義Ⅰ	■単位 4	■担当教員名 丸島　歩

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは「やさしい日本語と複言語・複文化主義」。このテーマに沿った、あるいは隣接する領域を扱った論文や書籍を読み、多文化共生や複言語主義について多面的に考えることができるようになることを目標とする。

●授業の概要

ことばのやさしさ、日本における外国人受け入れの現況、障害者を取り巻くことばの様相などに関連する論文等を読みながら、複言語・複文化主義について考える。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　やさしい日本語とは何か
第３回　情報のユニバーサルデザイン
第４回　複言語・複文化主義とは何か
第５回　複言語・複文化主義の形成と展開
第６回　複言語主義理念の受容
第７回　CEFR と複言語主義
第８回　日本の地方部における多文化化対応の現況
第９回　山間地域における多文化化対応
第10回　外国人技能実習生の受入れ政策
第11回　地方・農村における外国人住民との共生
第12回　定住者・永住者集住地域の教育的課題
第13回　地方部における日本語学習支援
第14回　外国ルーツの子どもたちへの教育支援
第15回　日本語教育とやさしさ①日本人による日本語の学び直し
第16回　日本語教育とやさしさ②日本社会における複文化・複言語主義の可能性
第17回　日本語教育とやさしさ③EPA に基づく看護師・介護福祉士候補者の受入れ
第18回　日本語教育とやさしさ④EPA 看護師・介護福祉士候補者への「配慮」の様相
第19回　医療現場における「方言」のやさしさ
第20回　ろう者が語る社会と教育①聴者の家庭に生まれたろう者
第21回　ろう者が語る社会と教育②デフファミリーに生まれたろう者
第22回　ろう教育における「やさしさ」の諸相①口話主義者による「やさしさ」の形
第23回　ろう教育における「やさしさ」の諸相②「言語権」という「やさしさ」の形
第24回　批判的談話分析を通して見るコミュニケーションの「やさしさ」①「硬直した道」と「やさしい道」
第25回　批判的談話分析を通して見るコミュニケーションの「やさしさ」②三宅洋平の「選挙フェス」の談話分析を題材に
第26回　留学生のライフストーリー研究を通して見る「やさしさ」
第27回　「移動する子ども」の複数言語能力
第28回　継承語教育とアイデンティティ
第29回　マイノリティと多様なリテラシー
第30回　まとめ

●準備学習の内容

事前に課題論文を読み、問題点や疑問点を整理しておく。

●テキスト

特に定めない。必要な論文等は授業内で指示する。

●参考書

・細川英雄・西山教行（編）（2010）『複言語・複文化主義とは何か―ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』くろしお出版
・徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子（編著）（2019）『地方発 外国人住民との地域づくり―多文化共生の現場から』晃洋書房
・義永美央子・山下仁（編）（2015）『ことばの「やさしさ」とは何か―批判的社会言語学からのアプローチ』三元社
・佐々木倫子（編）（2014）『マイノリティの社会参加―障害者と多様なリテラシー』くろしお出版
・川上郁雄・三宅和子・岩﨑典子（編）（2018）『移動とことば』くろしお出版

授業内で上記以外の文献・資料を紹介することがある。

●学生に対する評価

平常点（出席点を含まない）とレポートにより、総合的に評価する。
課題の実施結果については、個々にコメントする。

■授業科目名 日本語研究特殊講義演習ⅠA	■単位 4	■担当教員名 丸島　歩

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは「日本語教育学の概観とその領域と手法の把握」。日本語教育学が扱う領域を知り、目的に合った研究手法が選択できるようになることが目標である。

●授業の概要

テキストを追いながら関連する論文を講読し、その研究目的や手法を把握する。また、実際のデータとテキストに書かれた手法を用いて分析・考察を行う。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　日本語教育研究の歴史と現状
第３回　日本語に関する研究
第４回　学習者に関する研究
第５回　教育と社会に関する研究
第６回　日本語教育研究の進め方①目的と先行研究
第７回　日本語教育研究の進め方②研究計画
第８回　日本語教育研究の進め方③論文の構成
第９回　日本語教育研究の進め方④研究の倫理と社会的責任
第10回　量的研究の方法①コーパス
第11回　量的研究の方法②教材分析
第12回　量的研究の方法③言語使用調査、テストとインタビュー
第13回　量的研究の方法④語彙リスト
第14回　量的研究の方法⑤記述統計
第15回　量的研究の方法⑥t 検定
第16回　量的研究の方法⑦分散分析
第17回　量的研究の方法⑧カイ二乗検定
第18回　量的研究の方法⑨因子分析
第19回　量的研究の方法⑩共分散分析
第20回　質的研究の方法①質的研究の意義
第21回　質的研究の方法②質的研究の手法
第22回　質的研究の方法③談話分析
第23回　質的研究の方法④フィールドワークとライフストーリー研究
第24回　質的研究の方法⑤半構造化・非構造化インタビュー
第25回　質的研究の方法⑥データの分析
第26回　日本語教育学研究のこれから
第27回　論文講読①日本語に関する研究
第28回　論文講読②学習者に関する研究
第29回　論文講読③教育と社会に関する研究
第30回　まとめ

●準備学習の内容

事前に該当する教科書の章を読み、内容を確認する。指示があった場合は関連する論文を事前に読み、問題点や疑問点を整理しておく。
授業内でデータ分析を行うために、事前のデータの準備と PC の持参を求めることがある。

●テキスト

本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子（2019）『[改訂版] 日本語教育学の歩き方―初学者のための研究ガイド』大阪大学出版会

●参考書

授業内で適宜紹介する。

●学生に対する評価

平常点（出席点を含まない）と課題、レポートにより総合的に評価する。
課題の実施結果については、個々にコメントする。

■授業科目名
日本語研究特殊講義演習ＩＢ

■単位
4

■担当教員名
丸島　歩

●授業の到達目標及びテーマ
日本語や日本語音声に関するテーマを各自で設定し、調査を行い、修士論文等にその成果をまとめる。

●授業の概要
毎週の授業計画にしたがって、各自の研究の進捗状況を報告する。受講者と担当教員でその内容を検討する。

●授業計画
第１回　ガイダンス（修士論文執筆に向けて）
第２回　テーマ設定
第３回　テーマの検討
第４回　研究目的の設定
第５回　先行研究の探索
第６回　先行研究の講読
第７回　先行研究の整理
第８回　研究目的の再設定
第９回　調査方法の検討
第10回　予備調査の実施
第11回　予備調査の粗解析
第12回　調査方法の修正
第13回　本調査の実施
第14回　データの整理
第15回　データの観察
第16回　データの分析
第17回　論文の執筆①（研究の背景と目的）
第18回　論文の執筆②（調査方法）
第19回　論文の執筆③（調査結果の提示）
第20回　論文の執筆④（図表の作成）
第21回　論文の執筆⑤（考察の執筆）
第22回　論文の執筆⑥（先行研究の要約・整理）
第23回　論文の執筆⑦（考察の加筆）
第24回　論文の執筆⑧（結論の執筆）
第25回　論文の執筆⑨（研究の背景と目的の修正）
第26回　論文の執筆⑩（考察の修正）
第27回　論文の執筆⑪（結論の修正）
第28回　論文の執筆⑫（書式の調整、全体の修正）
第29回　論文の執筆⑬（最終確認）
第30回　総括

●準備学習の内容
毎週の授業計画と授業内での議論をもとに、研究に必要な作業を進める。

●テキスト
使用しない。

●参考書
授業内で適宜紹介する。

●学生に対する評価
平常点（出席点を含まない）、調査や論文の取り組みや成果により、総合的に評価する。

■授業科目名
日本語研究特殊講義Ⅱ

■単位
4

■担当教員名
徳永　良次

●授業の到達目標及びテーマ
テーマ：「日本語の歴史的研究」
言語は現代語だけでは説明できない事象の積み重ねと言える。その事象を、さまざまな観点から概観していくことを通じて、日本語の歴史的変遷と現代語の成立について理解していくことを目標とする。

●授業の概要
日本語史に関する概説書を丹念に読んでいく。その際に、不明な点や専門用語については、その都度解釈を加え、あるいは解読していく。特に、あまり意識されない「資料がない場合の対策」「資料に語らせる」などといった、現代語研究ではそもそも意識すらしない問題について考えていく。

●授業計画
第１回　はじめに（ガイダンス、テキストについて、講義のすすめ方）
第２回　ことばは変化する　歴史言語学序説
第３回　ことばはなぜ変化するのか　社会の変化とことばの変化
第４回　ことばはなぜ変化するのか　話し手の交替、効率的な言語使用
第５回　信頼できるテキストを求めて　古い文献による歴史の推定
第６回　信頼できるテキストを求めて　古典文献の本文の性格
第７回　信頼できるテキストを求めて　本文批判
第８回　文献にあらわれた言語の性格
第９回　文献の表記と言語の関係
第10回　文献にあらわれた言語の位相
第11回　文献資料のもつ地域性
第12回　文献による言語の歴史　語の歴史
第13回　文献による言語の歴史　文法の歴史
第14回　文献による言語の歴史　発音の歴史
第15回　日本語の系統
第16回　比較方言学とその方法
第17回　言語地理学の方法
第18回　比較方言学と言語地理学の差異
第19回　言語史
第20回　言語の伝播速度を計算する
第21回　言語の体系性と言語の歴史　活用
第22回　言語の体系性と言語の歴史　五十音図の体系性
第23回　言語の体系性と言語の歴史　露出形と被覆形
第24回　内的再建と比較法・文献言語史　導入
第25回　内的再建と比較法・文献言語史　ハ行子音
第26回　言語の社会的変種と言語変化
第27回　言語の年齢差と言語変化
第28回　年齢差と地域差
第29回　文献ガイド
第30回　まとめ

●準備学習の内容
次回の講義内容について、事前にテキストを精読しておく。その際に不明な点や専門用語などがあれば、 講義の際に質問し解決できるようにしておく。

●テキスト
大木一夫『ガイドブック日本語史』ひつじ書房

●参考書
適宜紹介する

●学生に対する評価
テキストの事前準備と復習を含めた平常点（50％、出席点は含まない）、レポート等の課題（50％）。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本語研究特殊講義演習ⅡA	4	徳永　良次

●授業の到達目標及びテーマ

テーマ：ひらがな表記文献の日本語史的研究

資料を読むとはどのようなことかを具体的に学んでいく。また、それによって日本語の構造や成立・発展などについて総合的に考える力を養うことを目的とする。

日本語の、なるべく古い写本を丹念に読み込んでいくことで、現行の活字製本された資料では見落としてしまう事象について検討していく。この作業を通して、日本語の歴史的変化を体系的に理解することを目標とする。

●授業の概要

古今和歌集の古写本を読む。平安時代以降，長年にわたって知識人の教養書として，また、美術品として扱われてきた古今和歌集は多くの写本を残している。なかでも『元永本古今和歌集』は年紀の明確な完存している最古級の写本である。これらは現在影印・翻刻が公刊されているので、丹念に読み解いていくことで、古代日本語文献の研究方法を深める。

●授業計画

第１回　資料の概要
第２回　古今和歌集について
第３回　『元永本古今和歌集』について
第４回　書誌概略
第５回　変体仮名の読み方
第６回　『元永本古今和歌集』の仮名
第７回　仮名序を読む 1 和歌の本質
第８回　仮名序を読む 2 和歌の成立
第９回　仮名序を読む 3 六歌仙
第10回　仮名序を読む 4 古今和歌集の成立
第11回　『元永本古今和歌集』上巻について
第12回　『元永本古今和歌集』上巻　文字について
第13回　『元永本古今和歌集』上巻　表記形式について
第14回　『元永本古今和歌集』上巻　仮名遣い
第15回　『元永本古今和歌集』上巻　語法
第16回　『元永本古今和歌集』上巻　いわゆる万葉書について
第17回　『元永本古今和歌集』下巻について
第18回　『元永本古今和歌集』下巻　文字について
第19回　『元永本古今和歌集』下巻　表記形式について
第20回　『元永本古今和歌集』下巻　仮名遣い
第21回　『元永本古今和歌集』下巻　語法
第22回　『元永本古今和歌集』下巻　いわゆる万葉書について
第23回　『元永本古今和歌集』の研究史
第24回　平安時代の古今和歌集古写本　高野切
第25回　伝公任筆写本
第26回　その他古写本について概観
第27回　鎌倉時代の古写本　定家本
第28回　定家本古今和歌集の概観
第29回　定家による証本作成
第30回　まとめ

●準備学習の内容

変体仮名の資料なので、演習時間だけでは理解することは困難。事前・事後の自主的な学習が絶対に必要となる。

●テキスト

『元永本古今和歌集』全４冊（二玄社）
各自で準備すること

●参考書

適宜指示する

●学生に対する評価

発表（資料・内容）50％　討議の内容 30％、事前準備 20％。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本語研究特殊講義演習ⅡB	4	徳永　良次

●授業の到達目標及びテーマ

テーマ：漢字カナ交り文献の日本語史的研究

到達目標：資料を読むとはどのようなことかについて、具体的に原典を読む。また、それによって日本語の構造・成立・発展などについて総合的に考える力を養うことを目標とする。

●授業の概要

『明恵上人夢記』を読む。

鎌倉時代の明恵上人高弁は青年期から数十年にわたって自分の夢を記録として残してきている。これらは現在影印・翻刻として公開されているものが現存する。これを丹念に読むことで、古代日本語文献に対する研究方法と理解を深める。

●授業計画

第１回　取り扱う資料について
第２回　明恵上人について
第３回　夢記について
第４回　書誌概略
第５回　第一編　某年記事
第６回　第一編　建久七年春
第７回　第二編　建久七年八月
第８回　第三編　建仁元年成弁夢記
第９回　第四編　建仁三年
第10回　第五編　元久元年
第11回　第六編　元久元年某月
第12回　第六編　某年二月
第13回　第六編　某下段
第14回　第七編　元久二年
第15回　第七編　建永元年
第16回　第七編　建永後半
第17回　第八編　建永元年十一月夢記
第18回　第九編　建保六年
第19回　第九編　建保七年
第20回　第十編　承久二年
第21回　第十一編　寛喜二年
第22回　第十二編　年紀不明
第23回　第十三編　某年某月夢記　四十経疏ノ事
第24回　第十三編　某年某月夢記　春日明神ノ事
第25回　第十四編　年紀不明の夢記条
第26回　第十五編　年紀不明の夢記条
第27回　第十六編　年紀不明の夢記条
第28回　夢記の言語について
第29回　夢の構成と研究史
第30回　まとめ

●準備学習の内容

漢文文献で難解な文章である。テキストの下読みは当然、関連する参考資料をよく読んでおくことが必要となる。

●テキスト

『明恵上人資料第二』（東京大学出版会）の該当箇所を各自コピーして準備すること

●参考書

適宜指示する

●学生に対する評価

発表資料 50％、討議の内容（理解度を含む）50％
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本史特殊講義Ⅰ	4	片岡　耕平

●授業の到達目標及びテーマ

・テーマ：徳政論の再構築

・到達目標：日本中世の社会経済史・法制史研究の流れの一端を理解する。論文と史料から引き出した情報に基づいて論理を組み立てる方法を身につける。

●授業の概要

日本の中世社会を特徴づける事象の１つに徳政がある。１つの法令が発せられるだけで、債権や契約が無化されるという現象は、多くの研究者の関心をひき、とりわけ経済史・法制史の視点からの分析が数多く発表されている。それらを読み解きながら、最終的には、新たな徳政の位置づけに到達することを目指す。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　歴史学とは何か
第３回　中世の土地売買と付帯条件
第４回　笠松宏至『徳政令　中世の法と習慣』(岩波書店、1983 年)
第５回　もののもどり：笠松宏至の想定
第６回　勝俣鎮夫『戦国法成立史論』(東京大学出版会、1979 年)
第７回　土地の力：勝俣鎮夫の想定
第８回　菅野文夫「中世における土地売買と質契約」(『史学雑誌』、1984 年)
第９回　井原今朝男『中世日本の信用経済と徳政令』(吉川弘文館、2015 年)
第10回　中世の売買契約と質契約：菅野文夫・井原今朝男の想定
第11回　黒田基樹『戦国期の債務と徳政』(校倉書房、2009 年)
第12回　長谷川裕子『中近世移行期における村の生存』(校倉書房、2009 年)
第13回　中世の平和・生存・相互扶助：黒田基樹と長谷川裕子の想定
第14回　レポートの内容報告
第15回　まとめ
第16回　前期の復習
第17回　早島大祐『徳政令　なぜ借金は返さなければならないのか』(講談社、2018 年)
第18回　ものはもどらない：早島大祐の想定
第19回　桑山浩然『室町幕府の政治と経済』(吉川弘文館、2006 年)
第20回　室町幕府法の検討
第21回　稲葉伸道「新制の研究　徳政との関連を中心に」(『史学雑誌』、1987 年)
第22回　水戸部正男『公家新制の研究』(創文社、1961 年)
第23回　公家新制の検討
第24回　六国史における「徳政」：即位・立太子
第25回　六国史における「徳政」：災異・改元
第26回　真木悠介『時間の比較社会学』(岩波書店、2003 年)
第27回　反復する時間の生成と消滅：真木悠介の想定
第28回　時のもどりと徳政
第29回　レポートの内容報告
第30回　まとめ

●準備学習の内容

上記の文献を事前に読み、疑問点・問題点をまとめておく（２時間）。

●テキスト

上記の文献。

●参考書

必要に応じて紹介。

●学生に対する評価

質疑などの参加姿勢：５０点　　期末レポート：５０点

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本史特殊講義演習ＩＡ	4	片岡　耕平

●授業の到達目標及びテーマ

・テーマ：『看聞日記』を用いて中世後期の京都周辺の文化・背景を研究する。

・到達目標：中世後期の日記を講読し、歴史学研究に不可欠な思考力・判断力・表現力を身に付ける。調査した内容を報告し、報告に基づいて議論する技術を高める。

●授業の概要

南北朝期から室町時代前期を生きた伏見宮貞成の日記『看聞日記』を講読する。皇位継承のラインから外れた貞成は、洛中で展開されている政治からは距離を置き、伏見で文化的活動に勤しんでいた。『看聞日記』には、そのような立場だからこそ見えていた当時の政治状況や文化の諸相が記されている。中世後期の京都周辺の文化・背景を感じてほしい。

●授業計画

第１回　ガイダンス・書誌情報の確認
第２回　南北朝の内乱と伏見宮家
第３回　伏見宮貞成の生涯：宮家の継承
第４回　伏見宮貞成の生涯：伏見にて
第５回　伏見宮貞成の生涯：京都へ
第６回　『看聞日記』応永２３年正月前半（正月の儀式）
第７回　『看聞日記』応永２３年正月後半（伏見の春）
第８回　『看聞日記』応永２３年２月前半（２月の儀式）
第９回　『看聞日記』応永２３年２月後半（宮家の人々）
第10回　『看聞日記』応永２３年３月前半（３月の儀式）
第11回　『看聞日記』応永２３年３月後半（伏見の人々）
第12回　『看聞日記』応永２３年４月前半（４月の儀式）
第13回　『看聞日記』応永２３年４月後半（京の人々）
第14回　レポートの内容報告
第15回　まとめ
第16回　ガイダンス
第17回　『看聞日記』応永２３年５月前半（５月の儀式）
第18回　『看聞日記』応永２３年５月後半（伏見の夏）
第19回　『看聞日記』応永２３年６月前半（６月の儀式）
第20回　『看聞日記』応永２３年６月後半（宮家の芸能：音楽）
第21回　『看聞日記』応永２３年７月前半（７月の儀式）
第22回　『看聞日記』応永２３年７月後半（宮家の芸能：連歌）
第23回　『看聞日記』応永２３年８月前半（８月の儀式）
第24回　『看聞日記』応永２３年８月後半（伏見の秋）
第25回　『看聞日記』応永２３年９月前半（９月の儀式）
第26回　『看聞日記』応永２３年９月後半（宮家の芸能：猿楽）
第27回　『看聞日記』応永２３年１０月前半（１０月の儀式）
第28回　『看聞日記』応永２３年１０月後半（室町殿との関係）
第29回　レポートの内容報告
第30回　まとめ

●準備学習の内容

報告担当者は、レジュメ作成。その他の参加者は、事前に史料を読んでおく（１時間）。

●テキスト

・『続群書類従補遺２上　看聞日記 上』(続群書類従完成会、1985 年)
・横井清『室町時代の一皇族の生涯　『看聞日記』の世界』(講談社、2002 年)

●参考書

必要に応じて紹介。

●学生に対する評価

報告・質疑などの参加姿勢：６０点　　期末レポート：４０点

■授業科目名
日本史特殊講義演習ＩＢ

■単位
4

■担当教員名
片岡　耕平

●授業の到達目標及びテーマ
・テーマ：『続日本紀』を用いて奈良時代の展開と特色を研究する。
・到達目標：古代の国史を講読し、歴史学研究に不可欠な思考力・判断力・表現力を身に付ける。調査した内容を報告し、報告に基づいて議論する技術を高める。

●授業の概要
古代日本において編纂された６つの国史の１つ、『続日本紀』を講読する。現代に生きるわれわれが奈良時代の展開を知るための根幹になっている史料である。奈良時代に焦点を絞り、政治・経済・文化・国際関係など社会を構成する諸要素を、原史料から得られる情報に基づいて包括的に捉える訓練の機会にしたい。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　六国史について
第３回　『続日本紀』について
第４回　奈良時代の歴史
第５回　『続日本紀』巻９　神亀元年２月～３月（聖武天皇即位）
第６回　『続日本紀』巻９　同４月～１０月（蝦夷遠征）
第７回　『続日本紀』巻９　同１１月～神亀２年６月（大嘗会）
第８回　『続日本紀』巻９　同７月～１２月（災異への対応）
第９回　『続日本紀』巻９　神亀３年１月～８月（祥瑞）
第10回　『続日本紀』巻９　同９月～巻１０　神亀４年２月（行幸）
第11回　『続日本紀』巻１０　同３月～１２月（渤海使の来朝）
第12回　『続日本紀』巻１０　神亀５年１月～４月（渤海使への対応）
第13回　『続日本紀』巻１０　同５月～１２月（金光明経読経）
第14回　レポートの内容報告
第15回　まとめ
第16回　『続日本紀』巻１０　天平元年１月～３月（長屋王の変）
第17回　『続日本紀』巻１０　同４月～７月（隼人の来朝）
第18回　『続日本紀』巻１０　同８月（立后）
第19回　『続日本紀』巻１０　同９月～天平２年２月（班田）
第20回　『続日本紀』巻１０　同３月～５月（曲水宴）
第21回　『続日本紀』巻１０　同６月～１１月（諸社奉幣）
第22回　『続日本紀』巻１１　天平３年１月～６月（日蝕）
第23回　『続日本紀』巻１１　同７月～１１月（雅楽寮）
第24回　『続日本紀』巻１１　同１２月～天平４年５月（新羅使の来朝）
第25回　『続日本紀』巻１１　同６月～９月（節度使の派遣）
第26回　『続日本紀』巻１１　１０月～天平５年１月（恩赦）
第27回　『続日本紀』巻１１　同２月～９月（后の病）
第28回　『続日本紀』巻１１　同１０月～天平６年３月（儀礼）
第29回　レポートの内容報告
第30回　まとめ

●準備学習の内容
報告担当者は、レジュメ作成。その他の参加者は、事前に史料を読んでおく（１時間）。

●テキスト
黒板勝美編『新訂増補普及版国史大系　続日本紀 前編』（吉川弘文館、1974 年）

●参考書
青木和夫ほか編『新日本古典文学大系１３　続日本紀２』（岩波書店、1990 年）
笹山晴生ほか編『新日本古典文学大系　続日本紀索引年表』（岩波書店、2000 年）

●学生に対する評価
報告・質疑などの参加姿勢：６０点　　期末レポート：４０点

■授業科目名
日本史特殊講義Ⅱ

■単位
4

■担当教員名
郡司　淳

●授業の到達目標及びテーマ
日本近代史を素材に資料を時代に位置づけて読み解く作業を行うことで、受講生各人が資料解釈の方法と歴史についての理解をより深めることを目標とする。

●授業の概要
日本近代史をネイションの形成という観点から検証する。非西欧諸国では，たとえ欧米から国家装置とイデオロギーを導入して近代化に成功したとしても，ナショナル・アイデンティティをいかに形成するか―自己の歴史的伝統に根ざした「国民文化」の創出という課題に直面せざるをえない。日本の近代国家は，はたして「国民文化」を，「国民」を創出しえたのであろうか。日本が 1930 年代に「国体論」に傾斜していったのは，何故なのか。この問いに対する解答を，「脱亜」から「興亜」へと歩んだ日本近代史に見出したい。

●授業計画
第１回　西欧の衝撃
第２回　「大攘夷」の思想
第３回　明治維新Ⅰ―統一国家の形成
第４回　明治維新Ⅱ―学制と徴兵令
第５回　ネイションの形成Ⅰ―文明開化
第６回　ネイションの形成Ⅱ―近代の時間
第７回　ネイションの形成Ⅲ―身体の文明化
第８回　ネイションの形成Ⅳ―「国語」の成立
第９回　大日本帝国憲法の成立
第10回　産業革命
第11回　女性の国民化Ⅰ―明治民法
第12回　女性の国民化Ⅱ―家庭論の世界
第13回　文野の闘争Ⅰ―日清戦争
第14回　文野の闘争Ⅱ―日露戦争
第15回　帝国統治の構造
第16回　明治天皇と国民統合
第17回　「国民文化」への模索Ⅰ―「国史」誕生
第18回　「国民文化」への模索Ⅱ―博物館・美術館
第19回　「国民文化」への模索Ⅲ―文学の国民化
第20回　マスメディアの発達
第21回　「国民の学校」としての軍隊
第22回　名望家秩序と帝国在郷軍人会
第23回　大正デモクラシー
第24回　超国家主義
第25回　新外交の成立
第26回　「興亜」の思想Ⅰ―大アジア主義
第27回　「興亜」の思想Ⅱ―満州事変
第28回　日中戦争と戦時体制
第29回　大東亜共栄圏の虚実
第30回　敗戦

●準備学習の内容
事前に鶴見俊輔・松本三之・橋川文三・今井清一編著『日本の百年』全 10 巻（ちくま学芸文庫、2007 年）をはじめとする近代の概説書ならびに各回の授業の前に予め指定した参考書を必ず読んで授業に臨むこと。

●テキスト
各回の授業に関連する歴史資料を載せたプリントを配布する。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
準備学習に対する取り組み（20%），授業中の取り組み（20%），レポート（60%）
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本史特殊講義演習ⅡA	4	郡司　淳

●授業の到達目標及びテーマ

受講生各人が，戦争を民衆生活の場から検証すべく，歴史資料を時代に位置づけて読み解く作業を行うことで，資料解釈の方法と近代の民衆に対する理解を深めることを目標とする。

●授業の概要

授業は，資料の輪読と受講生各人の発表を中心に行う。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　民衆の原像としての兵士
第３回　軍隊と地域
第４回　戦争と女性
第５回　日清戦争Ⅰ　片柳鯉之助「遠征日誌」
第６回　日清戦争Ⅱ　片柳鯉之助書簡
第７回　日清戦争Ⅲ　軍夫の記録
第８回　日露戦争Ⅰ　鶴田禎次郎『日露戦役従軍日誌』
第９回　日露戦争Ⅱ　稲垣光太郎「特務曹長日記」
第10回　日露戦争Ⅲ　田村正「征露日記」
第11回　日露戦争Ⅳ　都市下層社会の動向
第12回　日露戦争Ⅴ　ムラの営み
第13回　シベリア戦争Ⅰ　塚本正一郎「西伯利亜守備日誌」
第14回　シベリア戦争Ⅱ　「西伯利出兵時ニ於ケル憲兵報告」
第15回　シベリア戦争Ⅲ　「秘　帰還兵ノ言動」
第16回　癈兵院と大阪保誉院
第17回　満州事変　爆弾三勇士の世界
第18回　日中戦争Ⅰ　「動員概史」と町村の兵事資料
第19回　日中戦争Ⅱ　雑誌『兵隊』
第20回　日中戦争Ⅲ　村田和志郎『日中戦争日記』
第21回　アジア・太平洋戦争Ⅰ　戦没農民兵士の手紙
第22回　アジア・太平洋戦争Ⅱ　戦没学徒兵の手紙
第23回　アジア・太平洋戦争Ⅲ　従軍看護婦の手記
第24回　アジア・太平洋戦争Ⅳ　勤労女学生の手記
第25回　アジア・太平洋戦争Ⅴ　空襲の記録
第26回　戦後社会Ⅰ　引き揚げ・抑留の記録
第27回　戦後社会Ⅱ　BC級戦犯の手記
第28回　戦後社会Ⅲ　戦争未亡人のオーラルヒストリー
第29回　いしぶみの世界
第30回　まとめ―戦争を問い語るとは

●準備学習の内容

各回の授業の前に予め指定した参考書を必ず読んで授業に臨むこと。

●テキスト

資料プリントを配布する。

●参考書

適宜紹介する。

●学生に対する評価

準備学習に対する取り組み(20％)，発表(40％)，レポート(40％)
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本史特殊講義演習ⅡB	4	郡司　淳

●授業の到達目標及びテーマ

「日本の軍事史研究」をテーマとして，受講生各人が自己の課題に引き寄せて研究史を読み解く力を身につけることを目標とする。

●授業の概要

歴史研究を行うためには，その前提として，自己の研究課題に即して研究史の整理を行う必要がある。そのためにも，修士課程において，最低30冊以上の関連文献を集中的かつ体系的に読み，そこで提示された歴史像を戦前・戦後の時代状況に位置づけて読み解く必要がある。この授業ではその試みの一環として軍事史研究の文献解題を行う。

●授業計画

第１回　公刊戦史I『日清戦史』と『日露戦史』
第２回　公刊戦史II『大東亜戦争戦史叢書』
第３回　松下芳男I『明治軍制史論』『徴兵令制定史』
第４回　松下芳男II『三代反戦運動記』
第５回　林三郎『太平洋戦争陸戦概史』
第６回　第一復員省『動員概史』　山崎正男『軍制史梗概』
第７回　藤田嗣雄I『軍隊と自由』
第８回　藤田嗣雄II『明治軍制』『欧米の軍制に関する研究』
第９回　小山弘健『日本軍事工業の史的分析』『近代軍事技術史』
第10回　飯塚浩二『日本の軍隊』
第11回　林克也『日本軍事技術史』
第12回　井上清『日本の軍国主義』
第13回　藤原彰I『軍事史』『天皇制と軍隊』
第14回　藤原彰II『餓死した英霊たち』『中国戦線従軍記』
第15回　大江志乃夫I『軍隊と国民教育』『日露戦争の軍事史的研究』
第16回　大江志乃夫II『徴兵制』『天皇の軍隊』
第17回　家永三郎『激動七十年の歴史を生きて』『太平洋戦争』
第18回　菊池邦作『徴兵忌避の研究』
第19回　大牟羅良の仕事
第20回　大濱徹也I『乃木希典』『明治の墓標』
第21回　大濱徹也II『天皇の軍隊』『兵士』
第22回　桜井忠温と水野公徳
第23回　戦前プロレタリア文学の仕事
第24回　火野蘆平『麦と兵隊』『兵隊』
第25回　伊藤桂一『悲しき戦記』『兵隊たちの陸軍史』
第26回　大西巨人『神聖喜劇』
第27回　富士正晴『帝国陸軍に於ける学習･序』
第28回　彦坂諦『ある無能兵士の軌跡』『餓死の研究』
第29回　1990 年代以降I　国民国家論との関連で
第30回　1990 年代以降II　軍隊と地域

●準備学習の内容

「授業計画」に示した文献のうち,指定されたものを事前に読み,その内容と論点を整理した上で授業に臨むこと。

●テキスト

「授業計画」に示した文献。

●参考書

適宜紹介する。

●学生に対する評価

準備学習に対する取り組み(20%)，発表(40%),レポート(40%)
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
日本史特殊講義Ⅲ

■単位
4

■担当教員名
東　俊佑

●授業の到達目標及びテーマ
テーマは「近世蝦夷地の歴史と生活文化」。北海道や沖縄の歴史は、本州の歴史とは異なる独自のあゆみをたどりました。この講義では、中近世の蝦夷地、とりわけアイヌの交易世界と生活文化の変容を主軸に据え、日本の歴史を北からの視点や東アジアのなかで捉え直すこと、及びアイヌ文化・日本文化を多角的・批判的に論じる能力を身につけることを目標にします。

●授業の概要
13～19世紀中ごろの日本列島北方地域（北海道とその周辺地域）の歴史と文化について、講師のこれまでのロシアや東北地方などでの史料調査の話も交えながら、各回のテーマにつき理解を深めていきます。その際、史料に即して講義を進めることで、蝦夷地の歴史やアイヌ文化に関する既存の考え・学説についての検討を加えていきます。

●授業計画
第１回　列島の北と南:地域史研究の視座
第２回　アイヌのサハリン進出をめぐって
第３回　日の本・唐子・渡党:中世の蝦夷
第４回　アジア交易圏・海域世界のなかの蝦夷島
第５回　蝦夷地の成立:東アジアの海禁と華夷変態
第６回　シャクシャインの戦い:「全民族的蜂起」の再検討
第７回　商場知行と場所請負
第８回　メナシのアイヌ:蝦夷地奉行定書
第９回　クナシリ・メナシの戦いと『夷酋列像』
第10回　清朝の辺民制度とアムール・サハリン島の人びと
第11回　ロシアの進出と幕府の蝦夷地政策
第12回　「場末」と「異国境」:エトロフ島とサハリン島
第13回　フォストフ事件:アイヌ交易帳簿の発見
第14回　間宮林蔵のサハリン・アムール紀行とサンタン交易
第15回　蝦夷地図の作製とアイヌ語地名:間宮林蔵と今井八九郎
第16回　アイヌ文化への眼差し:日本民俗学と日本文化論の視座
第17回　近世の民俗史料・民俗誌とアイヌ:古川古松軒と菅江真澄
第18回　アイヌ絵とはなにか:秦檍丸の遺産
第19回　場所請負制とアイヌ:古文書・くずし字史料から歴史を探る
第20回　蝦夷地と奥羽:本州で蝦夷地の古文書を探す
第21回　蝦夷地産物のゆくえ:北と南をつないだ北前船
第22回　グローバル経済のなかのアイヌの狩猟と軽物上納
第23回　欧米のアジア再進出と日本の開国・日露国境交渉
第24回　幕末幕府の蝦夷地政策とアイヌ:和風化政策と「撫育」の論理
第25回　松浦武四郎の見たアイヌ:踏査日誌と刊行本
第26回　サハリン島のアイヌ:中国支配から日露争奪の時代へ
第27回　アイヌの「漁勘定」と「給料勘定」:帳簿分析の魅力
第28回　アイヌと和人の文化接触:移住と文化
第29回　蝦夷地から北海道へ:「脱亜入欧」の波のなかで
第30回　近現代の北海道

●準備学習の内容
予め史料や関係文献を読んで、各テーマに関する自分なりの考え（疑問点や問題点）を整理しておくことが望ましい。また、日本史や北海道史はもちろんのこと、琉球・沖縄史、海域アジア史（対外交流史）、東洋史（中国史）、日本民俗学、日本文化論などに関する概説書や基本文献、北海道博物館の展示などにより、基本的な知識を予め身につけておくことが好ましい。

●テキスト
特になし。プリントを配布します。

●参考書
講義中に適宜指示します。

●学生に対する評価
準備学習・課題に対する取り組み（50%）、レポート（50%）で評価します。講評については、個々にコメントします。

■授業科目名
環境文化特殊講義ｊⅠ

■単位
4

■担当教員名
手塚　薫

●授業の到達目標及びテーマ
文化人類学・考古学・文献史学など，種々の研究アプローチから狩猟採集民としてのアイヌ文化像を再評価する。
「世界の狩猟採集民のなかのアイヌ」

●授業の概要
アイヌ文化を南北世界における民族誌座標軸のなかに位置づけ，通底するトピックを検討する。また，博物館展示の中でアイヌ文化がどのように表象されてきたのかにも注意をはらう。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　自然環境と立地
第３回　環境の改変と利用
第４回　食料生産と食料獲得
第５回　交換される諸資源
第６回　社会関係
第７回　混合経済
第８回　儀礼・権力・政治
第９回　疾病
第10回　まとめと討論
第11回　アイヌ文化の成立と起源
第12回　中世の蝦夷
第13回　近世アイヌ文化
第14回　北東アジアからみたアイヌ文化
第15回　漂流民史料を読む
第16回　異文化接触
第17回　毛皮のグローバリズム
第18回　海洋の空白に挑む
第19回　ヨーロッパ覇権以前
第20回　まとめと討論
第21回　伝統的生態学知識をめぐる南北問題
第22回　境界の意義
第23回　抵抗の文脈
第24回　先住民と狩猟採集民
第25回　市場化と文明化の影響
第26回　複数文化のために
第27回　錯綜する思索：本質主義あるいは構成主義
第28回　表象の現代
第29回　植民地主義からの離脱
第30回　総合討論

●準備学習の内容
アイヌ語、アイヌ文化に関する基本的な文献を数冊読み、重要な内容をノートにメモしておくこと。

●テキスト
プリント等を配布する。

●参考書
随時紹介する。

●学生に対する評価
参加度 50％，発表 50％
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
環境文化特殊講義演習ｊIA	4	手塚　薫

●授業の到達目標及びテーマ

文化人類学の基礎的な方法論を学び，アイヌ文化を多角的に論じる能力を養成する。
「アイヌ研究の現状と課題」

●授業の概要

文化人類学の研究アプローチを理解し，それをアイヌ文化の研究に適用する。博物館におけるアイヌ文化表象の変遷についても掘り下げて論じる。

●授業計画

第１回　イントロダクション
第２回　人類学理論１　全体論的視点
第３回　人類学理論２　生態学
第４回　人類学理論３　民族生物学
第５回　人類学理論４　言語人類学
第６回　人類学理論５　応用人類学
第７回　人類学理論６　観念主義
第８回　フィールドワークの特性
第９回　経済１　形式―実在論争
第10回　経済２　世界システムのなかの文化
第11回　経済３　開発人類学
第12回　歴史１　アイヌ史の再構築
第13回　歴史２　収奪理論
第14回　歴史３　文化動態
第15回　ジェンダー
第16回　コミュニケーション
第17回　婚姻
第18回　親族集団
第19回　出自
第20回　階層性
第21回　紛争と調停
第22回　リーダーシップとカリスマ性
第23回　政治
第24回　権力
第25回　国家との関係
第26回　儀式
第27回　異文化との接触・交流
第28回　だれが文化を記述するか
第29回　表象の現代
第30回　まとめ

●準備学習の内容

アイヌ民族の歴史に関する通説書を数冊批判的に通読しておくこと。

●テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

●参考書

講義で紹介する。

●学生に対する評価

講義への参加度（50％）と発言内容（50％）で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
環境文化特殊講義演習ｊＩＢ	4	手塚　薫

●授業の到達目標及びテーマ

アイヌ文化を固定的な実態としてとらえようとする思想の背後に潜む問題点を浮き彫りにしながら，文化の複数性やダイナミズムへ目を向ける意識を醸成する。
「アイヌ文化における複数性の検討」

●授業の概要

アイヌ民族史研究を振り返り，それらに内在する思想を批判的に検討し，アイヌ民族史研究の歴史・現状・未来を考察する。

●授業計画

第１回　イントロダクション
第２回　歴史認識
第３回　ポストコロニアリズム
第４回　文化の多様性とは
第５回　グローバリズム
第６回　時代背景
第７回　言説
第８回　文化の翻訳
第９回　本質主義
第10回　課題の設定
第11回　発表　理論
第12回　発表　地域研究
第13回　全体討論
第14回　文化相対主義
第15回　クレオール性
第16回　他者化の力学
第17回　ライフヒストリーの有効性
第18回　表現を規定する力
第19回　ネイティヴィズム
第20回　全体構想
第21回　発表　問題の本質
第22回　発表　問題の解決案
第23回　総合討論
第24回　文化の代表性
第25回　脱植民地化
第26回　著作権
第27回　肖像権
第28回　知的所有権
第29回　公開基準
第30回　まとめ

●準備学習の内容

アイヌ民族の文化にかかわる概説書を数冊批判的に通読しておくこと。

●テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

●参考書

講義で紹介する。

●学生に対する評価

講義への参加度（50％）と発表内容（50％）で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
環境文化特殊講義 j Ⅱ

■単位
4

■担当教員名
須田　一弘

●授業の到達目標及びテーマ
　マレーシア半島部に暮らす先住民オランアスリ諸集団の歴史をたどり，開発計画とオランアスリをめぐる政治が，彼らの資源利用にどのような影響を与えてきたのかを学び，現代社会における少数民族と開発の関係を考える。

●授業の概要
　Colin Nicholas が著した “The Orang Asli and the Contest for resources” をテキストに，輪読形式でオランアスリの資源利用とその変化について学ぶ。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　オランアスリの起源と人口
第３回　民族としてのオランアスリ
第４回　オランアスリの現在
第５回　オランアスリの土地所有権
第６回　オランアスリと近代化
第７回　オランアスリをめぐる政治と開発
第８回　歴史の中のオランアスリ
第９回　自律性と政治的優位性
第10回　英国植民地時代の保護政策
第11回　マレーシア緊急事態宣言時のオランアスリ
第12回　先住民法
第13回　資源をめぐる競合
第14回　保護政策
第15回　統合政策
第16回　定住化と再グループ化
第17回　近代化
第18回　イスラム化と同化政策
第19回　オランアスリと資源のコントロール
第20回　先住民局の役割
第21回　社会開発計画と統制
第22回　統合のための教育政策
第23回　オランアスリとしてのアイデンテティー
第24回　オランアスリの先住民性
第25回　州政府の対応
第26回　オランアスリの組織化
第27回　法廷闘争へ
第28回　国家とオランアスリ
第29回　新たな開発への希求
第30回　討論

●準備学習の内容
事前に配布されたテキストをよく読んで和訳しておくこと

●テキスト
プリントを配布する。

●参考書
授業の進行に従い，必要なものを随時紹介する。

●学生に対する評価
発表 50％，議論への参加 50％
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
環境文化特殊講義演習 j ⅡA

■単位
4

■担当教員名
須田　一弘

●授業の到達目標及びテーマ
　文化人類学及び生態人類学の歴史と理論を学びながら，修士論文作成のための調査研究方法の検討とテーマの選択を行う。

●授業の概要
　前期は文化人類学の歴史と理論，後期は生態人類学の理論を学ぶ。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　文化進化論
第３回　伝播主義
第４回　機能主義人類学：マリノフスキー
第５回　機能主義人類学：ラドクリフ＝ブラウン
第６回　構造主義：レイデン学派
第７回　構造主義：レヴィ・ストロース
第８回　文化とパーソナリティ
第９回　新進化主義人類学
第10回　マルクス主義人類学
第11回　象徴論
第12回　認識人類学
第13回　解釈人類学
第14回　ポストモダン人類学
第15回　アナーキスト人類学
第16回　生態人類学の歴史
第17回　日本の生態人類学
第18回　活動と生業適応
第19回　エネルギー論と食物摂取
第20回　身体と環境
第21回　分類・認識と行動
第22回　市場経済と社会
第23回　宗教と環境
第24回　資源と所有
第25回　資源利用とジェンダー
第26回　環境と人口
第27回　社会変化
第28回　グローバリズムとローカルな資源利用
第29回　環境問題と人類学
第30回　討論

●準備学習の内容
各回の授業内容について、参考書のほかに関連する資料を自ら探し、それをよく読んで内容をまとめておくこと

●テキスト
配布プリント

●参考書
秋道智彌，他編（1995）『生態人類学を学ぶ人のために』世界思想社。
アラン・バーナード（2005）『人類学の歴史と理論』明石書店。

●学生に対する評価
発表 50％，ディスカッション 50％
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 環境文化特殊講義演習ｊⅡB	■単位 4	■担当教員名 須田　一弘

●授業の到達目標及びテーマ

修士論文作成のために，アジア文化に関連したそれぞれのテーマと研究方法について検討する。

●授業の概要

まず，主体的に選ぶテーマの設定について必要なアドヴァイスを行い，テーマに沿った調査・研究方法を先行研究等から探っていく。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　テーマの設定１：テーマの提示
第３回　テーマの設定２：テーマの検討
第４回　テーマの設定３：テーマの再提示
第５回　テーマの設定４：テーマの再検討
第６回　テーマの設定５：テーマの確認
第７回　調査・方法論の検討１：先行研究のレビュー
第８回　調査・方法論の検討２：先行研究の批判的検証
第９回　調査・方法論の検討３：先行研究の確認
第10回　調査・方法論の検討４：調査計画の提示
第11回　調査・方法論の検討５：調査計画の検討
第12回　調査・方法論の検討６：予備調査計画の提示
第13回　調査・方法論の検討７：予備調査の実施
第14回　調査・方法論の検討８：予備調査の報告
第15回　調査・方法論の検討９：調査計画の再検討
第16回　本調査計画の提示
第17回　本調査計画の検討
第18回　本調査の実施
第19回　本調査の報告
第20回　調査結果の分析
第21回　補足調査の検討
第22回　論文構成の検討１：章立ての提示
第23回　論文構成の検討２：章立ての検討
第24回　図表の提示
第25回　考察の提示
第26回　考察の検討
第27回　考察の再提示
第28回　考察の再検討
第29回　構成全体の検討
第30回　構成全体の最終調整

●準備学習の内容

各回の授業内容について、関連する資料を自ら探し、それをよく読んで内容をまとめておくこと

●テキスト

特に使用しない。

●参考書

テーマと進行状況にしたがって，必要なものを随時紹介する。

●学生に対する評価

課題の達成度と論文を総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 論文指導	■単位 2	■担当教員名 各指導教員（主査）

●授業の到達目標及びテーマ

到達目標：修士課程修了後も、持続して研究活動を行うにたる基礎的かつ汎用的な能力・知見・倫理的規範等の獲得

テーマ：修士論文の完成

●授業の概要

本授業は、社会人特例入学者のうち長期履修制度を利用する学生を対象として、受講生各人が特殊講義および特殊講義演習A・Bにおける学修成果をふまえ、年度初めに主査と副査の指導のもとに提出する修士論文研究計画届に基づき、修士論文を完成させるために必要な指導を行うものである。

●授業計画

受講生各人の研究計画と論文の進捗度にしたがい、研究史の整理と先行研究の検証、史資料の調査、仮説・課題設定、論文構成（目次案）・形式等について指導を行うと共に、論文草稿に対する質疑応答を行う。

●準備学習の内容

研究計画に応じた作業を行うと共に、副査に対しても適宜、自身の研究に対する意見を求めること。

●テキスト

特になし。

●参考書

適宜、紹介する。

●学生に対する評価

研究計画および到達目標の達成度によって評価する。

【英米文化専攻　修士課程】

授業科目及び講義概要

文学研究科英米文化専攻修士課程の科目履修について

修士課程の科目群は「言語・思想文化科目」と「歴史・環境文化科目」の2分野からなっているが，科目履修にあたっては「大学院設置基準」の修士課程における教育目的にもとづき，次の原則を考慮すること。

1．「専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業に必要な高度の能力」を養うために，指導教授の特殊講義科目および演習科目計 12 単位を必修とする。
2．その他の選択科目（特殊講義，必修以外の演習）20 単位以上の履修にあたっては，「広い視野に立って精深な学識」を得るために，分野・時代・内容が偏ることがないように留意する。

授業科目及び担当者

言語・思想文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
英米文学特殊講義Ⅰ	4	教授 渡　部　あさみ	1	15以降	36
英米文学特殊講義演習ⅠA	4	教授 渡　部　あさみ	1	15以降	36
英米文学特殊講義演習ⅠB	4	教授 渡　部　あさみ	2	15以降	37
英米文学特殊講義Ⅱ	4	教授 森　川　慎　也	1	15以降	37
英米文学特殊講義演習ⅡA	4	教授 森　川　慎　也	1	15以降	38
英米文学特殊講義演習ⅡB	4	教授 森　川　慎　也	2	15以降	38
英語研究特殊講義Ⅰ	4	教授 上　野　誠　治	1	15以降	39
英語研究特殊講義演習ⅠA	4	教授 上　野　誠　治	1	15以降	39
英語研究特殊講義演習ⅠB	4	教授 上　野　誠　治	2	15以降	40
英語研究特殊講義Ⅱ	4	教授 岩　田　　哲	1	15以降	40
英語研究特殊講義演習ⅡA	4	教授 岩　田　　哲	1	15以降	41
英語研究特殊講義演習ⅡB	4	教授 岩　田　　哲	2	15以降	41
英語研究特殊講義Ⅲ	4	教授 田　中　洋　也	1	15以降	42
英語研究特殊講義演習ⅢA	4	教授 田　中　洋　也	1	15以降	42
英語研究特殊講義演習ⅢB	4	教授 田　中　洋　也	2	15以降	43
［非開講］英語研究特殊講義Ⅳ	4	教授 ブシャー　ジェレミ	1	15以降	43
［非開講］英語研究特殊講義演習ⅣA	4	教授 ブシャー　ジェレミ	1	15以降	44
［非開講］英語研究特殊講義演習ⅣB	4	教授 ブシャー　ジェレミ	2	15以降	44

授業科目及び担当者

言語・思想文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
欧米思想特殊講義Ⅰ	4	准教授 小　柳　敦　史	1	15以降	45
欧米思想特殊講義演習ⅠA	4	准教授 小　柳　敦　史	1	15以降	45
欧米思想特殊講義演習ⅠB	4	准教授 小　柳　敦　史	2	15以降	46
欧米思想特殊講義Ⅱ	4	教授 佐　藤　貴　史	1	15以降	46
欧米思想特殊講義演習ⅡA	4	教授 佐　藤　貴　史	1	15以降	47
欧米思想特殊講義演習ⅡB	4	教授 佐　藤　貴　史	2	15以降	47
欧米思想特殊講義Ⅲ （環境文化特殊講義eⅢ）	4	講師 瀬名波　栄　潤	1	21以降 (15～20)	48

歴史・環境文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
［非開講］欧米史特殊講義Ⅰ	4	教授 仲　丸　英　起	1	15以降	49
［非開講］欧米史特殊講義演習ⅠA	4	教授 仲　丸　英　起	1	15以降	49
［非開講］欧米史特殊講義演習ⅠB	4	教授 仲　丸　英　起	2	15以降	50
欧米史特殊講義Ⅱ	4	教授 大　森　一　輝	1	15以降	50
欧米史特殊講義演習ⅡA	4	教授 大　森　一　輝	1	15以降	51
欧米史特殊講義演習ⅡB	4	教授 大　森　一　輝	2	15以降	51
欧米史特殊講義Ⅲ	4	教授 仲　松　優　子	1	15以降	52
欧米史特殊講義演習ⅢA	4	教授 仲　松　優　子	1	15以降	52

授業科目及び担当者

歴史・環境文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
欧米史特殊講義演習ⅢB	4	教授 仲　松　優　子	2	15以降	53
環境文化特殊講義eⅠ	4	教授 小　松　かおり	1	15以降	53
環境文化特殊講義演習eⅠA	4	教授 小　松　かおり	1	15以降	54
環境文化特殊講義演習eⅠB	4	教授 小　松　かおり	2	15以降	54
環境文化特殊講義eⅡ	4	教授 柴　田　　崇	1	15以降	55
環境文化特殊講義演習eⅡA	4	教授 柴　田　　崇	1	15以降	55
環境文化特殊講義演習eⅡB	4	教授 柴　田　　崇	2	15以降	56

言語・思想文化科目、歴史・環境文化科目共通

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
論文指導	2	各指導教員（主査）	2	15以降	57

■授業科目名	■単位	■担当教員名
英米文学特殊講義Ⅰ	4	渡部　あさみ

●授業の到達目標及びテーマ

文学や映画を中心としたアメリカ文化研究をテーマとする。アメリカ文化への批評的アプローチについて学び、現代の「アメリカ」について理解を深めることを目標とする。

●授業の概要

文学・映画を中心としたアメリカ文化研究の英語文献を精読し、議論について分析・考察を行う。

●授業計画

第１回　イントロダクション
第２回　アメリカ文化概説
第３回　アメリカ文化とアイデンティティ①（文学と映画）
第４回　アメリカ文化とアイデンティティ②（F. Scott Fitzgerald）
第５回　アメリカ文化とアイデンティティ③（Gloria Anzaldúa）
第６回　エスニシティと移民①（文学と映画）
第７回　エスニシティと移民②（Chimamanda Ngozi Adichie）
第８回　エスニシティと移民③（Toni Morrison）
第９回　アメリカの生活と宗教①（文学と映画）
第10回　アメリカの生活と宗教②（教会と国家）
第11回　アメリカの生活と宗教③（宗教と政治）
第12回　リージョナリズムへのアプローチ①（文学と映画）
第13回　リージョナリズムへのアプローチ②（William Faulkner）
第14回　リージョナリズムへのアプローチ③（Walt Whitman）
第15回　アメリカの都市①（文学と映画）
第16回　アメリカの都市②（Paul Auster）
第17回　アメリカの都市③（Sandra Cisneros）
第18回　ジェンダーとセクシュアリティ①（文学と映画）
第19回　ジェンダーとセクシュアリティ②（Louisa May Alcott）
第20回　ジェンダーとセクシュアリティ③（Charlotte Perkins Gilman）
第21回　「若さ」の表象①（文学と映画）
第22回　「若さ」の表象②（Mark Twain）
第23回　「若さ」の表象③（J.D. Salinger）
第24回　アメリカと自由①（文学と映画）
第25回　アメリカと自由②（アメリカ例外主義と自由）
第26回　アメリカと自由③（反アメリカ主義）
第27回　アメリカ文化とグローバリゼーション①（文学と映画）
第28回　アメリカ文化とグローバリゼーション②（ハリウッド映画）
第29回　アメリカ文化とグローバリゼーション③（音楽）
第30回　まとめ

●準備学習の内容

事前にプリント・資料を読み、与えられた課題を行うこと。

●テキスト

必要なプリント・資料は配布する。

●参考書

講義の際に案内する。

●学生に対する評価

毎回の授業への参加の姿勢（50%）、発表（50%）で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
英米文学特殊講義演習ⅠA	4	渡部　あさみ

●授業の到達目標及びテーマ

20世紀後半から現在までのアメリカ文学をテーマとし、各作家作品の背景となるアメリカの文化・社会・歴史についても理解を深めることを目標とする。

●授業の概要

Norton Anthology of American Literature から選ぶ各作家作品を精読し、背景となる文化・社会・歴史もあわせて学ぶ。

●授業計画

第１回　イントロダクション
第２回　アメリカ文学史概説（20 世紀後半～現在）
第３回　作家 1. Elizabeth Bishop
第４回　作家 2. Ralph Ellison
第５回　作家 3. James Baldwin
第６回　作家 4. Flannery O'connor
第７回　作家 5. Adrienne Rich
第８回　作家 6. Martin Luther King Jr.
第９回　作家 7. Gary Snyder
第10回　作家 8. Toni Morrison
第11回　作家 9. Sylvia Plath
第12回　作家 10. John Updike
第13回　作家 11. Amiri Baraka
第14回　作家 12. Audre Lorde
第15回　作家 13. Thomas Pynchon
第16回　作家 14. Raymond Carver
第17回　作家 15. Maxine Hong Kingston
第18回　作家 16. Gloria Anzaldúa
第19回　作家 17. Alice Walker
第20回　作家 18. Leslie Marmon Silko
第21回　作家 19. Julia Alvarez
第22回　作家 20. Joy Harjo
第23回　作家 21. Sandra Cisneros
第24回　作家 22. Louise Erdrich
第25回　作家 23. Li-Young Lee
第26回　作家 24. Edwidge Danticat
第27回　作家 25. Sherman Alexie
第28回　作家 26. Jhumpa Lahiri
第29回　作家 27. Junot Díaz
第30回　まとめ

●準備学習の内容

事前にプリント・資料を読み、与えられた課題を行うこと。

●テキスト

必要なプリント・資料は配布する。

●参考書

演習の際に案内する。

●学生に対する評価

毎回の授業への参加の姿勢(50%)、発表(50%)で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
英米文学特殊講義演習ⅠB

■単位
4

■担当教員名
渡部　あさみ

●授業の到達目標及びテーマ
主に「移民」をテーマおよび背景とする現代アメリカ文学作品について学ぶ。現代アメリカ文学とその文化・社会・歴史についても理解を深めることを目標とする。

●授業の概要
Valeria Luiselli や Chimamanda Ngozi Adichie を編者とした現代アメリカ短編作品集および移民をテーマとする現代アメリカ文学アンソロジーから作品を選んで精読する。また、現代アメリカ文学と移民に関する論文についても読み、背景となる文化・社会・歴史もあわせて学ぶ。

●授業計画
第１回　イントロダクション
第２回　現代アメリカ文学概説
第３回　文献講読①アメリカの移民政策
第４回　文献講読②移民政策への意見とディスカッション
第５回　文献講読③現代アメリカ文学と移民
第６回　作家 1. Junot Díaz
第７回　作家 2. Chimamanda Ngozi Adichie
第８回　作家 3. Tahmima Anam
第９回　作家 4. Sarah Shun-lien Bynum
第10回　作家 5. Ted Chiang
第11回　作家 6. Louise Erdrich
第12回　作家 7. Yalitza Ferreras
第13回　作家 8. Lauren Groff
第14回　作家 9. Meron Hadero
第15回　作家 10. Reyna Grande
第16回　作家 11. Daniel J. O'malley
第17回　作家 12. Karen Russell
第18回　作家 13. Yuko Sakata
第19回　作家 14. Sharon Solwitz
第20回　作家 15. John Edgar Wideman
第21回　作家 16. Julia Alvarez
第22回　作家 17. Sandra Cisneros
第23回　作家 18. Jessica Hagedorn
第24回　作家 19. Judith Ortiz Cofer
第25回　作家 20. Cahng-rae Lee
第26回　作家 21. Helena María Viramontes
第27回　作家 22. Aurora Levins Morales
第28回　作家 23. Agha Shahid Ali
第29回　作家 24. Carmen Maria Machado
第30回　まとめ

●準備学習の内容
事前にプリント・資料を読み、与えられた課題を行うこと。

●テキスト
必要なプリント・資料は配布する。

●参考書
演習の際に案内する。

●学生に対する評価
毎回の授業への参加の姿勢(50%)、発表(50%)で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
英米文学特殊講義Ⅱ

■単位
4

■担当教員名
森川　慎也

●授業の到達目標及びテーマ
英文学の歴史的概観と英文学における研究アプローチの修得をテーマとする。英文学の歴史的変遷、文学思潮、ジャンル、文学研究の前提とアプローチを深く理解することを目標とする。

●授業の概要
本講義では、英文学とは何か?　という問いから始まり、英文学の起源や批評史、文学思潮、ジャンル、文学研究における批評的態度、価値判断など、英文学研究に必須の知識を学ぶ。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　英文学とは何か？⑴定義と形式
第３回　英文学とは何か？⑵キャノン形成
第４回　英文学の始まり⑴ケルトとアングロサクソン
第５回　英文学の始まり⑵チョーサー、ラングランド、聖書
第６回　英文学批評⑴ジョンソン博士
第７回　英文学批評⑵コールリッジ、ハズリット
第８回　英文学の思潮⑴国民性、時代区分、ルネサンス
第９回　英文学の思潮⑵ロマン主義、モダニズム
第10回　詩⑴桂冠詩人
第11回　詩⑵ジョン・ダン
第12回　戯曲⑴シェイクスピア
第13回　戯曲⑵悲劇と喜劇
第14回　小説⑴ロマンスと小説
第15回　小説⑵「イングランドの状況」小説
第16回　英文学の英国性とは？⑴多様な作家たち
第17回　英文学の英国性とは？⑵移動する作家たち
第18回　英文学研究の前提
第19回　英文学研究の始まり：19 世紀と 20 世紀
第20回　今日の英文学研究
第21回　英文学と専門分野の意識
第22回　批評的態度
第23回　文学、価値、キャノン
第24回　シェイクスピア研究の事例
第25回　作者の死
第26回　比喩
第27回　語りと結末
第28回　創作と批評的書き直し
第29回　英文学、アイデンティティ、政治
第30回　なぜ英文学を研究するのか？

●準備学習の内容
以下のテキストを読み進める。指定範囲を丁寧に読み、ポイントをレジュメにまとめてくること。

●テキスト
Jonathan Bate, *English Literature: A Very Short Introduction,* Oxford University Press, 2010.
Robert Eaglestone with Jonathan Beecher Field, *Studying English: A Guide for Literature Students*, Routledge, 2016.

●参考書
必要に応じて参考資料をプリントで配付する。

●学生に対する評価
テキストの読解・レジュメ(50%)、レポート(50%)で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
英米文学特殊講義演習ⅡA

■単位
4

■担当教員名
森川　慎也

●授業の到達目標及びテーマ
イギリス小説の特性と小説を対象とした研究手法の修得をテーマにする。小説の特性を深く理解し、分析・研究のための手法を身につけることを目標とする。

●授業の概要
本演習では、イギリス小説を研究するうえで不可欠な基礎的な知識（ジャンル、文学思潮、技巧、構造、形式）を学ぶとともに、小説の研究アプローチを体系的に身につける。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　フィクションと小説
第３回　小説のジャンル
第４回　小説の勃興
第５回　短篇
第６回　中篇
第７回　リアリズム、モダニズム
第８回　ポストモダニズム
第９回　小説の電子化
第10回　ファン・フィクション
第11回　語り手の種類
第12回　信用できない語り手
第13回　意識の流れ、自由間接文体
第14回　登場人物
第15回　プロットと構造
第16回　舞台、テーマ、シンボル、イメージ
第17回　会話と対話
第18回　読解、反応、批評
第19回　先行研究の活用
第20回　どの版を用いるか
第21回　アダプテーション
第22回　翻訳
第23回　アプローチ
第24回　批評の分類
第25回　ナラトロジー
第26回　テクストとコンテクスト
第27回　イデオロギー
第28回　世界文学
第29回　小説は誰に向かって話すのか？
第30回　フィクション、真実、歴史

●準備学習の内容
以下のテキストを読み進める。指定範囲を丁寧に読み、ポイントをレジュメにまとめてくること。

●テキスト
Jeremy Hawthorn, *Studying the Novel*, 7th Edition, Bloomsbury Academic, 2017.

●参考書
必要に応じて参考資料をプリントで配付する。

●学生に対する評価
テキストの読解・レジュメ（50%）、レポート（50%）で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
英米文学特殊講義演習ⅡB

■単位
4

■担当教員名
森川　慎也

●授業の到達目標及びテーマ
小説を英語で読む訓練を行うことをテーマとする。イギリスの小説を原文で読み、論文の精読を通して小説研究の手法を身につけることを目標とする。

●授業の概要
本演習では、現代のイギリスで最も高い評価を受けている小説家の一人である Kazuo Ishiguro の長篇第二作 *An Artist of the Floating World*（1986）と長篇第三作 *The Remains of the Day*（1989）を英語で読む。日本の戦争画家とイギリスの執事という一見かけ離れた主人公が語り手となっているが、両作品にはテーマが通底している。両作品を読み比べることで、Ishiguro がテーマをどのように深めたのかを考察し、論文の読解を通して小説を読む技術を向上させる。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　*An Artist of the Floating World* の講読　October, 1948 (1)
第３回　*An Artist of the Floating World* の講読　October, 1948 (2)
第４回　*An Artist of the Floating World* の講読　October, 1948 (3)
第５回　*An Artist of the Floating World* の講読　April 1949
第６回　*An Artist of the Floating World* の講読　November, 1949 (1)
第７回　*An Artist of the Floating World* の講読　November, 1949 (2)
第８回　*An Artist of the Floating World* の講読　June 1950
第９回　*An Artist of the Floating World* 関連の英語論文を読む①（前半）
第10回　*An Artist of the Floating World* 関連の英語論文を読む①（後半）
第11回　*An Artist of the Floating World* 関連の英語論文を読む②（前半）
第12回　*An Artist of the Floating World* 関連の英語論文を読む②（後半）
第13回　*An Artist of the Floating World* 関連の英語論文を読む③（前半）
第14回　*An Artist of the Floating World* 関連の英語論文を読む③（後半）
第15回　*The Remains of the Day* について
第16回　*The Remains of the Day* の講読　Prologue: July 1956 Darlington Hall
第17回　*The Remains of the Day* の講読　Day One—Evening Salisbury (1)
第18回　*The Remains of the Day* の講読　Day One—Evening Salisbury (2)
第19回　*The Remains of the Day* の講読　Day One—Evening Salisbury (3)
第20回　*The Remains of the Day* の講読　Day Two—Afternoon, Mortimer's Pond, Dorset, Day Three—Morning Taunton, Somerset
第21回　*The Remains of the Day* の講読　Day Three—Evening Moscombe, near Tavistock, Devon (1)
第22回　*The Remains of the Day* の講読　Day Three—Evening Moscombe, near Tavistock, Devon (2)
第23回　*The Remains of the Day* の講読　Day Four—Afternoon, Little Compton, Cornwall
第24回　*The Remains of the Day* の講読　Day Six—Evening Weymouth
第25回　*The Remains of the Day* 関連の英語論文を読む①（前半）
第26回　*The Remains of the Day* 関連の英語論文を読む①（後半）
第27回　*The Remains of the Day* 関連の英語論文を読む②（前半）
第28回　*The Remains of the Day* 関連の英語論文を読む②（後半）
第29回　*The Remains of the Day* 関連の英語論文を読む③（前半）
第30回　*The Remains of the Day* 関連の英語論文を読む③（後半）

●準備学習の内容
毎回英語で 20–30 ページずつ読み進める。

●テキスト
・Kazuo Ishiguro, *An Artist of the Floating World*, Faber and Faber, 1986.
・Kazuo Ishiguro, *The Remains of the Day*, Faber and Faber, 1989.
・上記テキストは各自で購入。関連論文は担当教員がコピーして配付する。

●参考書
必要に応じて参考資料を配付する。

●学生に対する評価
予習と参加度（60%）、レポート（40%）で評価する。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
英語研究特殊講義I	4	上野　誠治

●授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）音韻論,統語論,意味論および歴史言語学の基礎概念。

（到達目標）言語学研究に必要な基礎概念や研究手法を身につける。同時に,英語で書かれたテキストを使用することによって,英語を正確に発音し読むための技術を習得する。

●授業の概要

英語の音構造,文構造および意味解釈の背景に潜む諸原理を考えつつ,他言語（特に日本語）との類似や相違も明確にする。また,言語変化の観点から歴史言語学の概要にも言及する。

●授業計画

第１回　音の機能とパターン―分節音,最小対
第２回　音素と異音①―相補分布,音素と異音
第３回　音素と異音②―類と一般化,言語固有の変異
第４回　音声表記と音素表記
第５回　音節
第６回　素性
第７回　派生と規則
第８回　文の構造①―範疇と構造
第９回　文の構造②―句構造
第10回　補部の種類
第11回　移動①―Yes-no疑問文
第12回　移動②―深層構造,表層構造,Do挿入,Wh移動
第13回　普遍文法とパラメータ
第14回　その他の構造―等位構造,修飾語,受動態
第15回　意味関係
第16回　含意,成分分析
第17回　概念体系
第18回　概念の語彙化,文法概念
第19回　文の解釈,構造的多義性
第20回　主題役割
第21回　代名詞の解釈,前提,直示
第22回　新･旧情報,会話の格率
第23回　言語変化の本質
第24回　音の変化
第25回　形態の変化
第26回　統語の変化
第27回　語彙･意味の変化
第28回　言語変化の広がり
第29回　言語の再構築
第30回　印欧祖語の発見

●準備学習の内容

テクストを精読し、内容の理解に努めると同時に、使用されている語彙や表現に注意し英語力のさらなる向上を図る。また、理解出来た点と理解出来ない点を明確にする。

●テキスト

英文プリントを配布する。

●参考書

O'Grady,William and John Archibald (2012) *Contemporary Linguistic Analysis: An Introduction*. Pearson Longman.

●学生に対する評価

講義への準備と参加度により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
英語研究特殊講義演習IA	4	上野　誠治

●授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）言語学,特に生成文法理論の研究を通して,英語の構造を考える。

（到達目標）言語学研究に必要な基礎概念や研究手法を身につける。同時に,英語で書かれたテキストを使用することによって,英語を正確に発音し読むための技術を習得する。

●授業の概要

生成文法理論の観点から,英語の構造やその背景に潜む諸原理を考えつつ,他言語（特に日本語）との類似や相違も明確にする。授業は統語論を中心に,英語という言語の構造を概観するが,それと密接な関係を持つ音韻論,意味論,語用論などの分野にも目配りしながら進めていく。

●授業計画

第１回　構造①―句と節
第２回　構造②―指定部,中間投射,最大投射
第３回　構造③―統語関係
第４回　空構成素①―空主語,空助動詞
第５回　空構成素②―直説法,仮定法,不定詞節における空時制
第６回　空構成素③―定形節,不定詞節における空補文標識,格付与
第７回　空構成素④―欠陥節,空限定詞と空数量詞
第８回　主要部移動①―T―C移動,複写と削除としての移動
第９回　主要部移動②―V―T 移動,主要部移動
第10回　主要部移動③―助動詞繰り上げ,否定,Do による支え
第11回　Wh移動①―Wh疑問文,複写と削除としてのWh移動
第12回　Wh移動②―Wh移動と助動詞倒置を駆動する要因
第13回　Wh移動③―Wh 要素と前置詞の随伴,長距離Wh移動
第14回　Wh移動④―多重Wh 疑問文,Wh主語疑問文,感嘆文,関係節
第15回　A移動①―ベルファスト英語における主語
第16回　A移動②―項構造と主題役割
第17回　A移動③―非対格述語,受動述語
第18回　A移動④―長距離受動化,繰り上げと制御述語
第19回　項,格,A移動①―一致,解釈不可能素性,素性削除
第20回　項,格,A移動②―虚辞のit,虚辞のthere
第21回　項,格,A移動③―一致とA 移動,拡大投射原理と一致
第22回　項,格,A移動④―欠陥節と虚辞
第23回　分離投射①―分離補文標識句
第24回　分離投射②―分離時制句
第25回　分離投射③―分離動詞句:能格構造と非能格構造
第26回　分離投射④―分離動詞句:目的語制御構造,非対格構造,受動と繰り上げ
第27回　位相①―自動詞節と欠陥節,位相とAバー移動
第28回　位相②―他動詞節におけるAバー移動,解釈不可能素性と素性継承
第29回　位相③―探査子,主語疑問文,外置
第30回　位相④―その他の位相

●準備学習の内容

テクストを精読し、内容の理解に努めると同時に、使用されている語彙や表現に注意し英語力のさらなる向上を図る。また、理解出来た点と理解出来ない点を明確にする。

●テキスト

Andrew Radford (2009) *Analysing English Sentences: A Minimalist Approach*. Cambridge University Press.

●参考書

アンドリュー･ラドフォード（2006）『入門ミニマリスト統語論』外池滋生（監訳）. 研究社.

●学生に対する評価

演習への準備と参加度により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
英語研究特殊講義演習IB

■単位
4

■担当教員名
上野　誠治

●授業の到達目標及びテーマ
（テーマ）言語学研究における議論展開の手法
（到達目標）言語学研究の基本に則った修士論文の完成を目指す。

●授業の概要
「英語研究特殊講義演習IA」に引き続き,英語で書かれたテキストを読みながら,修士論文を書く際のテーマ設定,言語資料の観察と一般化,仮説と論証などの議論展開の手法を学ぶ。

●授業計画
第１回　はじめに―修士論文執筆に向けて
第２回　先行研究の整理①―問題の発見
第３回　先行研究の整理②―文献の検索
第４回　先行研究の整理③―文献の調査
第５回　先行研究の整理④―文献の収集
第６回　文献講読①―問題の発見
第７回　文献講読②―先行研究の整理
第８回　文献講読③―先行研究の問題点
第９回　文献講読④―論点整理
第10回　文献講読⑤―問題解決の道筋
第11回　文献講読⑥―仮説の設定
第12回　文献講読⑦―データの収集
第13回　文献講読⑧―データの観察
第14回　文献講読⑨―データの分析
第15回　文献講読⑩―仮説の証明
第16回　文献講読⑪―仮説の検証
第17回　文献講読⑫―仮説の実在的意義
第18回　文献講読⑬―結論
第19回　文献講読⑭―残された課題の扱い
第20回　論文指導①―概略
第21回　論文指導②―構成
第22回　論文指導③―執筆要領
第23回　論文指導④―参考文献の整理
第24回　論文指導⑤―目次・脚注
第25回　修士論文の進捗状況①―論点の再整理
第26回　修士論文の進捗状況②―仮説の妥当性
第27回　修士論文の進捗状況③―論理の妥当性
第28回　修士論文の進捗状況④―証明の妥当性
第29回　修士論文の進捗状況⑤―口述試験に向けて
第30回　まとめ

●準備学習の内容
テクストを精読し、内容の理解に努めると同時に、使用されている語彙や表現に注意し英語力のさらなる向上を図る。また、理解出来た点と理解出来ない点を明確にする。

●テキスト
受講生と相談の上、年間を通じ、修士論文に関連する文献を精読する。

●参考書
特に指定しない。

●学生に対する評価
演習への準備と参加度60%,修士論文への取り組み40%
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
英語研究特殊講義Ⅱ

■単位
4

■担当教員名
岩田　哲

●授業の到達目標及びテーマ
テーマ：外国語学習理論の全体像をつかむ。
到達目標：様々な外国語学習理論の基礎知識を獲得する。

●授業の概要
外国語学習にまつわる様々な理論について、それらの背景から最新の動向までを英語で書かれた文献の講読や発表及び議論を通して学ぶとともに、基礎的研究手法についても学習する。

●授業計画
第１回　外国語学習理論
第２回　外国語学習の過程
第３回　外国語学習者
第４回　第二言語学習研究1960年代
第５回　第二言語学習研究1970~1980年代
第６回　第二言語学習研究の歴史
第７回　普遍文法
第８回　普遍文法と母語習得
第９回　普遍文法と第二言語習得
第10回　認知的アプローチ
第11回　言語創発主義
第12回　言語処理中心主義
第13回　記憶システム
第14回　明示的知識
第15回　ワーキングメモリー
第16回　インタラクション仮説
第17回　フィードバックの役割
第18回　学習者とタスク
第19回　機能主義
第20回　アスペクト仮説
第21回　認知言語学
第22回　社会文化理論
第23回　社会文化理論と第二言語学習
第24回　社会文化理論と言語指導
第25回　社会言語学
第26回　会話分析と第二言語学習
第27回　L2アイデンティティー
第28回　MOGULプロジェクト
第29回　ダイナミックシステム理論
第30回　L2学習研究

●準備学習の内容
指定された文献に関して、要約とディスカッショントピックを作成し、発表と議論に備える。

●テキスト
Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). Second Language Learning Theories (4th ed.). Routledge.

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
課題への取り組み、達成度を総合的に評価する。課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
英語研究特殊講義演習ⅡA	4	岩田　哲

●授業の到達目標及びテーマ
テーマ：様々な外国語教育研究法を理解する。
到達目標：基礎的な外国語教育研究法を理解し目的に合った研究法を選択できるようになることを目標とする。

●授業の概要
　外国語教育研究の基礎概念を学び、様々な分析方法について文献講読を通じ、理解を深めた後、量的及び質的研究について、実際にデータ処理とレポート作成を体験し、実践的に学ぶ。後半は研究計画の立て方について実習を通して学ぶ。

●授業計画
第１回　量的研究の基礎
第２回　測定の妥当性と信頼性
第３回　記述統計の基礎知識
第４回　推計統計の基礎知識
第５回　t検定入門
第６回　分散分析:3つの平均の比較
第７回　分散分析:独立変数が2つ以上ある場合
第８回　ノンパラメトリック検定入門
第９回　相関分析入門
第10回　頻度データ分析入門
第11回　多変量解析入門
第12回　SEM入門
第13回　言語テスト理論入門
第14回　メタ分析入門
第15回　質的研究の基礎
第16回　調査的面接法入門
第17回　GTA入門
第18回　構造生成的質的研究法入門
第19回　研究とは
第20回　研究テーマの決定要素
第21回　先行研究の検索
第22回　先行研究の文献整理
第23回　研究課題設定法
第24回　データ分析と解釈法
第25回　質的研究の進め方
第26回　質的データ収集と分析法
第27回　量的研究の進め方
第28回　量的データの収集と分析法
第29回　研究の発表法
第30回　論文執筆法

●準備学習の内容
指定された文献に関して、要約とディスカッショントピックを作成し、発表と議論に備える。実際のデータを使用し、実習に参加しレポートを提出する。

●テキスト
竹内理・水本篤（編）(2023).「外国語教育研究ハンドブック【増補版】」. 松柏社.
浦野研ほか (2016).「はじめての英語教育研究」. 研究社.

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
要約や発表、議論の貢献度、提出レポートの質を総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
英語研究特殊講義ⅡB	4	岩田　哲

●授業の到達目標及びテーマ
テーマ：研究のまとめ
到達目標：学術誌及び学位論文の形式を理解し、執筆ができる能力を身に付ける。

●授業の概要
　英語研究特殊講義演習IIAの学びに基づき、外国語教育研究分野において、興味に応じた研究テーマを設定し、本調査を実施して結果をまとめ発表する。

●授業計画
第１回　研究テーマの検索
第２回　研究テーマの設定
第３回　先行研究の検索
第４回　先行研究のまとめ
第５回　調査研究計画立案
第６回　調査方法の検討と設定
第７回　調査・測定方法の検討
第８回　調査実施準備
第９回　調査実施
第10回　データ整理
第11回　データ分析
第12回　先行研究との比較
第13回　結果の解釈と討議
第14回　調査の整理とまとめ
第15回　調査結果発表計画策定
第16回　学術誌研究
第17回　調査背景と調査の意義
第18回　先行研究の整理
第19回　調査対象と目的
第20回　調査方法の整理
第21回　調査結果の整理
第22回　調査結果の分析
第23回　調査結果の検討と討議
第24回　調査の限界と今後の課題の整理
第25回　調査のまとめ
第26回　参考文献の整理
第27回　調査の振り返り
第28回　研究発表準備
第29回　学術誌投稿の実際
第30回　研究のまとめ

●準備学習の内容
受講者は自らの研究計画に合わせて学位論文、学術誌投稿用論文の執筆に向けた調査、執筆作業を準備学習として行う。

●テキスト
特になし。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
調査への取り組み、研究のまとめを総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
英語研究特殊講義Ⅲ

■単位
4

■担当教員名
田中　洋也

●授業の到達目標及びテーマ
「外国語教育研究の基礎」
(1) 外国語教育研究の各分野における研究動向に関する基礎的知識を獲得する。
(2) 外国語教育研究を行うための基礎的研究手法を習得する。
(3) 各自の研究テーマに関連する外国語教育研究の文献調査を行う。

●授業の概要
主として教室環境における外国語学習とその教育に関連する文献調査,講読(英語･日本語),議論を通して外国語教育研究の基礎的知識と研究手法について学ぶ。

●授業計画
第１回　コミュニケーション能力
第２回　外国語学習・教育の目的と意義
第３回　外国語教育研究概観
第４回　外国語教育研究方法
第５回　教授法比較研究
第６回　外国語教師
第７回　外国語学習者
第８回　教室における相互作用と外国語学習
第９回　言語形式と外国語教育
第10回　指導，個人差と外国語学習
第11回　外国語教育研究と言語教育
第12回　学習者特性（認知的要因）
第13回　学習者特性（情意的要因・動機付け）
第14回　教授法・アプローチとその意義
第15回　技能・知識の育成（リーディング）
第16回　技能・知識の育成（リスニング）
第17回　技能・知識の育成（ライティング）
第18回　技能・知識の育成（スピーキング）
第19回　技能・知識の育成（文法）
第20回　技能・知識の育成（語彙）
第21回　言語学習方略と学習方略指導
第22回　情報通信技術と外国語学習・教育
第23回　タスクに基づいた外国語教育
第24回　言語知識・能力の評価
第25回　言語研究方法（コーパス分析）
第26回　言語研究方法（談話分析）
第27回　言語研究方法（会話分析）
第28回　事例研究
第29回　教室研究
第30回　外国語教育研究と教育的示唆

●準備学習の内容
指定された文献について要約とリアクションペーパーを作成する。発表時には、必要に応じてスライド、その他のメディアを使用する。

●テキスト
講義で指示する。

●参考書
Ellis, R. (2012). Language teaching research and language pedagogy. John Wiley & Sons, Inc.

●学生に対する評価
課題への取り組み,達成度を総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
英語研究特殊講義演習ⅢA

■単位
4

■担当教員名
田中　洋也

●授業の到達目標及びテーマ
外国語教育研究の方法と習得をテーマに、リサーチプロジェクトに取り組み、リサーチペーパーの執筆を行うことを目標とする。

●授業の概要
外国語教育研究の研究手法をより良く理解するために量的研究、質的研究の基礎を学ぶ。量的研究、質的研究ともにハンズオンの実習を含む。第２学期には学んだことに基づいてリサーチプロジェクトに取り組み、リサーチペーパー（英語）の執筆を行う。

●授業計画
第１回　外国語教育研究方法概観
第２回　量的研究の基礎(1)研究計画
第３回　量的研究の基礎(2)測定の妥当性と信頼性
第４回　量的研究の基礎(3)記述統計、推定統計
第５回　量的研究の展開(1)t 検定
第６回　量的研究の展開(2)分散分析　3つの平均の比較
第７回　量的研究の展開(3)分散分析　2つ以上の独立変数がある場合
第８回　量的研究の展開(4)ノンパラメトリック検定
第９回　量的研究の展開(5)相関分析
第10回　量的研究の展開(6)頻度データ分析
第11回　量的研究の発展(1)因子分析の基礎
第12回　量的研究の発展(2)多変量解析の基礎
第13回　量的研究の発展(3)SEM の基礎
第14回　量的研究の発展(4)言語テスト理論入門
第15回　質的研究の基礎と展開(1)基盤概念
第16回　質的研究の基礎と展開(2)GTA
第17回　質的研究の基礎と展開(3)KJ
第18回　リサーチプロジェクト(1)研究計画
第19回　リサーチプロジェクト(2)先行研究調査
第20回　リサーチプロジェクト(3)先行研究調査
第21回　リサーチプロジェクト(4)測定方法計画
第22回　リサーチプロジェクト(5)測定方法作成
第23回　リサーチプロジェクト(6)データ収集
第24回　リサーチプロジェクト(7)データ分析
第25回　リサーチプロジェクト(8)ディスカッション
第26回　リサーチペーパー(1)計画
第27回　リサーチペーパー(2)イントロダクション
第28回　リサーチペーパー(3)先行研究
第29回　リサーチペーパー(4)研究方法
第30回　リサーチペーパー(5)結果と議論

●準備学習の内容
授業での指定に応じて文献要約とリアクションペーパーを作成する。リサーチプロジェクト時には進捗に応じた準備作業(データ処理など)が必要となる。

●テキスト
竹内･水本(編)(2014)。外国語教育研究ハンドブック。松柏社

●参考書
特になし。

●学生に対する評価
ハンズオン実習、リサーチプロジェクト貢献度、リサーチペーパー完成度を総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
英語研究特殊講義演習ⅢB

■単位
4

■担当教員名
田中　洋也

●授業の到達目標及びテーマ
外国語教育研究をテーマに、本調査実施と学術誌投稿用論文、学位論文執筆の完成を目標とする。

●授業の概要
英語研究特殊講義演習ⅢAの学びに基づき、外国語教育研究分野において学位論文執筆のための本調査を実施し、学術誌投稿用論文、学位論文を執筆する。

●授業計画
第１回　研究背景:意義と目的
第２回　先行研究（理論）の整理
第３回　先行研究（調査）の整理
第４回　調査計画立案（研究方法）
第５回　測定方法設計
第６回　測定方法作成
第７回　測定方法検証
第８回　調査実施計画作成
第９回　調査実施
第10回　データ整理
第11回　データ分析
第12回　先行研究との比較・ディスカッション
第13回　調査結果まとめ
第14回　調査の評価と課題の整理
第15回　調査のまとめ
第16回　論文執筆計画作成
第17回　論文執筆（1）研究背景 :意義と目的
第18回　論文執筆（2）先行研究（理論）の整理
第19回　論文執筆（3）先行研究（調査）の整理
第20回　論文執筆（4）研究課題
第21回　論文執筆（5）研究方法
第22回　論文執筆（6）結果の提示（図表の作成）
第23回　論文執筆（7）結果の提示（テキスト）
第24回　論文執筆（8）議論
第25回　論文執筆（9）結論
第26回　論文執筆（10）研究の限界と今後の課題
第27回　論文執筆（11）参考文献
第28回　論文執筆（12）校正
第29回　論文執筆（13）学術誌投稿の実際
第30回　論文執筆のまとめ

●準備学習の内容
受講者は自らの研究計画に合わせて学位論文、学術誌投稿用論文の執筆に向けた調査、執筆作業を準備学習として行う。

●テキスト
特になし

●参考書
特になし

●学生に対する評価
調査への取り組み、論文完成度を総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
［非開講］英語研究特殊講義Ⅳ

■単位
4

■担当教員名
ブシャー　ジェレミ

●授業の到達目標及びテーマ
社会言語学は言語と社会の関係を研究するものである。この講義では、言語種と世界の英語（World Englishes）、言語の変化、保存と普及、言語政策と計画、言語の態度、アイデンティティとイデオロギー、そして異文化間コミュニケーションを取り上げる。これらのトピックは、グローバル化時代の英語の研究に対する社会的リアリズムの観点を通して探求される。

●授業の概要
学生は、
1. 相対的に規則支配されたシステムとしての言語と実践としての言語とを区別する。
2. 言語とその使用が様々な社会的、文化的、政治的、教育的要因によってどのように影響を受けるかを理解する。
3. グローバル化時代における、より多くの概念的かつ実践的な英語に関する洞察を得る。
4. 効果的な異文化間コミュニケーターになる。

●授業計画
第１回　オリエンテーション – 社会言語学研究の射程
第２回　層状的な社会の観点から – 社会的リアリズムへの導入
第３回　層状的な社会の観点から – 構造
第４回　層状的な社会の観点から – 文化
第５回　層状的な社会の観点から – エージェンシー
第６回　層状化された現象としての言語 – ソシュールとサピア・ウォーフ
第７回　層状化された現象としての言語 – ポストモダンの光景
第８回　層状化された現象としての言語 – 社会的リアリズムの光景
第９回　言語種と世界の英語 – 歴史的背景
第10回　言語種と世界の英語 – 英語種の分類
第11回　言語種と世界の英語 – 教育的意義
第12回　言語の変化 – 英語だけが原因ですか?
第13回　言語の保存と普及 – 制限と可能性
第14回　言語政策と計画 – 言語は規制され、計画されていますか?
第15回　言語政策と計画 – フレームワークとモデル
第16回　言語政策と計画 – 言語帝国主義
第17回　言語政策と計画 – 経済的および政治的考察
第18回　言語政策と計画 – 国民的アイデンティティ
第19回　言語政策と計画 – 言語的人権
第20回　言語の態度 – ステレオタイプと信憑性の神話
第21回　言語的アイデンティティ – アイデンティティの実行
第22回　言語的イデオロギー – イデオロギーと覇権を区別する
第23回　言語的イデオロギー – イデオロギー批評
第24回　言語的イデオロギー – ネイティブスピーカリズムの例
第25回　異文化間コミュニケーション – 異文化間コミュニケーション能力を概念化する
第26回　異文化間コミュニケーション – 異文化間コミュニケーション能力モデル
第27回　異文化間コミュニケーション – 異文化間の葛藤を管理する
第28回　異文化間コミュニケーション – 異文化間コミュニケーション能力研究
第29回　異文化間コミュニケーション – 異文化間コミュニケーション能力評価
第30回　異文化間コミュニケーション – 教育的意義

●準備学習の内容
学生は、授業前に、割り当てられた文献を読む。また、事前に質問を準備する。学生がすべての言語資源を自由に使いこなすように（translanguaging – 異文化間コミュニケーションの重要なプロセス）、この講義は英語と日本語の両方で行われる。

●テキスト
Holmes, J. and Wilson, N. (2017). *An Introduction to Sociolinguistics* (*Learning about Language*) (*5th edition*). London: Routledge. ISBN-13: 978-1138845015
Kramsch, C. (1998). *Language and Culture* (*Oxford Introduction to Language Study Series*). Oxford: OUP. ISBN-13: 978-0194372145
Spolsky, B. (1998). *Sociolinguistics* (*Oxford Introduction to Language Study Series*). Oxford: OUP. ISBN-13: 978-0194372114

●参考書
Bouchard, J. (2017). *Ideology, Agency and Intercultural Communicative Competence*. Singapore: Springer. ISBN 13: 978-9811039263
Bouchard, J. (2018). On Language, Culture, and Controversies. *Asian Englishes*. https://doi.org/10.1080/13488678.2018.1449487
Deardorff, D.K. (Ed.) (2009). *The SAGE Handbook of Intercultural Competence*. London: SAGE Publications. ISBN 13: 978-1412960458
Sealey, A and Carter, B. (2004). *Applied Linguistics as Social Science*. London: Continuum. ISBN 13: 978-0826455208

●学生に対する評価
論文講読準備: 50%
授業中の理解度: 50%
課題の実施結果については、個々にフィードバックする。

■授業科目名
［非開講］
英語研究特殊講義演習ⅣA

■単位
4

■担当教員名
ブシャー　ジェレミ

●授業の到達目標及びテーマ

社会言語学は言語と社会の関係を研究するものである。この演習では、社会言語学研究を基盤とする様々な理論や研究方法を探究する。また、学生は社会言語学的研究プロジェクトの基礎を準備することができる。

●授業の概要

学生は、

1. 社会言語学研究プロジェクトの設計と適切な研究方法の選択をどのように容易にするかを理解する。
2. 社会言語学研究の様々な例を見て、研究の構造を理解し、その内容を要約する。
3. 社会言語学研究プロジェクトの明確な焦点を特定し、そのための最初のステップを開始する。

●授業計画

第１回　オリエンテーション – 社会言語学研究を行う方法
第２回　第１章モデルと方法 – データと理論
第３回　第１章モデルと方法 – 言語的記述への以前のアプローチ
第４回　社会言語学研究の新しいアプローチ
第５回　第２章被験者の特定と選択 – いくつかの一般原則
第６回　第２章被験者の特定と選択 – 代表性とサンプルサイズ
第７回　第３章データ収集 – 一般的な問題
第８回　第３章データ収集 – 研究の質問からアンケートの質問まで
第９回　第３章データ収集 – アンケートのデザインと分析
第10回　第３章データ収集 – 社会言語学インタビューの構造とデザイン
第11回　第３章データ収集 – 調査参加者の観察
第12回　第３章データ収集 – 研究倫理と調査参加者の同意
第13回　第４章言語の変容と社会的世界 – 異文化コミュニケーション、社会のカテゴリーと変化の理論
第14回　第４章言語の変容と社会的世界 – 異文化コミュニケーション、性別、ジェンダーと言語の使用
第15回　第４章言語の変容と社会的世界 – 異文化コミュニケーション、エスニシティと言語の使用
第16回　第４章言語の変容と社会的世界 – 異文化コミュニケーション、社会階級と言語の使用
第17回　第５章社会的関係と社会的実践 – 異文化コミュニケーション、社会的なネットワーク
第18回　第５章社会的関係と社会的実践 – 異文化コミュニケーション、実践のコミュニティ
第19回　第５章社会的関係と社会的実践 – 異文化コミュニケーション、言語の変更と言語の保存
第20回　第８章スタイルの変更とコードスイッチング – 状況への対応としてのスタイル
第21回　第８章スタイルの変更とコードスイッチング – 言語の選択とコードスイッチング
第22回　第８章スタイルの変更とコードスイッチング – バイリンガルの会話
第23回　批判的な談話分析 – 理論的な基礎
第24回　批判的な談話分析 – 理論から研究方法まで
第25回　批判的な談話分析 – 異なる目的の異なるアプローチ
第26回　批判的な談話分析 – 構造的なプロセスの解明
第27回　批判的な談話分析 – エージェンシー的なプロセスの解明
第28回　批判的な談話分析 – 抑圧のパターンを解体する
第29回　批判的な談話分析 – 転写と翻訳
第30回　批判的な談話分析 – 研究者の反射性

●準備学習の内容

学生は、授業前に、割り当てられた文献を読む。また、事前に質問を準備する。学生がすべての言語資源を自由に使いこなすように（translanguaging – 異文化間コミュニケーションの重要なプロセス）、この講義は英語と日本語の両方で行われる。

●テキスト

Milroy, L. and Gordon, M.J. (2003). *Sociolinguistics: Method and Interpretation*. Blackwell Publishing. ISBN-13: 978-0631222255

●参考書

Bouchard, J. (2017). *Ideology, Agency and Intercultural Communicative Competence*. Singapore: Springer. ISBN 13: 978-9811039263
Bouchard, J. (2018). On Language, Culture, and Controversies. *Asian Englishes*. https://doi.org/10.1080/13488678.2018.1449487
Bouchard, J. and Glasgow, G.P. (Eds.) (2019). *Agency in Language Policy and Planning: Critical Inquiries*. London: Routledge.

●学生に対する評価

論文講読準備：50%
授業中の理解度：50%
課題の実施結果については、個々にフィードバックする。

■授業科目名
［非開講］
英語研究特殊講義演習ⅣB

■単位
4

■担当教員名
ブシャー　ジェレミ

●授業の到達目標及びテーマ

社会言語学は言語と社会の関係を研究するものである。この演習では、社会言語学研究を根底に置く様々な理論や研究方法を探究する。さらに、社会言語学的研究プロジェクトに取り組む十分な機会を提供する。具体的に、学生は自分の研究プロジェクトを構成すること（研究の質問を作成し、フィールドワークを行い、データ分析を行い、研究論文を書く事）ができる。

●授業の概要

学生は、

1. 社会言語学理論と研究方法との間の関係をより深く理解する。
2. 社会言語学研究論文の読解、理解、および要約に自信を持つ。
3. 研究課題の構成、プロジェクトの設計、フィールドワークの実施、データ分析の実行、研究論文の作成など、社会言語学研究プロジェクトの５つの主要段階を完了する。
4. 専門家や学者の聴衆に自分の研究プロジェクトをまとめ、ディフェンスする。

●授業計画

第１回　英語研究特殊講義演習ⅣAのレビューと研究プロジェクトの戦略の明確化 – 異文化コミュニケーションの現行と課題
第２回　研究の質問を作成と研究プロジェクトの予備構造の確立
第３回　文献調査 – 分野の幅広い見方を展開する – 文化の多様性及び異文化コミュニケーション
第４回　文献調査 – 研究プロジェクトに関する先行研究の選択
第５回　研究プロジェクトに関する理論と概念の決定
第６回　研究方法と理論の関連付け
第７回　量的データと質的データのバランスをとる
第８回　研究倫理の明確化と調査参加者同意書のデザイン
第９回　サンプリング技術と話者へのアクセス権の取得
第10回　アンケートの設計と実施
第11回　面接の設計と実施
第12回　調査参加者の観察の準備と実施
第13回　データ本体の構築と編成
第14回　データコーディングと初期洞察
第15回　データの記述と初期洞察
第16回　データの収束（パターン）と発散（例外）のポイントを見つける
第17回　データの解釈
第18回　図と表の設計と説明
第19回　研究対象の歴史的・社会的背景の説明
第20回　統計データの収集
第21回　研究プロセスに研究者の反射性の影響
第22回　理論的基礎を再考する
第23回　研究プロジェクトと以前の研究との比較
第24回　文献調査のレビューと理論的基礎の再考
第25回　研究プロジェクトの限界の説明
第26回　参照リストの作成
第27回　研究プロジェクトの校正と提出
第28回　研究プロジェクトの要約とプレゼンテーションの準備
第29回　研究プロジェクトの提示とディフェンス
第30回　レビューと統合 – 文化の多様性、異文化コミュニケーションと社会言語学理論と研究

●準備学習の内容

学生は、授業前に、割り当てられた文献を読む。また、事前に質問を準備する。さらに、研究プロジェクトの成功を確実なものにするためには、学生が設定されたスケジュールを遵守しなければなりません。学生がすべての言語資源を自由に使いこなすように（translanguaging – 異文化間コミュニケーションの重要なプロセス）、この講義は英語と日本語の両方で行われる。

●テキスト

Heller, M., Pietikäinen, S. and Pujolar, J. (2017) Critical Sociolinguistic Research Methods: Studying Language Issues That Matter. London: Routledge. ISBN-13: 978-1138825901
Meyerhoff, M., Schleef, E. and MacKenzie, L. (2015). Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis. London: Routledge. ISBN-13: 978-0415698207

●参考書

Bouchard, J. (2017). *Ideology, Agency and Intercultural Communicative Competence*. Singapore: Springer. ISBN-13: 978-9811039263
Bouchard, J. (2017). Monolingual Education in Policy Discourse and Classroom Practice: A look into Japanese junior high school EFL classrooms. In P.C.L. Ng, & E.F. Boucher-Yip. (Eds), *Teacher Agency and Policy Response in English Language Teaching*. London: Routledge, pp. 41-57. ISBN-13: 978-1138604544
Bouchard, J. (2018). Native-Speakerism in Japanese Junior High Schools: A stratified look into teacher narratives. In S.A. Houghton & K. Hashimoto (Eds.), *Towards Post-Native- Speakerism: Dynamics and Shifts*. Singapore: Springer, pp.17-40. ISBN-13: 978-9811071607

●学生に対する評価

論文講読準備：50%
授業中の理解度：50%
課題の実施結果については、個々にフィードバックする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米思想特殊講義I	4	小柳　敦史

●授業の到達目標及びテーマ

テーマ：近代社会の思想的起源について

到達目標：近代社会の思想的起源についての諸説を理解し、近代社会の特質と内的な多様性について適切な概念を用いながら説明することができる。

●授業の概要

ドイツの神学者・宗教哲学者・宗教社会学者であるエルンスト・トレルチは、近代社会の始まりは宗教改革でもルネサンスでもなく、啓蒙主義にあるとする見解を提示した。しかし、トレルチの議論以降も、ルネサンスや宗教改革、そして啓蒙主義について、それぞれの知的運動の新たな側面や、近代社会との関連を明らかにしようとする試みは積み重ねられてきている。本講義ではこうした新たな研究動向も視野に入れつつ、近代社会と啓蒙主義の関係をめぐるトレルチのテーゼの再検討を行うことを通して、近代社会の特質と内的な多様性について理解を深めたい。

●授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　イントロダクション(1):トレルチのテーゼ
第３回　イントロダクション(2):時代区分の問題
第４回　イントロダクション(3):中世思想研究の動向
第５回　ルネサンス(1):複数のルネサンス
第６回　ルネサンス(2):ルネサンスと近代
第７回　宗教改革(1):宗教改革の先駆者たち
第８回　宗教改革(2):ルター
第９回　宗教改革(3):カルヴァン
第10回　宗教改革(4):急進的宗教改革への関心
第11回　宗教改革(5):急進的宗教改革の近代性
第12回　敬虔主義(1):シュペーナーとフランケ
第13回　敬虔主義(2):急進的敬虔主義
第14回　敬虔主義(3):敬虔主義の影響
第15回　啓蒙主義(1):啓蒙主義とは何か
第16回　啓蒙主義(2):イングランドの啓蒙主義
第17回　啓蒙主義(3):スコットランドの啓蒙主義
第18回　啓蒙主義(4):アメリカの啓蒙主義
第19回　啓蒙主義(5):フランスの啓蒙主義
第20回　啓蒙主義(6):急進的啓蒙への関心
第21回　啓蒙主義(7):フランス革命と急進的啓蒙
第22回　啓蒙主義(8):スピノザ
第23回　啓蒙主義(9):ドイツの啓蒙主義
第24回　啓蒙主義(10):カント
第25回　啓蒙主義(11):レッシング
第26回　ロマン主義(1):ロマン主義の諸相
第27回　ロマン主義(2):シュライアマハー
第28回　ロマン主義(3):文化批判とロマン主義
第29回　ロマン主義(4):革命的ロマン主義
第30回　まとめ:未完のプロジェクトとしての近代

●準備学習の内容

講義はテキストを批判的に読解しながら進めていく。受講者はテキストの該当箇所を事前に読み、要約と疑問点をまとめた上で講義に参加すること。

●テキスト

エルンスト・トレルチ『ルネサンスと宗教改革』内田芳明訳(岩波文庫、1959年)、Mario Biagioni, The Radical Reformation and the Making of Modern Europe. A Lasting Heritage (Brill, 2017)、田中秀夫『スコットランド啓蒙とは何か』(ミネルヴァ書店、2014年)、ジョナサン・イスラエル『精神の革命　急進的啓蒙と近代的民主主義の知的起源』森村敏己訳(みすず書房、2017年)、他、講義中に指示する。

●参考書

講義中に指示する。

●学生に対する評価

平常点(50%、出席点は含まない)、レポート(50%)
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米思想特殊講義演習IA	4	小柳　敦史

●授業の到達目標及びテーマ

テーマ：デノミネーションとは何か

目　標：H・R・ニーバーのデノミネーション論について正確に理解し、アメリカ社会および現代社会における宗教のあり方を分析する理論としてどのような意義があるか説明することができる。

●授業の概要

M・ヴェーバーやE・トレルチといったドイツの宗教社会学者が構想したチャーチ／セクトの2類型あるいはチャーチ／セクト／神秘主義の3類型に対して、アメリカの神学者H・R・ニーバーは、アメリカの宗教事情を理解するために「デノミネーション」という枠組みを提案した。本演習ではデノミネーション論の古典的テキストを読解し、その今日的意義を再検討する。

●授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　イントロダクション(1):ヴェーバーの2類型とトレルチの3類型
第３回　イントロダクション(2):著者について、序文
第４回　第1章　分裂した教会の倫理的失敗(1):イエスの教えとデミネーション主義
第５回　第1章　分裂した教会の倫理的失敗(2):キリスト教の歴史における教会の分裂
第６回　第1章　分裂した教会の倫理的失敗(3):チャーチ、セクト、デノミネーション
第７回　第2章　相続できなかった者たちの教会(1):社会階層とキリスト教
第８回　第2章　相続できなかった者たちの教会(2):宗教改革
第９回　第2章　相続できなかった者たちの教会(3):イギリス国教会
第10回　第3章　(続)相続できなかった者たちの教会(1):クェーカー
第11回　第3章　(続)相続できなかった者たちの教会(2):メソジスト
第12回　第3章　(続)相続できなかった者たちの教会(3):19世紀の諸運動
第13回　第4章　中産階級の教会(1):中産階級の宗教倫理
第14回　第4章　中産階級の教会(2):カルヴァン派
第15回　第5章　ナショナリズムと教会(1):古代ローマ
第16回　第5章　ナショナリズムと教会(2):中世
第17回　第5章　ナショナリズムと教会(3):宗教改革以後
第18回　第6章　アメリカにおける地域主義とデノミネーション主義(1):フロンティア
第19回　第6章　アメリカにおける地域主義とデノミネーション主義(2):会衆派
第20回　第6章　アメリカにおける地域主義とデノミネーション主義(3):長老派
第21回　第7章　(続)アメリカにおける地域主義とデノミネーション主義(1):フロンティア的宗教
第22回　第7章　(続)アメリカにおける地域主義とデノミネーション主義(2):都市ー農村
第23回　第7章　(続)アメリカにおける地域主義とデノミネーション主義(3):北部ー南部
第24回　第8章　移民の教会(1):移民教会と政教分離
第25回　第8章　移民の教会(2):移民教会の分裂
第26回　第8章　移民の教会(3):移民教会と在来教会の競争
第27回　第9章　デノミネーション主義と黒人／白人の境界線(1):歴史的回顧
第28回　第9章　デノミネーション主義と黒人／白人の境界線(2):黒人教会の独立運動
第29回　第10章　統一への道(1):統一の必要性
第30回　第10章　統一への道(2):愛の共同体

●準備学習の内容

テキストの該当箇所を読み、訳文あるいは要約を作成してくること。

●テキスト

H. Richard Niebuhr, The Social Sources of Denominationalism (The World Publishing Company, 1965)
テキストはコピーを配布する。

●参考書

H・リチャード・ニーバー(柴田史子訳)『アメリカ型キリスト教の社会的起源』(ヨルダン社、1984年)

●学生に対する評価

平常点(50%、出席点は含まない)、レポート(50%)
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米思想特殊講義演習IB

■単位
4

■担当教員名
小柳　敦史

●授業の到達目標及びテーマ

テーマ：思想史の中のカーライル

目　標：その後の思想史に大きな影響を与えたカーライルの『英雄および英雄崇拝について』を読解して内容を正確に理解した上で、その影響がどのようなものであったのかを具体的な事例に基づいて説明することができる。

●授業の概要

19世紀スコットランドの思想家トーマス・カーライルは、同時代の英語圏のみならず、ドイツのキリスト教神学者や、日本の思想家たちにまで大きな影響を及ぼした。カーライルがいわゆる「英雄史観」を打ち出した代表的著作である『英雄および英雄崇拝について』を読解した上で、その影響について調査・報告を行う。

●授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　イントロダクション：トーマス・カーライルとは誰か
第３回　テキスト講読(1)：序論
第４回　テキスト講読(2)：神としての英雄　オーディン
第５回　テキスト講読(3)：預言者としての英雄　ムハンマド
第６回　テキスト講読(4)：詩人としての英雄①　ダンテ
第７回　テキスト講読(5)：詩人としての英雄②　シェイクスピア
第８回　テキスト講読(6)：聖職者としての英雄①　ルター
第９回　テキスト講読(7)：聖職者としての英雄②　ノックス
第10回　テキスト講読(8)：文人としての英雄①　ジョンソン
第11回　テキスト講読(9)：文人としての英雄②　ルソー
第12回　テキスト講読(10)：文人としての英雄③　バーンズ
第13回　テキスト講読(11)：王としての英雄①　クロムウェル
第14回　テキスト講読(12)：王としての英雄②　ナポレオン
第15回　テキスト講読のまとめ
第16回　カーライルへの影響①　ドイツ文学
第17回　カーライルへの影響②　ドイツ観念論
第18回　同時代の相互関係　J･S･ミル
第19回　ドイツの哲学への影響①　マルクス／エンゲルス
第20回　ドイツの哲学への影響②　ニーチェ
第21回　ドイツの哲学への影響③　ゲオルゲ・クライス
第22回　ドイツの哲学への影響④　カッシーラー
第23回　ドイツの神学への影響①　トレルチ
第24回　ドイツの神学への影響②　ブセット
第25回　ドイツの神学への影響③　バウムガルテン
第26回　日本への影響①　内村鑑三
第27回　日本への影響②　新渡戸稲造
第28回　日本への影響③　夏目漱石
第29回　日本への影響④　北村透谷
第30回　まとめ

●準備学習の内容

前期はテキストの読解を行うので、該当箇所を事前に読み、要約を作成する。後期は各回の考察対象について文献調査を行い、レジュメを作成する。

●テキスト

Thomas Carlyle, On Heroes and Hero-worship etc.
(Cassell&Co., 1908)
テキストはコピーを配布する。

●参考書

カーライル（柳田泉訳）『英雄及び英雄崇拝』（春秋社、1949年）
その他、授業中に指示する。

●学生に対する評価

平常点（50%、出席点は含まない）、発表（50%）
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米思想特殊講義Ⅱ

■単位
4

■担当教員名
佐藤　貴史

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは、宗教改革の時代を代表する人物であるマルティン・ルターとエラスムスのキリスト教思想を解明することである。講義では16世紀ヨーロッパ、さらにはその後アメリカに渡ったプロテスタント・キリスト教の普遍性と特殊性に関する理解を深めることを目標とする。

●授業の概要

ルターの『キリスト者の自由』を精読したのち、人間の自由意志のあり方をめぐってルターと激しく対立したエラスムスの思想を考察する。両者の神学思想を比較することで、宗教改革の精神的特質を解明したい。

●授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　革新、そして核心
第３回　ルターの発展
第４回　『キリスト者の自由』の成立
第５回　『キリスト者の自由』の構造
第６回　『キリスト者の自由』に見るルターの発想
第７回　『キリスト者の自由』その後
第８回　教皇レオ10世に対する献呈辞
第９回　キリスト者とは何か
第10回　自由と奉仕
第11回　内的・霊的な人
第12回　魂
第13回　神のことば
第14回　キリスト者のなすべき唯一の行い
第15回　信仰のみ
第16回　戒め
第17回　司祭と信徒
第18回　外的な人
第19回　よい義しい人、よい義しい行い
第20回　キリストと隣人において生きる
第21回　ヒューマニズムの問題
第22回　エラスムスの人間観と「原罪」に対する理解
第23回　ルターの反論
第24回　自律としての自由
第25回　自由の弁証法
第26回　合理主義の限界と無力
第27回　神中心的ヒューマニズム
第28回　ヒューマニズムの偉大と悲劇
第29回　キリスト観の相違
第30回　宗教改革の精神

●準備学習の内容

事前にテキストを読み、与えられた課題（要約、論点整理、翻訳等）を必ずやってくること。

●テキスト

マルティン・ルター『キリスト者の自由　訳と注解』（徳善義和訳、教文館、2011年）。テキストは各自で購入すること。

●参考書

ルターとエラスムスの思想に関しては金子晴勇氏の一連の研究が重要である。

●学生に対する評価

平常点（50%、出席点は含まない）、発表（50%）。教員による講義の形式をとるが、受講者に複数回の発表を求める。課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米思想特殊講義演習ⅡA

■単位
4

■担当教員名
佐藤　貴史

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは、宗教改革以降の聖書解釈の歴史である。キリスト教史、教会史、キリスト教思想史――キリスト教を歴史的に研究する分野にはさまざまな方法があるが、本演習は聖書解釈とその方法の歴史に焦点を当てることで、キリスト教の多様性を理解することを目標とする。

●授業の概要

Henning Graf Reventlow, *History of Biblical Interpretation* からいくつかの章を抜き出して、宗教改革から 20 世紀にいたる聖書解釈の歴史について概観する。

●授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　エラスムス
第３回　キリストの哲学
第４回　マルティン・ルター
第５回　信仰による義
第６回　フィリップ・メランヒトン
第７回　聖書にしたがって神学を組織する
第８回　フルドリッヒ・ツヴィングリ
第９回　聖書にしたがって教会を形成する
第10回　ジャン・カルヴァン
第11回　聖書のなかに綱要を求める
第12回　トーマス・ミュンツァー
第13回　剣によって神の国を広げる
第14回　セバスティアン・フランク
第15回　文字ではなく、内的言葉のうちに意味を見つける
第16回　バルーフ・デ・スピノザ
第17回　理性を啓示から区別する
第18回　ゴットホルト・エフライム・レッシング
第19回　文字と霊
第20回　ヨハン・ゴットフリート・ヘルダー
第21回　聖書を人間が作った資料として理解する
第22回　ダーフィト・フリードリヒ・シュトラウス
第23回　福音書の神話的特徴を明らかにする
第24回　フェルディナント・クリスティアン・バウル
第25回　観念論的見方と歴史批判
第26回　ユリウス・ヴェルハウゼン
第27回　イスラエルの歴史を見直す
第28回　カール・バルト
第29回　神を神とすること
第30回　近代における聖書解釈の特徴

●準備学習の内容

事前にテキストを読み、与えられた課題（要約、論点整理、翻訳等）を必ずやってくること。

●テキスト

Henning Graf Reventlow, *History of Biblical Interpretation* (Society of Biblical Literature, 2010). テキストはコピーを配布する。

●参考書

木田献一・高橋敬基『聖書解釈の歴史　宗教改革から現代まで』（日本基督教団出版局、1999年）

●学生に対する評価

平常点（50%、出席点は含まない）、発表（50%）。課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米思想特殊講義演習ⅡB

■単位
4

■担当教員名
佐藤　貴史

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは、『イエスの生涯』の著者として有名な19世紀の神学者ダーフィト・フリードリヒ・シュトラウスの思想を考察することである。本演習では、研究書の精読を通じて、近代世界におけるキリスト教の動揺について一定の理解を獲得することを目標とする。

●授業の概要

本演習では、Frederick C. Beiserの研究書を訳読することで、19世紀のキリスト教神学や哲学に大きな影響を与えた「不信仰の父」シュトラウスの思想を解明すると同時に、神学や哲学を〈思想史的に〉研究する方法について考える。

●授業計画

第１回　オリエンテーション
第２回　『イエスの生涯』の歴史的意義
第３回　革命的書物
第４回　政治的反動
第５回　評判と現実
第６回　政治的穏健さ
第７回　信仰の擁護者
第８回　コンテクストと背景
第９回　初期の教育
第10回　合理主義者の誕生
第11回　ヘーゲルの発見
第12回　理性と信仰のあいだの対立
第13回　若き牧師のディレンマ
第14回　ベルリンへの旅路
第15回　シュトラウスの方法とその諸問題
第16回　諸前提なき方法?
第17回　批判の消極的側面と積極的側面
第18回　ヘーゲル的方法?
第19回　啓示批判
第20回　罪と悪
第21回　和解
第22回　恩寵
第23回　受肉
第24回　魂の不死性
第25回　イエスの新生
第26回　福音書の起源
第27回　神話の修正と擁護
第28回　ニーチェ
第29回　トライチュケ
第30回　シュヴァイツァー

●準備学習の内容

事前にテキストを読み、与えられた課題（要約、論点整理、翻訳等）を必ずやってくること。

●テキスト

Frederick C. Beiser, *David Friedrich Strauß, Father of Unbelief: An Intellectual Biography*, Oxford University Press, 2020. テキストはコピーを配布する。

●参考書

『哲学の歴史』（中央公論新社）、大井正『ヘーゲル学派とキリスト教』（未来社、1985年）

●学生に対する評価

平常点（50%、出席点は含まない）、発表（50%）。課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米思想特殊講義Ⅲ （環境文化特殊講義eⅢ）	■単位 4	■担当教員名 瀬名波　栄潤

●授業の到達目標及びテーマ

到達目標:ジェンダーやセクシュアリティを通して、アメリカ文化・思想,生活の地域的特色を分析し,批判的思考を理解できるようになる。

テーマ:アメリカ・思想,生活・文化の地域的特色の分析。

●授業の概要

アメリカにおけるジェンダーやセクシュアリティを取り巻く環境について,映画作品を通して検証していく。それは「女らしさ」と「男らしさ」という二項対立するジェンダー社会の構造に疑問を投げかけ,ヘテロセクシャルだけでなくホモセクシャルなどのさまざまなトランスジェンダーの性のかたちを認知させるポストモダン的試みである。年間で10本程度のハリウッド映画を分析する。

●授業計画

第１回　イントロ
第２回　ジェンダー・セクシュアリティ概論(1)性差の歴史
第３回　ジェンダー・セクシュアリティ概論(2)性差問題の現在
第４回　映画1「Long Walk Home」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第５回　映画1「Long Walk Home」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)
第６回　映画1「Long Walk Home」(3)評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)＋映画2「This Boy's Life」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第７回　映画2「This Boy's Life」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)
第８回　映画2「This Boy's Life」(3)評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)
第９回　映画3「Kramer vs. Kramer」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第10回　映画3「Kramer vs. Kramer」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)
第11回　映画3「Kramer vs. Kramer」(3)評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)＋映画4「Brokeback Mountain」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第12回　映画4「Brokeback Mountain」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)
第13回　映画4「Brokeback Mountain」(3)評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)
第14回　映画5「Beaches」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第15回　映画5「Beaches」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)
第16回　映画5「Beaches」(3)評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)＋映画6「Thelma & Louise」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第17回　映画6「Thelma & Louise」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)
第18回　映画6「Thelma & Louise」(3)評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)
第19回　映画7「Philadelphia」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第20回　映画7「Philadelphia」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)
第21回　映画7「Philadelphia」(3)評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)＋映画8「Fight Club」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第22回　映画8「Fight Club」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)
第23回　映画8「Fight Club」(3)評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)
第24回　映画9「The Hours」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第25回　映画9「The Hours」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)
第26回　映画9「The Hours」(3)評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)＋映画10「Transamerica」(1)イントロ(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第27回　映画10「Transamerica」(2)分析(映画作品におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的表象を分析)・評価(アメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価)
第28回　プレゼンテーション1(学生自らが特定の映画を選び、その映画におけるアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色を紹介・説明)
第29回　プレゼンテーション2(プレゼンテーション1で選んだ映画について、学生がアメリカ文化・思想,生活の地域・時代的特色と映画表象をジェンダー・セクシュアリティの観点から評価、授業全体で質疑・討論)
第30回　レビュー:本授業のまとめ

●準備学習の内容

特に必要はないが、レジュメや参考図書並びに映画作品を授業前後に学習しておくことが望ましい。

●テキスト

プリントを随時配付

●参考書

笹田直人,他編。『概説アメリカ文化史』ミネルヴァ書房,2002年。ISBN4-623
猿谷　要『この一冊でアメリカの歴史がわかる!?アメリカの政治・経済・社会・文化のすべて』-03491-7三笠書房,1998年。ISBN-10:4837917658

●学生に対する評価

討論等における授業への貢献度60%、プレゼンテーション40%
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 ［非開講］ 欧米史特殊講義I	■単位 4	■担当教員名 仲丸　英起

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは、「近世・近代イングランドの政治機構」。同時代のイングランドにおける中央の諸機関・官職（国王・宮廷・枢密院・議会など）および地方の諸機関・官職（州長官・統監・治安判事・治安官など）についての認識を深めると同時に、近年の研究動向を整理・把握することを目標とする。

●授業の概要

15世紀後半から16世紀にかけて、イングランドの中央・地方の行政機構は中世的なシステムから大きく変容していったが、その評価をめぐっては研究者間で意見が大きく分かれている。この授業では、中央および地方の行政・司法機構についての従来の研究を整理し、現在議論されている問題点について探求してみたい。

●授業計画

第１回　前期のイントロダクション
第２回　王権1（国家機関としての機能）
第３回　王権2（イデオロギーと表象）
第４回　枢密院1（枢密議官の構成員）
第５回　枢密院2（国王との関係）
第６回　宮廷1（チェインバーとハウスホールド）
第７回　宮廷2（国王・枢密院との関係）
第８回　議会1（貴族院と下院）
第９回　議会2（国王と議会との関係）
第10回　議会3（下院議員と選挙区との関係）
第11回　裁判所1（コモン・ロー裁判所）
第12回　裁判所2（エクイティ裁判所）
第13回　儀礼と表象1（国王の巡幸と入市式）
第14回　儀礼と表象2（議会行進と礼拝式）
第15回　前期の総括
第16回　後期のイントロダクション
第17回　行政機構1（州）
第18回　行政機構2（自治都市）
第19回　行政機構3（特別行政区）
第20回　州長官
第21回　治安判事1（治安判事団の構成）
第22回　治安判事2（四季法廷と治安判事小法廷）
第23回　治安判事3（法定外職務）
第24回　治安官
第25回　貧民監督官と教区委員
第26回　統監1（統監の構成員）
第27回　統監2（地方との関係）
第28回　アサイズ裁判所1（制度の概観）
第29回　アサイズ裁判所2（地方との関係）
第30回　後期の総括

●準備学習の内容

配付資料を事前に読んでおくこと。

●テキスト

授業毎にプリントを配布する。

●参考書

仲丸英起『名誉としての議席―近世イングランドの議会と統治構造』（慶應義塾大学出版会、2011 年）

●学生に対する評価

授業への参加度（70%）、レポート（30%）
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 ［非開講］ 欧米史特殊講義演習IA	■単位 4	■担当教員名 仲丸　英起

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは、「イギリス議会史」。中世から現代までのブリテン諸島各領域における議会の歴史を概観し、その構造や運営方法、政治的・社会的機能などを、通時的・共時的に理解することを目標とする。

●授業の概要

イギリスは議会制度発祥の地と言われる。しかし、もちろん議会制民主主義が当初から成立していたわけではない。この授業では、各時代における議会の権能を認識し、その時系列的な変化を把握することで、普遍的であると見なされがちな議会や代表制を相対化することを目指す。

●授業計画

第１回　前期のイントロダクション
第２回　議会の起源（1215年まで）
第３回　議会の発展（1215-1307年）
第４回　貴族院（1307-1529年）
第５回　貴族院（1529-1629年）
第６回　貴族院と「その他の議院」（1640-1660年）
第７回　貴族院（1660-1707年）
第８回　下院（1307-1529年）
第９回　下院(1529-1601年)
第10回　下院（1602-1629年）
第11回　下院（1640-1660年）
第12回　下院（1660-1707年）
第13回　貴族院（1707-1800年）1（議員構成・議事手続）
第14回　貴族院（1707-1800年）2（党派政治）
第15回　前期の総括
第16回　後期のイントロダクション
第17回　下院（1707-1800年）1（議員構成・機能）
第18回　下院（1707-1800年）2（世論と院外団）
第19回　貴族院（1801-1911年）
第20回　貴族院（1911-1949年）
第21回　貴族院（1949年以降）
第22回　下院（1801-1911年）
第23回　下院（1911-1949年）
第24回　下院（1949年以降）
第25回　スコットランド議会（1707年まで）
第26回　アイルランド議会（1707年まで）
第27回　北部アイルランド議会
第28回　ブリテン諸島内のその他の立法機関
第29回　権限移譲後の立法機関（スコットランド、ウェールズ）
第30回　後期の総括

●準備学習の内容

テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

●テキスト

C. Jones (ed.), A Short History of Parliament, Woodbridge, 2009.

●参考書

適宜指示する。

●学生に対する評価

授業への参加度（70%）、レポート（30%）
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
［非開講］
欧米史特殊講義演習IB

■単位
4

■担当教員名
仲丸　英起

●授業の到達目標及びテーマ
テーマは「近世イングランドにおける政治文化と公共圏」。近世イングランド政治史で主流となりつつある政治文化論や公共圏論についての方法論を把握し、歴史を多角的に分析する視点を身につけることを目標とする。

●授業の概要
近年の近世イングランド政治史においては、伝統的な制度・政策決定に関わる領域と並び、人類学や社会学などの方法論を応用した新たな研究動向が現れてきている。この授業では、こうした動向に則って編纂された論文集を講読し、政治史の射程を拡大することを目指す。

●授業計画
第１回　前期のイントロダクション
第２回　導入（方法論について）
第３回　1534年への道:トゥルネイの占領とヘンリ8世の主権論
第４回　ヘンリ8世の宮廷における家族・親族関係:ブーリン家とハワード家
第５回　帝冠の図像学
第６回　王家のイメージ、1535-1603年
第７回　政治文化とイングランド地方都市の構築された環境、1540-1620年
第８回　地方から宮廷へ、宮廷から地方へ:ジョン・スクーダモアとそのサークル
第９回　死は誇るべきものなり:シドニー、転倒、エリザベス朝期の葬儀における紋章
第10回　「おお、これぞ勇敢な王」:シェイクスピアの『ヘンリ5世』と1590年代の危機
第11回　議会とエリザベス朝イングランドの政治社会
第12回　テューダー朝議会におけるイメージと儀礼
第13回　利益の相殺:エリザベス朝イングランドにおける独占、自由、慈悲
第14回　初期近代イングランドにおける顧問のレトリック
第15回　前期の総括
第16回　後期のイントロダクション
第17回　初期近代イングランドにおける公共圏再考1（J・ハーバーマスの公共圏論）
第18回　初期近代イングランドにおける公共圏再考2（ポスト修正主義における公共圏論）
第19回　恩寵の巡礼と公共圏
第20回　「人望」の政治と公共圏1（P・コリンソンの「君主のいる共和国」概念）
第21回　「人望」の政治と公共圏2（宗教と公共圏）
第22回　笑う鰐:エセックス伯爵と後期エリザベス朝における「人望」
第23回　後期テューダー朝および初期ステュアート朝期における「公人」
第24回　中傷による困惑:初期ステュアート朝期における詩による中傷の受容と表象
第25回　初期ステュアート朝期におけるアンボイナ、東インド会社、公共圏
第26回　イングランド革命における「公人」と「私人」
第27回　初期近代イングランドにける国家と市民社会
第28回　マシュー・スミス対「大人物」:1690年代における陰謀の噂、公共圏と信用の問題
第29回　後期ステュアート朝期の公共圏は、どれほど合理的であったか?
第30回　後期の総括

●準備学習の内容
テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。

●テキスト
D. Hoak (ed.), Tudor Political Culture, Cambridge, 1995.
P. Lake and H. Pincus (eds.), The Politics of the Public Sphere in Early Modern England, Manchester, 2007.

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
授業への参加度（70%）、レポート（30%）
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米史特殊講義Ⅱ

■単位
4

■担当教員名
大森　一輝

●授業の到達目標及びテーマ
アメリカにおける人種と宗教について考える。被抑圧マイノリティにとってキリスト教とは何だったのかを理解することを目標とする。

●授業の概要
テキストとして指定したアメリカ黒人宗教史2冊を丁寧に読み、「下から」の目線で黒人とキリスト教・イスラームの関係を把握したうえで、抑圧と解放の相克について議論する。

●授業計画
第１回　イントロダクション：抑圧の宗教、解放の宗教
第２回　アフリカ人とキリスト教
第３回　奴隷制とキリスト教
第４回　黒人のキリスト教受容
第５回　「見えざる教会」
第６回　「見える教会」へ
第７回　人種隔離体制とキリスト教
第８回　公民権運動と黒人教会
第９回　キング「牧師」
第10回　ブラック・パワー運動
第11回　黒人社会の二極化
第12回　黒人教会の現在
第13回　黒人共同体のスピリチュアリティ
第14回　アメリカ黒人と「出エジプト記」
第15回　黒人教会の霊的活力（1）歌
第16回　黒人教会の霊的活力（2）祈り
第17回　黒人教会の霊的活力（3）説教
第18回　ソウル・フード
第19回　ヒップホップ
第20回　キングとオバマ
第21回　アメリカ黒人とキリスト教再考
第22回　黒人奴隷とイスラーム
第23回　ムスリム移民
第24回　ネイション・オブ・イスラーム
第25回　マルコムX
第26回　黒人ムスリムからスンナ派ムスリムへ
第27回　現代アメリカにおけるイスラーム（1）ムスリム像
第28回　現代アメリカにおけるイスラーム（2）反イスラーム感情
第29回　アメリカ黒人とイスラーム再考
第30回　まとめ

●準備学習の内容
それぞれの時代・テーマについて、自分の研究に引きつけながら、疑問点やさらなる探究の可能性について、事前に考え、調べておくこと。

●テキスト
黒﨑真『アメリカ黒人とキリスト教―葛藤の歴史とスピリチュアリティの諸相』（神田外語大学出版局、2015 年）
大類久恵『アメリカの中のイスラーム』（子どもの未来社、2006 年）

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
毎回の授業への参加の姿勢（50%）、レポート（50%）で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米史特殊講義演習ⅡA

■単位
4

■担当教員名
大森　一輝

●授業の到達目標及びテーマ
1980年代のアメリカにおける都市の再建の物語を読むことで、格差を自己責任と切り捨てるのではない、別の社会の可能性を考える。

●授業の概要
『ダドリー通り』という街の荒廃と再生の記録から、協力・共生が、いかなる条件の下で、どのような意志と力によって、可能になるのかを読み解く。

●授業計画
第１回　イントロダクション―マサチューセッツ州ボストン市ロックスベリー地区ダドリー通りとはどのような場所か
第２回　ダドリーの歴史(1)繁栄と没落
第３回　ダドリーの歴史(2)貧困の激化
第４回　ダドリーの歴史(3)行政からも見捨てられて
第５回　ダドリーの変化(1)はじまり
第６回　ダドリーの変化(2)不信と分断を乗り越える
第７回　ダドリーの変化(3)地域と住民に根差した組織
第８回　ダドリーの変化(4)「ダドリー通り地区再生運動」
第９回　ダドリーの変化(5)外部の力を活用する
第10回　地域の力(1)行動で行政を動かす
第11回　地域の力(2)みんなで未来を描く
第12回　地域の力(3)できるはずのないことをやる①自分たちで土地を確保・管理する
第13回　地域の力(4)できるはずのないことをやる②自分たちで巨額の資金を調達する
第14回　地域の力(5)できるはずのないことをやる③自分たちで住宅開発をする
第15回　地域の志(1)人を大切にする経済
第16回　地域の志(2)コミュニティの権利宣言
第17回　地域の志(3)次の世代を育成する
第18回　地域の志(4)若者を対等なパートナーにする
第19回　地域の志(5)今を生きる
第20回　ダドリーの事例から学ぶべきこと(1)社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)論の実践
第21回　ダドリーの事例から学ぶべきこと(2)カラーブラインド論への反証
第22回　ダドリーの事例から学ぶべきこと(3)女性と若者の活躍
第23回　ダドリーの事例から学ぶべきこと(4)トップダウンかボトムアップかという不毛な二項対立
第24回　ダドリーの事例から学ぶべきこと(5)思いを拾い集め、つなぎ合わせる
第25回　ダドリーの事例はどれだけ特殊か？(1)ダドリーの現在
第26回　ダドリーの事例はどれだけ特殊か？(2)他の地域の再生①アメリカ国内
第27回　ダドリーの事例はどれだけ特殊か？(3)他の地域の再生②アメリカ国外
第28回　ダドリーの事例はどれだけ特殊か？(4)行政や財団との関わりはどうあるべきか
第29回　ダドリーの事例はどれだけ特殊か？(5)中心を持たない永続的な統合は本当に可能か
第30回　まとめ

●準備学習の内容
事前にテキストを精読しておくことが求められるが、その際には、つねに、この事例の普遍性と特殊性に留意すること。

●テキスト
ピーター・メドフ、ホリー・スクラー(大森一輝・森川美生訳)『ダドリー通り―破壊された街の再生の物語』(東洋書店、2011年)

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
毎回の授業への参加の姿勢(50%)、レポート(50%)で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米史特殊講義演習ⅡB

■単位
4

■担当教員名
大森　一輝

●授業の到達目標及びテーマ
黒人解放思想の錯綜を解きほぐす。同時に、思想史研究の方法を体得することを目標とする。

●授業の概要
大森の著書を批判的に検討する。

●授業計画
第１回　イントロダクション―思想史研究の醍醐味と落とし穴
第２回　人種という枷、人種という絆
第３回　初期の黒人法律家(1)ジョージ・L・ラフィン
第４回　初期の黒人法律家(2)アーチボールド・H・グリムケ
第５回　黒人にとっての「メルティングポット」
第６回　黒人にとっての「メリトクラシー」
第７回　南北戦争と黒人―ジェームズ・H・ウルフ
第８回　「愛国者」としての黒人
第９回　黒人軍人の思い
第10回　真の「アメリカ人」―アレクサンダー・クランメル
第11回　人種を越えた「アメリカ」
第12回　アフリカに「アメリカ」を作る
第13回　リベリア共和国のその後
第14回　ブッカー・T・ワシントンが守ろうとしたもの
第15回　黒人の実績を記録する―モンロー・N・ワーク
第16回　偏見と事実
第17回　客観性と黒人性
第18回　W・E・B・デュボイスは、どこが偉大なのか
第19回　ウィリアム・モンロー・トロッターという悲喜劇
第20回　黒人であることを否定する黒人指導者
第21回　「非黒人」指導者の復権
第22回　マーカス・ガーヴィは、黒人であることの何を誇ったのか
第23回　シェルビー・スティールの自尊心
第24回　グレン・ラウリーの過ち
第25回　カラーブラインド論の系譜
第26回　黒人保守派という倒錯
第27回　「人種」という虚構、「人種」という希望
第28回　アメリカ合衆国における人種(1)黒人という特殊な経験
第29回　アメリカ合衆国における人種(2)黒人以外の「非白人」
第30回　まとめ

●準備学習の内容
担当教員の著書であるからこそ、批判的に読むことが求められる。毎回事前に「欠点」＝今後研究をさらに進展させるべきポイントをまとめておくこと。

●テキスト
大森一輝『アフリカ系アメリカ人という困難―奴隷解放後の黒人知識人と「人種」』(彩流社、2014年)

●参考書
授業の中で説明する。

●学生に対する評価
毎回の授業への参加の姿勢(50%)、発表(50%)で評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米史特殊講義Ⅲ	4	仲松　優子

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは、「フランス近世・近代の政治実践とジェンダー」。16−19 世紀頃を対象時代として、フランスにおける政治や社会の変化にジェンダーがどのような影響を与えているのかという点について、フランス語圏および英語圏における研究史を整理し理解することを目標とする。

●授業の概要

おもにフランス語文献に依拠しながら、フランス革命前後の時代をジェンダーの視点で読み直していく。女性史およびジェンダー史の研究蓄積によってこれまでに明らかにされてきた方法や概念を学び、さらに具体的にフランス革命の時代における政治と社会についての実証研究を検証し、課題を検討していく。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　Cahiers de doléancesの全体の傾向
第３回　Cahiers de doléances des femmesの作成段階
第４回　Cahiers de doléancesの史料状況
第５回　アンシアン・レジーム期の政治的代表をめぐる議論
第６回　革命前の政治改革
第７回　革命前の政治改革の結果
第８回　議会制度改革と政治的議論
第９回　革命前の女性の政治的権利
第10回　女性の社会・経済活動
第11回　女性の政治活動
第12回　Pétition des femmes
第13回　Pétition des femmes du Tiers-Etat au Roi
第14回　Pétition des femmes du Tiers-Etat au Roi de Paris
第15回　1学期のまとめ
第16回　聖職者身分と女性
第17回　貴族身分と女性
第18回　第三身分と女性
第19回　Doléances de dames religieuses
第20回　Doléances des Soeurs
第21回　Plaintes des Soeurs
第22回　女性の政治組織
第23回　女性の市民的権利
第24回　女性による出版活動
第25回　オランプ・ド・グージュが生まれた背景
第26回　オランプ・ド・グージュの活動
第27回　「女性の権利宣言」
第28回　国民議会と女性の活動
第29回　L'affirmation politique
第30回　2学期のまとめ

●準備学習の内容

テキストを読みながらすすめていくので、毎回の授業にあたって逐語訳をしておくこと。

●テキスト

1789: Cahiers de doléances des femmes et autres textes, Alençon, 1989.
これ以外の文献については、授業内で指示する。

●参考書

各授業の際に、テーマに即した参考書を指摘する。

●学生に対する評価

授業における発表や討論から評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米史特殊講義演習ⅢA	4	仲松　優子

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは「史料と歴史研究」。修士論文作成にむけて、文献や史料を収集するうえでの具体的な方法を身につけ、さらに歴史研究を基礎づける史料をめぐる議論の経緯を理解することを目標とする。

●授業の概要

フランスにおける文献や史料の収集の方法を学ぶ。また、フランスやヨーロッパさらには日本における史料をめぐる具体的な議論をとりあげ、そこから修士論文作成のヒントをえて実践し、報告をしてもらう。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　フランスの資・史料収集の方法
第３回　フランスの県文書館
第４回　フランスの国立文書館
第５回　フランスの実証主義歴史学の誕生
第６回　フランスの実証主義歴史学への批判
第７回　『アナール』の誕生の制度的条件
第８回　『アナール』と社会史の方法論
第９回　社会史と史料論
第10回　戦後歴史学と社会史
第11回　「歴史学の危機」
第12回　認識論の転換
第13回　歴史への問い
第14回　歴史をいかに書くか
第15回　第１学期まとめと討論
第16回　各自の研究課題発表
第17回　各自の研究課題発表に対する指導・助言
第18回　史料と政治
第19回　史料と「民衆」
第20回　史料の読解論
第21回　修士論文作成のための文献収集の方法
第22回　修士論文作成のための資・史料収集の方法
第23回　史料の実証的読解
第24回　史料の表象的読解
第25回　史料の世界と実存
第26回　史料読解の方法と歴史家
第27回　史料読解における歴史家の認識論
第28回　第2学期まとめと討論
第29回　各自の研究課題発表
第30回　各自の研究課題発表に対する指導・助言

●準備学習の内容

参考文献を指示するので、講読し問題点を整理すること。また、各自の研究課題にそくして研究発表の準備をすること。

●テキスト

適宜プリントを配布する。

●参考書

授業のテーマにそくして指摘する。

●学生に対する評価

授業における討論や、各自の研究発表により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米史特殊講義演習ⅢB

■単位
4

■担当教員名
仲松　優子

●授業の到達目標及びテーマ
テーマは「歴史研究の歴史性」。歴史研究の認識の枠組みがどのように歴史や社会に規定されているのかという点を理解しながら、各自の研究課題による修士論文を完成させることを目標とする。

●授業の概要
各自の研究課題にそくして、修士論文を作成するための方法を実践し、発表を重ねていく。また、「アンシアン・レジーム」や「フランス革命」が、なぜ歴史研究の対象となり、社会の変化においてどのように研究の視点が変わってきたのかという点を例として、研究と社会の相互規定性を考える。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　各自の研究課題の発表
第３回　各自の研究課題の発表に対する指導・助言
第４回　文献および史料検索の方法
第５回　修士論文のための文献目録の作成
第６回　先行研究の整理
第７回　歴史用語としての「アンシアン・レジーム」
第８回　時代区分論（フランスの場合）
第９回　時代区分論（英語圏の場合）
第10回　時代区分論（日本の場合）
第11回　時代区分論（その他の地域の場合）
第12回　フランス革命と「近代」
第13回　修士論文の最初の草稿の発表
第14回　草稿への指導・助言
第15回　第１学期のまとめ
第16回　修士論文の草稿の進捗発表
第17回　修士論文の課題について指導・助言
第18回　フランス革命の時代区分論
第19回　フランス革命とアンシアン・レジームの相互規定性
第20回　フランス革命と復古王政
第21回　フランス革命と帝政
第22回　フランス革命と共和政
第23回　フランス革命と現在のフランス
第24回　修士論文の草稿の進捗状況と課題の整理
第25回　修士論文の草稿の課題について指導・助言
第26回　歴史学用語の概念規定
第27回　歴史学事典の成り立ち
第28回　修士論文の構成の確認
第29回　第２学期のまとめ
第30回　全体のまとめ

●準備学習の内容
修士論文の文献目録の作成、先行研究の整理、草稿の発表。

●テキスト
適宜プリントを配布する。

●参考書
授業テーマにそくしてその都度指摘する。

●学生に対する評価
修士論文の作成段階の発表や討論による。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
環境文化特殊講義 eI

■単位
4

■担当教員名
小松　かおり

●授業の到達目標及びテーマ
人間と自然の関係を学ぶ研究方法を、生態人類学の手法を中心に学ぶ。生態人類学の基本的な研究手法を理解することを目標とする。

●授業の概要
生態人類学は、人間と自然の関係を、生業を中心として研究してきた学問分野である。本講義では、自然と深く関わる小集団の人々を対象として始まり、徐々に射程を広げてきた生態人類学を中心に、環境史、ポリティカル・エコロジーなど、最近の隣接分野との交流の成果なども取り入れ、生業を中心とした人間と自然の関係のあり方の研究について学ぶ。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　人間の生物学的枠組み
第３回　人類進化の歴史
第４回　ヒトらしさとは何か（家族）
第５回　ヒトらしさとは何か（食）
第６回　ヒトらしさとは何か（共感と政治）
第７回　ヒトらしさとは何か（平等と不平等）
第８回　アフリカの狩猟採集社会１　ブッシュマンの暮らし
第９回　アフリカの狩猟採集社会２　ピグミーの暮らし
第10回　アフリカの狩猟採集社会３　食物分配と平等性
第11回　アフリカの狩猟採集社会４　グローバル化と狩猟採集民
第12回　アフリカの牧畜社会1　家畜と生きる
第13回　アフリカの牧畜社会2　規則と折衝
第14回　アフリカの牧畜社会３　グローバル化と牧畜民
第15回　アフリカの農耕社会1　熱帯雨林の焼畑
第16回　アフリカの農耕社会２　焼畑の語られ方
第17回　アフリカの農耕社会３　農と社会
第18回　アフリカの農耕社会４　グローバル化と焼畑農耕民
第19回　自然保護と地域住民1　国立公園と狩猟採集民
第20回　自然保護と地域住民２　国立公園と農民
第21回　自然保護と地域住民３　ブッシュミートと地域住民
第22回　コモンズ1　土地を共有する
第23回　コモンズ2　海を共有する
第24回　コモンズ3　里山
第25回　コモンズ４　入会
第26回　農と権力１　アグリビジネス企業と小農
第27回　農と権力2　種はだれのものか
第28回　農と権力3　農産物の貿易
第29回　農と権力4　水の現状
第30回　まとめ

●準備学習の内容
毎回指定されたテキストを読んでくること。

●テキスト
なし

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
予習と討論への参加、2回のレポートの総合評価。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 環境文化特殊講義演習 eIA	■単位 4	■担当教員名 小松　かおり

●授業の到達目標及びテーマ
　アフリカの食と農の研究と、その方法論について学ぶ。ひとつの地域を対象とした多角的な方法論を理解することを目標とする。

●授業の概要
　数冊のテキストを読み、分担して授業で発表する。

●授業計画
第１回　アフリカの農の全体像
第２回　アフリカの食の全体像
第３回　中部熱帯雨林の焼畑と混作
第４回　中部熱帯雨林の生業複合
第５回　大湖地帯のバナナ文化
第６回　西アフリカの米作文化
第７回　西アフリカのイモ文化
第８回　西アフリカの雑穀文化
第９回　エチオピアの雑穀文化
第10回　エチオピアのエンセーテ
第11回　植民地とプランテーション
第12回　オアシスの農業
第13回　ザンビアにおける緑の革命
第14回　ザンビアにおける農の改変
第15回　ガーナにおけるカカオ農業の歴史
第16回　ガーナにおける農地の疲弊
第17回　農牧民の生業
第18回　脱植民地の農業政策
第19回　農業政策の変遷
第20回　農と新植民地主義
第21回　アフリカの主食
第22回　発酵食品の歴史
第23回　共食の文化
第24回　商品作物の歴史
第25回　商品作物と主食作物
第26回　商品作物とグローバリゼーション
第27回　難民と農業
第28回　農業史の歴史観
第29回　小作農の新たな試み
第30回　土地収奪

●準備学習の内容
分担して文献を担当する。分担部分のレジュメを作成する。

●テキスト
授業時に指示する。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
発表5割、討論への参加5割。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 環境文化特殊講義演習 eIB	■単位 4	■担当教員名 小松　かおり

●授業の到達目標及びテーマ
　人間と自然の関係を研究する分析の方法論と研究成果を学ぶ。研究テーマの探し方と掘り下げ方について理解することを目標とする。

●授業の概要
　前期は、前半に生態人類学の視点のひとつひとつを深く学び、後半に、世界のバナナ栽培文化を事例に、分析の方法論を学ぶ。
　後期は、沖縄を対象として、生業と市場について学ぶ。

●授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　生態人類学の歴史
第３回　生態人類学の視点・進化
第４回　生態人類学の視点・適応
第５回　生態人類学の視点・技術
第６回　生態人類学の視点・生業
第７回　生態人類学の視点・生業複合
第８回　バナナ栽培文化研究の視点１・アフリカ中部の文化
第９回　バナナ栽培文化研究の視点２・アフリカ東部の文化
第10回　バナナ栽培文化研究の視点３・遺物と歴史
第11回　バナナ栽培文化研究の視点４・遺伝子と歴史
第12回　バナナ栽培文化研究の視点５・農と食
第13回　バナナ栽培文化研究の視点６・農耕文化の比較研究
第14回　バナナ栽培文化研究の視点７・世界の多重性
第15回　前半のまとめ
第16回　沖縄の漁業
第17回　沖縄の農業
第18回　沖縄の観光業
第19回　沖縄の市場
第20回　沖縄の市場の技法
第21回　沖縄の市場の変容
第22回　沖縄の漁村の変容
第23回　沖縄の農村の変容
第24回　沖縄の在来家畜のブランド化
第25回　沖縄の市場と豚肉食文化
第26回　市場から見る沖縄の生業
第27回　市場と小商売
第28回　市場と商店街
第29回　市場の潜在力
第30回　まとめ

●準備学習の内容
調査計画を立て、必要な参考文献を探して紹介すること。

●テキスト
なし。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
予習と授業への参加、適宜課す小レポートの総合評価。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
環境文化特殊講義eⅡ	4	柴田　崇

●授業の到達目標及びテーマ

サイボーグ論の歴史に足跡を残すダナ・ハラウェイの著書を精読し、現代の技術が身体、性、環境、人間性に及ぼす影響を考える力を養う。

●授業の概要

ダナ・ハラウェイのサイボーグ概念に接近するにあたり、まずは「対話」から成る作品から始め、ハラウェイの自然観、技術観、フェミニズムに関する論考を載せた『猿と女とサイボーグ』、そして、ハラウェイ流の「サイボーグ」概念を謳い上げた出発点の「サイボーグ宣言」を所収する『サイボーグ・フェミニズム』の順で読み進める。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　「第一章」『サイボーグ・ダイアローグズ』
第３回　「第二章」『サイボーグ・ダイアローグズ』
第４回　「第三章」『サイボーグ・ダイアローグズ』
第５回　「第四章」『サイボーグ・ダイアローグズ』
第６回　「第五章」「結び」『サイボーグ・ダイアローグズ』
第７回　「付録I」『サイボーグ・ダイアローグズ』
第８回　「付録Ⅱ」『サイボーグ・ダイアローグズ』
第９回　全体のまとめとディスカッション:論点の確認と深化
第10回　「第一章 動物社会学とボディポリティクスの自然経済」『猿と女とサイボーグ』
第11回　「第二章 過去こそが、論争の場である」『猿と女とサイボーグ』
第12回　「第三章 生物学というエンタプライズ」『猿と女とサイボーグ』
第13回　「第1部（第一章～第三章）」の論点の整理
第14回　「第四章 はじめにことばありき」『猿と女とサイボーグ』
第15回　「第五章 霊長類の本質を目指した争い」『猿と女とサイボーグ』
第16回　「第六章 プチ・エメチェタを読む」『猿と女とサイボーグ』
第17回　「第2部（第四章～第六章）」の論点の整理
第18回　「第七章 マルクス主義事典のための「ジェンダー」」『猿と女とサイボーグ』
第19回　「第八章 サイボーグ宣言」『猿と女とサイボーグ』
第20回　「第九章 状況に置かれた知」『猿と女とサイボーグ』
第21回　「第十章 ポスト近代の身体／生体のバイオポリティクス」『猿と女とサイボーグ』
第22回　「第3部（第七章～第十章）」の論点の整理
第23回　全体のまとめとディスカッション:論点の確認と深化
第24回　D･ハラウェイに関する先行研究の調査と発表1
第25回　「序章 ひとつではないサイボーグの性」『サイボーグ・フェミニズム』
第26回　「第一章 サイボーグ宣言」『サイボーグ・フェミニズム』
第27回　「第二章 サイボーグ・フェミニズム」『サイボーグ・フェミニズム』
第28回　「第三章 なぜジェンダーを呼び戻すのか?」『サイボーグ・フェミニズム』
第29回　「終章 M･バタフライ、あるいは」『サイボーグ・フェミニズム』
第30回　全体のまとめとディスカッション:論点の確認と深化

●準備学習の内容

受講者全員が該当箇所を精読し、発表を担当する者はレジュメを準備する。

●テキスト

ダナ・ハラウェイほか（高橋透ほか訳）『サイボーグ・ダイアローグズ』水声社
ダナ・ハラウェイ（高橋さきの訳）『猿と女とサイボーグ:自然の再発明（新装版）』青土社
ダナ・ハラウェイほか（巽孝之編･訳）『サイボーグ・フェミニズム』水声社

●参考書

適宜紹介する。

●学生に対する評価

発表、発表へのコメントなど、授業への貢献度で評価する。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
環境文化特殊講義演習eⅡA	4	柴田　崇

●授業の到達目標及びテーマ

アンディ･クラークの『生まれながらのサイボーグ』、およびクラークのその他の著書を読み込むことで、そのサイボーグ論の射程を画定し、さらにクラークの認知科学の哲学の核心を成す「拡張する心」のアイディアを批判的に検証する地点にまで到達することを目指す。

●授業の概要

アンディ･クラークの『生まれながらのサイボーグ』は、21世紀のサイボーグ論を主導する一冊として認知されている。この授業では、『生まれながらのサイボーグ』の読解を皮切りに、「心」に関する思索を集成した『現れる存在』、近著（Supersizing the mind）の導入部、そして「拡張する心」を提唱した論文に遡りつつ精読を進め、クラークの認知科学の哲学の核心的アイディアである「拡張する心」を検証し、サイボーグ論の現在を理解する。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　「第一章 サイボーグ･アンプラグド」『生まれながらのサイボーグ』
第３回　「第二章 接合されるテクノロジー」『生まれながらのサイボーグ』
第４回　「第三章 可塑性のある脳、ハイブリッドな心」『生まれながらのサイボーグ』
第５回　「第四章 わたしたちはどこにいるのか?」『生まれながらのサイボーグ』
第６回　「第五章 わたしたちは何なのか?」『生まれながらのサイボーグ』
第７回　「第六章 世界規模の群行動」『生まれながらのサイボーグ』
第８回　「第七章 悪のサイボーグ?」『生まれながらのサイボーグ』
第９回　「第八章 結び」『生まれながらのサイボーグ』
第10回　全体のまとめとディスカッション:論点の確認と深化
第11回　「序」「イントロダクション」『現れる存在』
第12回　「第一章 自律的なエージェント」『現れる存在』
第13回　「第二章 状況に置かれた幼児」『現れる存在』
第14回　「第三章 心と世界」『現れる存在』
第15回　「第四章 集合の叡智、粘菌流」『現れる存在』
第16回　「第I部（序章～第四章）」の論点の整理
第17回　「第五章 ロボットを進化させる」『現れる存在』
第18回　「第六章 創発と説明」『現れる存在』
第19回　「第七章 神経科学的なイメージ」『現れる存在』
第20回　「第八章 存在する／計算する／表象する」『現れる存在』
第21回　「第Ⅱ部（第五章～第八章）」の論点の整理
第22回　「第九章 心とマーケット」『現れる存在』
第23回　「第十章 言語」『現れる存在』
第24回　「第十一章 心、脳、それとマグロの話」「エピローグ」『現れる存在』
第25回　「第Ⅲ部（第九章～エピローグ）」の論点の整理
第26回　「付録」『現れる存在』
第27回　全体のまとめとディスカッション:論点の確認と深化
第28回　“Introduction: BRAINBOUND Versus EXTENDED”, *Supersizing the mind.*
第29回　“11 Appendix: The Extended Mind”, *Supersizing the mind.*
第30回　全体のまとめとディスカッション:論点の確認と深化

●準備学習の内容

受講者全員が該当箇所を精読し、発表を担当する者はレジュメを準備する。

●テキスト

アンディ･クラーク（呉羽真ほか訳）『生まれながらのサイボーグ』春秋社
アンディ･クラーク（池上高志ほか訳）『現れる存在』早川書房
＊英語文献（Supersizing the mind）については該当箇所のコピーを配布する。

●参考書

適宜紹介する。

●学生に対する評価

発表、発表へのコメントなど、授業への貢献度で評価する。

■授業科目名 環境文化特殊講義演習eⅡB	■単位 4	■担当教員名 柴田　崇

●授業の到達目標及びテーマ

ダナ・ハラウェイの著書を、特に「サイボーグ」概念の提起後の展開に注目しながら精読し、その思想的特性の理解を目指す。

●授業の概要

環境文化特殊講義eⅡの成果をベースに、ハラウェイの思想の広がりを体験するための著書（『犬と人が出会うとき』『伴侶種宣言』）を精読する。

●授業計画

第１回　ガイダンス
第２回　「1 種と種が出会うとき」『犬と人が出会うとき』
第３回　「2 価値を帯びた犬と生きた資本」『犬と人が出会うとき』
第４回　「3 苦しみを分かち合う」『犬と人が出会うとき』
第５回　「4 検証される生」『犬と人が出会うとき』
第６回　「5 雑種犬のクローンを作製し、虎を救い出す」『犬と人が出会うとき』
第７回　「6 健常な体と伴侶種」『犬と人が出会うとき』
第８回　「7 友として結ばれた種」『犬と人が出会うとき』
第９回　「8 コンタクト・ゾーンでトレーニングする」『犬と人が出会うとき』
第10回　「9 クリッターカム」『犬と人が出会うとき』
第11回　「10 チキン」『犬と人が出会うとき』
第12回　「11テクノ文化にあって伴侶種となること」『犬と人が出会うとき』
第13回　「12 最後の食事」『犬と人が出会うとき』
第14回　全体のまとめとディスカッション:論点の確認と深化
第15回　「創発する自然」『伴侶種宣言』
第16回　「抱握」『伴侶種宣言』
第17回　「伴侶たち」『伴侶種宣言』
第18回　「種」『伴侶種宣言』
第19回　「進化の物語」『伴侶種宣言』
第20回　「愛の物語」『伴侶種宣言』
第21回　「トレーニングの物語」『伴侶種宣言』
第22回　「ポジティブな絆」『伴侶種宣言』
第23回　「荒々しい美しさ」『伴侶種宣言』
第24回　「アジリティー修業」『伴侶種宣言』
第25回　「ゲームの物語」『伴侶種宣言』
第26回　「犬種の物語」『伴侶種宣言』
第27回　「グレート・ピレニーズ」『伴侶種宣言』
第28回　「オーストラリアン・シェパード」『伴侶種宣言』
第29回　「自分だけのカテゴリー」『伴侶種宣言』
第30回　全体のまとめとディスカッション:論点の確認と深化

●準備学習の内容

受講者全員が該当箇所を精読し、発表を担当する者はレジュメを準備する。

●テキスト

ダナ・ハラウェイ（高橋さきの訳）『犬と人が出会うとき』青土社
ダナ・ハラウェイ（永野文香ほか訳）『伴侶種宣言』以文社

●参考書

適宜紹介する。

●学生に対する評価

発表、発表へのコメントなど、授業への貢献度で評価する。

■授業科目名 論文指導	■単位 2	■担当教員名 各指導教員（主査）

●授業の到達目標及びテーマ

到達目標：修士課程修了後も、持続して研究活動を行うにたる基礎的かつ汎用的な能力・知見・倫理的規範等の獲得

テーマ：修士論文の完成

●授業の概要

本授業は、社会人特例入学者のうち長期履修制度を利用する学生を対象として、受講生各人が特殊講義および特殊講義演習A・Bにおける学修成果をふまえ、年度初めに主査と副査の指導のもとに提出する修士論文研究計画届に基づき、修士論文を完成させるために必要な指導を行うものである。

●授業計画

受講生各人の研究計画と論文の進捗度にしたがい、研究史の整理と先行研究の検証、史資料の調査、仮説・課題設定、論文構成（目次案）・形式等について指導を行うと共に、論文草稿に対する質疑応答を行う。

●準備学習の内容

研究計画に応じた作業を行うと共に、副査に対しても適宜、自身の研究に対する意見を求めること。

●テキスト

特になし。

●参考書

適宜、紹介する。

●学生に対する評価

研究計画および到達目標の達成度によって評価する。

【日本文化専攻　博士（後期）課程】

授業科目及び講義概要

文学研究科日本文化専攻博士（後期）課程の科目履修について

博士（後期）課程の科目群は「言語･思想文化科目」と「歴史･環境文化科目」の２分野からなっているが，科目履修にあたっては「大学院設置基準」の修士課程における教育目的にもとづき，次の原則を考慮すること。

「専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業に必要な高度の能力」を養うために，指導教授の論文指導特殊演習 12 単位を必修とする。

授業科目及び担当者

言語・思想文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	4	教授 鈴木 英之	1	15以降	63
［非開講］日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	4	教授 鈴木 英之	2	15以降	63
［非開講］日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	4	教授 鈴木 英之	3	15以降	64
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	4	教授 田中 綾	1	15以降	64
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	4	教授 田中 綾	2	15以降	65
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	4	教授 田中 綾	3	15以降	65
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	4	教授 徳永 良次	1	15以降	66
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	4	教授 徳永 良次	2	15以降	66
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	4	教授 徳永 良次	3	15以降	67
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	4	教授 大谷 通順	1	15以降	67
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤB	4	教授 大谷 通順	2	15以降	68
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤC	4	教授 大谷 通順	3	15以降	68
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦA	4	教授 大石 和久	1	15以降	69
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦB	4	教授 大石 和久	2	15以降	69
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦC	4	教授 大石 和久	3	15以降	70

歴史・環境文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠA	4	教授 片岡 耕平	1	15以降	71
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠB	4	教授 片岡 耕平	2	15以降	71

授業科目及び担当者

歴史・環境文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠC	4	教授 片　岡　耕　平	3	15以降	72
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	4	教授 郡　司　　淳	2	15以降	72
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	4	教授 郡　司　　淳	2	15以降	73
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	4	教授 郡　司　　淳	3	15以降	73
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	4	教授 手　塚　　薫	1	15以降	74
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	4	教授 手　塚　　薫	2	15以降	74
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	4	教授 手　塚　　薫	3	15以降	75
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	4	教授 須　田　一　弘	1	15以降	75
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	4	教授 須　田　一　弘	2	15以降	76
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	4	教授 須　田　一　弘	3	15以降	76

言語・思想文化科目、歴史・環境文化科目共通

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
論文指導Ⅰ・Ⅱ	各2	各指導教員（主査）	3	15以降	77

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	4	鈴木　英之

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文作成のためのテーマ策定、ならびに資料収集を行う。

●授業の概要
修士論文の再検討をはじめ、博士論文にふさわしいテーマと研究方法の策定を行う。

●授業計画
（前期）
4月　修士論文の成果と問題点についての検討
5～6月　博士論文のテーマの策定・先行研究・資料の収集・確認
7月　前期の成果発表と教員による指導

（後期）
9月　夏の成果の発表ならびに博士論文のテーマ策定
10月～12月　博士論文のテーマの策定
1～2月　後期の成果発表と教員の指導

●準備学習の内容
随時、教員の指導を受けながらテーマ設定を行うこと。

●テキスト
使用しない。

●参考書
受講者のテーマにしたがって適宜指示する。

●学生に対する評価
平常点（受講態度40%、課題および参加度60%）

■授業科目名	■単位	■担当教員名
［非開講］ 日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	4	鈴木　英之

●授業の到達目標及びテーマ
学会での口頭発表、学術論文の投稿・発表を行う。

●授業の概要
学術論文の作成方法を学び、実際に執筆・投稿することで博士論文の基礎とする。

●授業計画
（前期）
4月　投稿論文の準備　テーマの策定
5月　資料・文献収集
6月　文献講読
7月　前期の成果発表と教員による指導

（後期）
9～12月　文献調査と論文の作成
1～2月　投稿論文の作成・指導

●準備学習の内容
先行研究や学会動向に気を配り、自らの研究の意義について常に考えること。

●テキスト
受講者のテーマにしたがって適宜指示する。

●参考書
受講者のテーマにしたがって適宜指示する。

●学生に対する評価
平常点（受講態度40%、課題および参加度60%）

■授業科目名	■単位	■担当教員名
［非開講］ 日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	4	鈴木　英之

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文を執筆・完成させる。

●授業の概要
特殊演習ⅡA・ⅡBでの成果をもとに博士論文完成に向けた指導を行う。

●授業計画
学生の研究成果について教員が評価と指導を行うことで、学術水準の高い博士論文を完成させる。

（前期）
4月　博士論文の構想発表と教員の指導
5～6月　博士論文の執筆と・先行研究・資料の収集・確認
7月　前期の成果発表と教員による指導

（後期）
9月　夏の成果の発表ならびに博士論文の執筆状況確認
10月～12月　博士論文の執筆・資料の読解
1～2月　博士論文の執筆・完成

●準備学習の内容
先行研究や学会動向に気を配り、自らの研究の意義について常に考えること。

●テキスト
指示しない。適宜指示する。

●参考書
指示しない。適宜指示する。

●学生に対する評価
平常点（受講態度40%、課題および参加度60%）

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	4	田中　綾

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文執筆に向けてテーマを確定し、関連する文学史年表を整理しながら、文献・資料の収集につとめる。

●授業の概要
修士論文またはこれまでの学修成果を見直し、上記目標の達成のために先行研究を読み深め、批判的検討を加えてゆく。

●授業計画
4月（修士論文の検討）

5～9月（研究史の整理）

10 ～2月（先行研究の検討／文学史の整理）

●準備学習の内容
年間計画の作成、関連文献リストの作成。

●テキスト
事前には指定しない。

●参考書
その都度指示する。

●学生に対する評価
平常点（出席点は含まない）（40%）と、定期的に提出する報告書（60%）によって、総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	4	田中　綾

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の基礎となる投稿論文を執筆する。

●授業の概要
一年目の成果を踏まえ、博士論文の基礎となる投稿論文(『年報新人文学』)の執筆をおこなう。

●授業計画
4 月　前年度の成果と課題

5 ～ 7 月　投稿論文の構成

8 ～ 11 月　資料調査と先行研究の批判と補足

12 ～ 2 月　論文の成果と課題の検証

●準備学習の内容
先行研究を精読し、批判的検証と補足をおこなう。

●テキスト
事前には指定しない。

●参考書
その都度指示する。

●学生に対する評価
平常点(出席点は含まない)(40%)と、定期的に提出する報告書(60%)によって、総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	4	田中　綾

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文完成を目指して、期限内に執筆してゆく。

●授業の概要
特殊演習ⅢＡ、ⅢＢに引き続き、博士論文執筆を計画的に進める。

●授業計画
4 月　前年度の成果と課題

5 ～ 7 月　博士論文の構成

8 ～ 11 月　資料調査と先行研究の批判と補足

12 ～ 2 月　論文の成果と課題の検証

●準備学習の内容
先行研究を精読し、批判的検証と補足をおこなう。

●テキスト
事前には指定しない。

●参考書
その都度指示する。

●学生に対する評価
平常点(出席点は含まない)(40%)と、論文内容(60%)によって、総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語・思想文化論文指導特殊演習Ⅳ A	4	徳永　良次

●授業の到達目標及びテーマ
　これまでの学習成果を基に、研究テーマの設定・検討を実施する。

●授業の概要
　上記目標を達成するために、先行研究の探索・批判的検討を行う。さらに、対象となる資料等を収集し、用例収集・分析・検討を行っていく。

●授業計画
　博士論文作成のための基礎作業を中心に行っていく。

　修士論文、その他自己の発表した研究に対して、改めて検討を行う。理論面・実証的側面の両方から、関連文献・資料の収集を行う。

　必要に応じて、関連文献・資料の講読や用例分析を実施する。

●準備学習の内容
大学院での研究の総集編となることから、綿密な準備が欠かせない。随時、テーマについての妥当性・科学的正当性を検証するために、指導・点検を受けること。

●テキスト
特になし

●参考書
必要に応じて、その都度指示する。

●学生に対する評価
平常点と、レポートによる総合評価
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語・思想文化論文指導特殊演習Ⅳ B	4	徳永　良次

●授業の到達目標及びテーマ
　研究テーマに従った、博士論文作成のための作業をすすめて、一定のメドをつける。

●授業の概要
　これまでに検討した、研究・資料収集について、実際に論文執筆作業を実施する。

●授業計画
　前期は、論文の構成を検討するとともに、それに従った論文作成を行う。

　後期は、これを基に再検討し、必要に応じて内容の検討を行う。

●準備学習の内容
論文をいくつかのパートに分割して考え、そのパートごとに実際に執筆出来るようにする。そのための、発表・点検を随時受けられるようにしておくこと。

●テキスト
特になし

●参考書
必要に応じて、その都度指示する。

●学生に対する評価
平常点と、レポートによる総合評価
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	4	徳永　良次

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の作成完了を目標に、期限内に執筆を進めていく。

●授業の概要
これまでの、研究・資料収集・用例分析等を確実に論文作成に活かしていくための指導を行う。

●授業計画
博士論文完成のために、必要な指導を行う。

前期は、論文を一通り完成する事を目指して執筆していった部分について、指導する。
後期は、その成果を基に、さらに加筆・修正等を行っていく。

●準備学習の内容
論文作成のために、内容の構成・概要を作成し、これを基に論文を執筆していくこと。

●テキスト
特になし

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
平常点と論文内容を総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	4	大谷　通順

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の執筆にむけて、テーマをさだめ、必要な文献を収集する。

●授業の概要
修士論文を見なおし、そこから継承すべきこと、改善すべきこと、そして新たに切り拓くべきことを明確にする。関係する基礎理論について理解を深め、基本的な文献読解の技術を高める。

●授業計画
第１学期：① 修士論文の見なおし
② 博士論文のテーマ設定
③ 関係する基礎理論と文献資料の洗い出し

第２学期：① 基礎理論の学習
② 文献資料の読解
③ 研究テーマの掘り下げ

●準備学習の内容
構想・調査・分析の諸結果、そして細々とした発想にいたるも、必ず「言語化」・「文字化」して提示し、ストックし、教員と共有すること。

●テキスト
事前には指定しない。

●参考書
授業中に指定する。

●学生に対する評価
授業中の発言（40％）と、定期的に提出してもらう報告書（60％）によって、総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本語・思想文化論文指導特殊演習ＶＢ	4	大谷　通順

●授業の到達目標及びテーマ
執筆作業をとおして、論文の具体像を明確にさせる。

●授業の概要
ことばによって、思考を自己の外側に定位させ、他者（および他者の目を擬似的に獲得した自己）からの批判にさらすことで、誤謬訂正や針路修正、さらには思考のさらなる鍛錬をおこなう。

●授業計画
第１学期：①特殊演習ＶＡでの学習成果から、なにを、どう、論ずるのか検討
②論の展開を具体的にパラグラフ化
③構想の再検討と針路修正

第２学期：①修正をおぎなうための理論学習と資料収集
②構築中の論の一部を逐次発表し、批判をうける

●準備学習の内容
針路の修正に伴って、いつであろうと迅速に最初の一歩に立ちもどり、基礎理論の学習と文献収集を再スタートする。それを厭わないこと。

●テキスト
事前には指定しない。

●参考書
授業中に指定する。

●学生に対する評価
授業中の発言（40％）と、定期的に提出してもらう報告書（60％）によって、総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本語・思想文化論文指導特殊演習ＶＣ	4	大谷　通順

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の完成を目ざす。

●授業の概要
必要な文献資料の読解を継続しつつも、重点は論文の執筆に移る。所論の「弱み」と「強み」を見きわめ、「弱み」に対しては理論的・資料的補強（もしくは再構築）をはかり、「強み」についてはその確立に万全を期す。

●授業計画
特殊演習ＶＡ・ＶＢの進捗状況に基づき、早急に章立てを具体的に決定する。
上述の「弱み」と「強み」を洗い出す。
必要な補強・再構築・再確認をおこなう。

●準備学習の内容
授業での報告を、自身のペース・メーキングとして活用してほしい。

●テキスト
事前には指定しない。

●参考書
授業中に指定する。

●学生に対する評価
論文のできばえを見る。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅦA	4	大石　和久

●授業の到達目標及びテーマ
美学の方法論を学び、博士論文作成のための準備作業を行う。

●授業の概要
修士論文の成果と反省点を明らかにし、資料収集や先行研究の調査を行う。

●授業計画
４月　博士論文における問いの設定
５月　修士論文の成果と反省点の明確化
６～10月　資料収集
11～12月　先行研究をリストアップ
１～２月　現在までの達成点を確認

●準備学習の内容
テクストの内在的理解を試みておくこと

●テキスト
特に指定なし。

●参考書
随時紹介。

●学生に対する評価
講義において課す課題（40%）および年度末レポート（60%）
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅦB	4	大石　和久

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文作成するためのステップとして論文投稿することを目指す。

●授業の概要
『年報　新人文学』へ投稿論文を作成する。また、引き続き資料収集、先行研究の調査を行う。

●授業計画
４～９月　投稿論文における問いの設定

10～12月　投稿論文作成、および資料収集、先行研究の調査

１～２月　現在までの研究の再吟味

●準備学習の内容
テクストの内在的理解を試みておくこと

●テキスト
特に指定なし。

●参考書
随時紹介。

●学生に対する評価
講義において課す課題（40%）および投稿論文（50%）
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 日本言語･思想文化論文指導特殊演習Ⅶ C	■単位 4	■担当教員名 大石　和久

●授業の到達目標及びテーマ

博士論文作成ための計画を立て、実行する。

●授業の概要

問いの設定を再吟味し、論文の論理的展開（章立て）を検討しながら、博士論文を執筆する。

●授業計画

４月　問いの設定の再吟味、執筆計画の作成

５月　論文の論理的展開（章立て）の検討

６～12月　論文執筆と提出

１～２月　研究の今後の方向性の模索

●準備学習の内容

博士論文の執筆を自ら進めておくこと

●テキスト

特に指定なし。

●参考書

随時紹介。

●学生に対する評価

完成した論文を評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習IA	4	片岡　耕平

●授業の到達目標及びテーマ

自分の現在地を客観的に把握し、以降の展開を想定して、必要な論理や情報の収集を行う。

●授業の概要

第1学期は、自分の研究を客観的に再評価することから始め、周辺分野の研究史を確認する。自分の研究が、どのような方向に展開しうるのかを把握する作業である。

第2学期は、第1学期の結果を踏まえて、博士論文のテーマ設定と構想案作成から始め、それに必要な参考文献や史料の収集・整理・読解を行う。

●授業計画

第1学期：修士論文の研究史上の位置づけの再確認。
　　周辺分野の研究史の確認。
第2学期：博士論文のテーマ設定と構想案の作成。
　　史資料の洗い出し・整理・読解。

●準備学習の内容

研究史の整理・史資料リストの作成・史料読解の下調べ。

●テキスト

指定しない。

●参考書

適宜紹介する。

●学生に対する評価

授業中の発言（40%）と、課題の出来（60%）で評価する。
課題の評価は、都度コメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習IB	4	片岡　耕平

●授業の到達目標及びテーマ

博士論文作成を見据えて、投稿論文を作成する。

●授業の概要

特殊演習IAで行った史資料の整理・読解の成果を口頭発表し、学術論文としてまとめる。

●授業計画

4月：投稿論文の構成案作成。
5月～12月：投稿論文の作成。口頭発表。
1月：内容の調整と投稿。

●準備学習の内容

構成案の作成・口頭発表の準備・投稿論文の作成。

●テキスト

指定しない。

●参考書

適宜紹介する。

●学生に対する評価

論文作成過程で課す課題の出来（40%）と、論文の内容（60%）で評価する。
課題の評価は、都度コメントする。

■授業科目名
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習IC

■単位
4

■担当教員名
片岡　耕平

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文を完成させる。

●授業の概要
特殊演習IA･同Bで行った作業を通して、博士論文を完成させる。

●授業計画
4月：構成案の確定。
5月～12月：博士論文の作成。
1月：内容の調整。

●準備学習の内容
博士論文の作成。

●テキスト
指定しない。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
論文作成過程で課す課題の出来(40%)と、論文の内容(60%)で評価する。
課題の評価は、都度コメントする。

■授業科目名
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA

■単位
4

■担当教員名
郡司　淳

●授業の到達目標及びテーマ
受講生各人が，歴史理論の検討と史学史の整理をとおし，自己の研究課題の相対化・焦点化することを目標とする。

●授業の概要
博士論文作成のためには，修士論文の成果をふまえつつ，自らの内在的な問いを今一度研究課題として設定し直す必要がある。ここでいう研究課題とは，それが本質的な問いであるという意味において，他者と共有しうるものであると共に，研究史に位置づけて意義あるものでなくてはならない。そのため本特殊演習ⅡA では，受講生各人による史学史の整理と歴史理論の検討および教員による論文指導を反復して行うことで，自己の研究課題を相対化しつつ，焦点化していくという作業を同時並行的に行う。

●授業計画
授業では、博士論文執筆に向けた論文指導と、テキストを用いた歴史理論の検討と史学史の整理を併行して行う。その概要は次の通りである。

4月　修士論文の成果と課題／歴史理論の検討
5月～7月　論文の全体構想／歴史理論の検討
8月～2月　作業仮説の設定と資料調査／史学史の整理

●準備学習の内容
マルク・ブロック著／松村剛訳『新版　歴史のための弁明―歴史家の仕事―』，E･H・カー著／清水幾太郎訳『歴史とは何か』，およびテキストを事前に読み，その内容と論点を整理した上で、授業に臨むこと。

●テキスト
神山四郎『史学概論』慶応義塾大学出版会、1985年
小谷汪之『歴史の方法について』東京大学出版会、1985年
西川正雄・小谷汪之編『現代歴史学入門』東京大学出版会、1987年
今谷明･大濱徹也ほか編『20世紀の歴史家たち(1) 日本編(上)』刀水書房、1997年
今谷明･大濱徹也ほか編『20世紀の歴史家たち(2) 日本編(下)』刀水書房、1999年
今谷明･大濱徹也ほか編『20世紀の歴史家たち(5) 日本編(続)』刀水書房、2006年

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
準備学習に対する取り組み(50％)，発表(50％)
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	4	郡司　淳

●授業の到達目標及びテーマ

受講生各人が，地域史研究に学びつつ，自らの方法論を鍛えると共に，自己の研究課題に基づく作業仮説の設定することが目標となる。

●授業の概要

歴史研究では、自己の研究課題に基づき作業仮説を設定し、これを史資料や関連文献の検討を通じて再検証した上で、さらに新たな仮説設定を行う、という作業を繰り返しながら、研究を深化・発展させていくことが求められる。無論、ここでいう仮説とは、単なる思いつきの類ではなく、求める資料が存在しないことの確認を含め、資料調査を徹底的に行った上で、はじめて設定しうるものであるだけでなく、先行研究に対して新たな歴史像を提起するに足るものでなくてはならない。本特殊演習ⅡBでは、受講生各人がⅡAで得た知見をふまえ、『年報新人文学』への投稿論文を作成すると共に、上記のような博士論文作成のための具体的作業を行う。

●授業計画

授業では、博士論文執筆に向けた論文指導を中心に行う。この間、受講生には、『年報新人文学』への投稿論文の作成が求められる。その概要は次の通りである。

４月　前年度の成果と課題
５月～７月　博士論文の論文構成／投稿論文の作成
８月～ 12 月　作業仮説の再設定と資料調査／投稿露文の作成
１月～２月　先行研究への批判と課題設定／投稿論文の成果と課題の検証

●準備学習の内容

テキストを事前に読み、その内容と論点を整理した上で、授業に臨むこと。

●テキスト

適宜紹介する。

●参考書

適宜紹介する。

●学生に対する評価

準備学習に対する取り組み（50％）、発表（50％）
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	4	郡司　淳

●授業の到達目標及びテーマ

テーマは博士論文の執筆。受講生各人が博士論文を完成させることが目標となる。

●授業の概要

本特殊演習ⅡCでは，受講生各人が特殊演習ⅡA・ⅡBで得た知見をふまえ，書き上げた原稿をもとに博士論文を完成するための論文指導を反復して行う。私にとって唯一その方法とは，同じ研究者として，時に辛辣であることを含め，良き批判相手となることである。

●授業計画

授業では、12月の博士論文提出に向けて受講生による論文の執筆、指導教員による評価と批判、受講生による論文修正を反復して行う。1～2月は、博士論文の成果と課題をふまえ、今後の研究の方向性を定める作業を行う。

●準備学習の内容

博士論文の執筆

●テキスト

特に指定しない。

●参考書

特に指定しない。

●学生に対する評価

研究計画の到達度
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	■単位 4	■担当教員名 手塚　薫

●授業の到達目標及びテーマ
　文化人類学および環境人類学の理論と方法を学び、研究計画を立てる。

●授業の概要
　修士論文の成果を踏まえ、その課題を克服するための研究課題を設定し、予備調査を実施する。

●授業計画
計画は概ね次の通り

4月　修士論文の成果の分析と課題の洗い直し

5～6月　必要な先行研究を選択し、中身を要約

7月　新たな研究テーマの策定

8月　予備調査計画の策定

9～12月　予備調査の実施ととりまとめ

1～2月　その成果を発表して、議論を深める

●準備学習の内容
各回の講義内容に見合った文献や資料に接し、それらを読んで要点を押さえておくこと。

●テキスト
必要に応じて配布する。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
講義への参加度(50％)と発言内容(50％)で評価する。
課題の実施結果については個別にコメントする。

■授業科目名 日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	■単位 4	■担当教員名 手塚　薫

●授業の到達目標及びテーマ
　博士論文の研究計画の立案とその最初のステップとなる投稿論文の作成。

●授業の概要
　一年目で実施した予備調査の分析を踏まえ、本調査の研究計画を立て、博士論文の基礎となる投稿論文を作成する。

●授業計画
計画は概ね次の通り

4月　予備調査を分析し、本調査の計画を策定

5～6月　本調査の実施

7～8月　その分析と追加調査の実施

9月　投稿論文のテーマを設定

10月　途中経過を随時報告させながら議論を深める

11月～2月　投稿論文の作成とその指導

●準備学習の内容
各回の講義内容に見合った文献や資料に接し、それらを読んで要点を押さえておくこと。

●テキスト
必要に応じて配布する。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
講義への参加度(50%)と発言内容(50%)で評価する。
課題の実施結果については個別にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	4	手塚　薫

●授業の到達目標及びテーマ

博士論文作成のための準備と論文執筆を計画的に実行する。

●授業の概要

投稿論文の問題点を十分に認識したうえでテーマを再設定し、学会発表をへて博士論文の完成をめざす。

●授業計画

計画は概ね次の通り

４月　投稿論文の課題を検討

５月　適切なテーマの設定

６～８月　章の構成と論理展開の指導

９月　アウトラインに基づく学会発表

９月～ 12 月　学会発表で得られた成果を加味しながら論文執筆

１月～２月　評価と修正を加えながら論文の完成・提出まで指導

●準備学習の内容

各回の講義内容に見合った文献や資料に接し、それらを読んで要点を押さえておくこと。

●テキスト

必要に応じて配布する。

●参考書

適宜紹介する。

●学生に対する評価

講義への参加度（50％）と発言内容（50％）で評価する。
課題の実施結果については個別にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	4	須田　一弘

●授業の到達目標及びテーマ

文化人類学及び生態人類学の理論と方法を学び，研究計画を確立する。

●授業の概要

修士論文の成果と今後の課題を検討しつつ，予備調査計画の立案と実施をすることにより博士後期課程における研究計画を確立する。

●授業計画

まず、4 月の授業では、自身の修士論文の成果を分析し、先行研究との関係をまとめることを行う。つぎに 5 月から 6 月にかけて、修士論文の課題と関連させながら、新たな研究テーマを策定し、その研究テーマと関連する人類学理論を渉猟する。7 月には、策定した研究テーマについて、もっともふさわしい調査方法を選択する。夏休み明けの 9 月には予備調査計画を策定し、10 月から 11 月にかけて予備調査を実施する。12 月及び 1 月の授業では、予備調査の結果をまとめ分析する。

●準備学習の内容

各回の授業内容について、関連する資料を自ら探し、それをよく読んで内容をまとめておくこと。

●テキスト

とくに使用しない。

●参考書

必要に応じて随時紹介する。

●学生に対する評価

授業への取り組みと自己の研究を総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	■単位 4	■担当教員名 須田　一弘

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の研究計画の策定と，関連する投稿論文の作成

●授業の概要
予備調査の結果をもとに博士論文作成のための本調査の研究計画を立案し，あわせて博士論文と関連する投稿論文を作成する。

●授業計画
１年次で行った予備調査の分析に基づき、４月には本調査計画の立案を行う。その後、５月から７月にかけて本調査を実施する。後期には、９月に本調査のデータを分析し、その中から、学会誌または専門誌へ投稿するためのテーマを策定する。10 月以降は投稿論文を作成することを念頭に、そのために必要な指導を行っていく。

●準備学習の内容
各回の授業内容について、関連する資料を自ら探し、それをよく読んで内容をまとめておくこと。

●テキスト
とくに使用しない。

●参考書
必要に応じて随時紹介する。

●学生に対する評価
授業への取り組みと投稿論文の作成を総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	■単位 4	■担当教員名 須田　一弘

●授業の到達目標及びテーマ
２ 年次に投稿した論文をもとに、さらなるテーマの積み重ねを通じて博士論文を作成する。

●授業の概要
予備調査，本調査で得たデータの分析を進めるとともに，博士論文の完成をめざす。

●授業計画
まず４月からは、２年次に投稿した論文を読み直し、博士論文の作成に必要なテーマを積み重ね、実際の論文作成を指導して行く。
５月から７月にかけては、博士論文の章立てを検討し、必要があれば、追加データの分析も行っていく。また、本調査で不足していたデータがある場合には追加調査を行う。９月からは実際の作成に取り掛かり、12月をめどに、草稿を仕上げる。その後、草稿の手直しを行いながら、完成論文の作成をめざす。

●準備学習の内容
各回の授業内容について、関連する資料を自ら探し、それをよく読んで内容をまとめておくこと。

●テキスト
とくに使用しない。

●参考書
必要に応じて随時紹介する。

●学生に対する評価
授業への取り組みを総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 論文指導Ⅰ・Ⅱ	■単位 各2	■担当教員名 各指導教員（主査）

●授業の到達目標及びテーマ

到達目標：当該専門分野において、自立した研究者として研究活動を行うにたる高度な能力・知見・倫理的規範等の獲得

テーマ：博士論文の完成

●授業の概要

本授業は、社会人特例入学者のうち長期履修制度を利用する学生を対象として、受講生各人が論文指導特殊演習A・B・Cにおける学修・研究成果をふまえ、年度初めに主査と副査の指導のもとに提出する博士論文研究計画届に基づき、博士論文を完成させるために必要な指導を行うものである。

●授業計画

受講生各人の研究計画と論文の進捗度にしたがい、研究史の整理と先行研究の検証、史資料の調査、仮説・課題設定、論文構成（目次案）・形式等について指導を行うと共に、論文草稿に対する質疑応答を行う。

●準備学習の内容

研究計画に応じた作業を行うと共に、副査に対しても適宜、自身の研究に対する意見を求めること。

●テキスト

特になし。

●参考書

適宜、紹介する。

●学生に対する評価

研究計画および到達目標の達成度によって評価する。

【英米文化専攻　博士（後期）課程】

授業科目及び講義概要

文学研究科英米文化専攻博士（後期）課程の科目履修について

博士（後期）課程の科目群は「言語･思想文化科目」と「歴史･環境文化科目」の２分野からなっているが，科目履修にあたっては「大学院設置基準」の修士課程における教育目的にもとづき，次の原則を考慮すること。

「専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業に必要な高度の能力」を養うために，指導教授の論文指導特殊演習 12 単位を必修とする。

授業科目及び担当者

言語・思想文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠA	4	教授 田　中　洋　也	1	15以降	83
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠB	4	教授 田　中　洋　也	2	15以降	83
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠC	4	教授 田　中　洋　也	3	15以降	84
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	4	教授 岩　田　　哲	1	15以降	84
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	4	教授 岩　田　　哲	2	15以降	85
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	4	教授 岩　田　　哲	3	15以降	85
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	4	教授 上　野　誠　治	1	15以降	86
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	4	教授 上　野　誠　治	2	15以降	86
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	4	教授 上　野　誠　治	3	15以降	87
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	4	教授 佐　藤　貴　史	1	15以降	87
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	4	教授 佐　藤　貴　史	2	15以降	88
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	4	教授 佐　藤　貴　史	3	15以降	88
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	4	教授 渡　部　あさみ	1	15以降	89
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤB	4	教授 渡　部　あさみ	2	15以降	89
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤC	4	教授 渡　部　あさみ	3	15以降	90
［非開講］欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅥA	4	教授 ブシャー　ジェレミ	1	15以降	90
［非開講］欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅥB	4	教授 ブシャー　ジェレミ	2	15以降	91
［非開講］欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅥC	4	教授 ブシャー　ジェレミ	3	15以降	91
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦA	4	教授 森　川　慎　也	1	15以降	92
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦB	4	教授 森　川　慎　也	2	15以降	92
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦC	4	教授 森　川　慎　也	3	15以降	93

授業科目及び担当者

歴史・環境文化科目

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠA	4	教授 柴　田　　崇	1	15以降	94
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠB	4	教授 柴　田　　崇	2	15以降	94
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠC	4	教授 柴　田　　崇	3	15以降	95
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	4	教授 大　森　一　輝	1	15以降	95
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	4	教授 大　森　一　輝	2	15以降	96
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	4	教授 大　森　一　輝	3	15以降	96
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	4	教授 小　松　かおり	1	15以降	97
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	4	教授 小　松　かおり	2	15以降	97
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	4	教授 小　松　かおり	3	15以降	98
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	4	教授 仲　松　優　子	1	15以降	98
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	4	教授 仲　松　優　子	2	15以降	99
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	4	教授 仲　松　優　子	3	15以降	99
［非開講］欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習VA	4	教授 仲　丸　英　起	1	15以降	100
［非開講］欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習VB	4	教授 仲　丸　英　起	2	15以降	100
［非開講］欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習VC	4	教授 仲　丸　英　起	3	15以降	101

言語・思想文化科目、歴史・環境文化科目共通

授業科目	単位	担当教員	開講年次	対象入学年度	ページ
論文指導Ⅰ・Ⅱ	各2	各指導教員（主査）	3	15以降	102

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習IA	4	田中　洋也

●授業の到達目標及びテーマ
外国語教育研究分野における博士論文の設計，および調査に向けた研究指導を行う。

●授業の概要
博士課程研究の初年度の学修内容として相応しいものになるよう，各自設定の研究テーマを中心に研究分野全体の基礎的研究を見直し，テーマの精緻化を図る。また，博士課程研究の予備的調査を行い，国内外学会での発表，学術誌投稿に向けた指導を行う。

●授業計画
各自の研究分野，テーマに応じた文献の講読とそれに基づいた議論を行う。また，設計した予備的調査に用いる研究技法の習熟を図る。

●準備学習の内容
文献を講読し, 発表資料を準備する。

●テキスト
履修者と相談の上, 文献を指定する。

●参考書
特に指定しない。

●学生に対する評価
毎週の発表と議論により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習IB	4	田中　洋也

●授業の到達目標及びテーマ
外国語教育研究分野における博士論文の調査、学術誌投稿論文執筆に向けた研究指導を行う。

●授業の概要
博士課程研究の中間期の学修内容として相応しいものになるよう，各自設定の研究テーマをもとに調査の実施，国内外学会での発表, 学術誌への投稿に向けた指導を行う。

●授業計画
各自の研究分野, テーマに応じた文献の講読, 調査の実施, 分析, 論文執筆指導を行う。

●準備学習の内容
文献を講読し, 発表資料を準備する。

●テキスト
履修者と相談の上, 文献を指定する。

●参考書
特に指定しない。

●学生に対する評価
毎週の授業準備, 学会発表, 執筆した論文により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習IC	4	田中　洋也

●授業の到達目標及びテーマ
外国語教育研究分野における博士論文の執筆、学術誌投稿論文執筆に向けた研究指導を行う。

●授業の概要
博士課程研究の最終段階の学修内容として相応しいものになるよう，各自設定の研究テーマをもとに調査の実施，国内外学会での発表, 学術誌への投稿, 博士論文執筆指導を行う。

●授業計画
各自の研究分野, テーマに応じた文献の講読, 調査の実施, 分析, 論文執筆, 博士論文指導を行う。

●準備学習の内容
文献を講読し,発表資料を準備する。

●テキスト
履修者と相談の上, 文献を指定する。

●参考書
特に指定しない。

●学生に対する評価
毎週の授業準備，学会発表，執筆した論文により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習IIA	4	岩田　哲

●授業の到達目標及びテーマ
外国語教育研究分野における博士論文の設計、及び調査に向けた研究指導を行う。

●授業の概要
博士課程研究の初年度の学修内容としてふさわしいものになるよう、各自設定の研究テーマを中心に研究分野全体の基礎的研究を見直し、テーマの精緻化を図る。また、博士課程研究の予備的調査を行い、国内外学会での発表、学術誌投稿に向けた指導を行う。

●授業計画
各自の研究分野、テーマに応じた文献の講読とそれに基づいた議論を行う。また、設計した予備調査に用いる研究技法の習熟を図る。

●準備学習の内容
文献を講読し、発表資料を準備する。

●テキスト
履修者と相談の上、文献を指定する。

●参考書
特に指定しない。

●学生に対する評価
毎週の発表と議論により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	■単位 4	■担当教員名 岩田　哲

●授業の到達目標及びテーマ
　外国語教育研究分野における博士論文の調査、学術誌投稿論文執筆に向けた研究指導を行う。

●授業の概要
　博士課程研究の中間期の学修内容としてふさわしいものになるよう、各自設定の研究テーマを基に調査の実施、国内外学会での発表、学術誌への投稿に向けた指導を行う。

●授業計画
　各自の研究分野、テーマに応じた文献の講読、調査の実施、分析、論文執筆指導を行う。

●準備学習の内容
文献を講読し、発表資料を準備する。

●テキスト
履修者と相談の上、文献を指定する。

●参考書
特に指定しない。

●学生に対する評価
毎週の授業準備、学会発表、執筆した論文により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	■単位 4	■担当教員名 岩田　哲

●授業の到達目標及びテーマ
　外国語教育研究分野における博士論文の執筆、学術誌投稿論文執筆に向けた研究指導を行う。

●授業の概要
　博士課程研究の最終段階の学修内容としてふさわしいものになるよう、各自設定の研究テーマを基に調査の実施、国内外学会での発表、学術誌への投稿、博士論文執筆指導を行う。

●授業計画
　各自の研究分野、テーマに応じた文献の講読、調査の実施、分析、論文執筆、博士論文指導を行う。

●準備学習の内容
文献を講読し、発表資料を準備する。

●テキスト
履修者と相談の上、文献を指定する。

●参考書
特に指定しない。

●学生に対する評価
毎週の授業準備、学会発表、執筆した論文により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	■単位 4	■担当教員名 上野　誠治

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文で扱うテーマの確定

●授業の概要
関連する文献の分析的・批判的な読み方および論文作成の作法を身につける。

●授業計画
年間を通じ、文献講読をしながら、その内容について議論する。また、文献の中で、研究が不十分なところや、論理的に矛盾する箇所を指摘し、その解決策を探求する。

●準備学習の内容
関連する文献を事前によく読み、議論の進め方や論文の書き方を研究しておくこと。

●テキスト
履修生と相談の上、決める。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
平常点とレポートにより評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	■単位 4	■担当教員名 上野　誠治

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文で扱うテーマの絞り込み

●授業の概要
関連する文献の分析的・批判的な読み方および論文作成の作法を身につける。

●授業計画
年間を通じ、文献講読をしながら、その内容について議論する。また、文献の中で、研究が不十分なところや、論理的に矛盾する箇所を指摘し、その解決策を探求する。

●準備学習の内容
関連する文献を事前によく読み、議論の進め方や論文の書き方を研究しておくこと。

●テキスト
履修生と相談の上、決める。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
平常点とレポートにより評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	4	上野　誠治

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の完成

●授業の概要
関連する文献の分析的・批判的な読み方および論文作成の作法を身につける。

●授業計画
年間を通じ、文献講読をしながら、その内容について議論する。また、文献の中で、研究が不十分なところや、論理的に矛盾する箇所を指摘し、その解決策を探求する。

●準備学習の内容
関連する文献を事前によく読み、議論の進め方や論文の書き方を研究しておくこと。

●テキスト
履修生と相談の上、決める。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
平常点と博士論文の完成度により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	4	佐藤　貴史

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文のテーマの明確化、一次文献の読解、研究史の整理。

●授業の概要
みずからの研究テーマを研究史上に位置づけるために必要な文献を丁寧に読解する。

●授業計画
前期：研究テーマに基づいて、一次文献の読解と研究史の整理をする。

後期：前期に整理した研究史の内容に基づいて、さらに必要な文献を探して読む。

●準備学習の内容
必要な文献のリストをつねに更新し、読み込んでおく。

●テキスト
適宜指示する。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
発表とレポート。
課題の実施状況については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	■単位 4	■担当教員名 佐藤　貴史

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文のテーマの精緻化、一次文献の読解、研究史の整理。

●授業の概要
みずからの研究テーマをより明晰にするために必要な文献を丁寧に読解する。そのさい、研究テーマの独創性に強調点をおく。

●授業計画
前期：研究史との批判的な対話を通して、研究テーマの独創性について考える。

後期：前期に続いて、研究テーマの独創性について考える

●準備学習の内容
研究史を意識しながら、テキストの読解に努める。

●テキスト
適宜指示する。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
発表とレポート。
課題の実施状況については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	■単位 4	■担当教員名 佐藤　貴史

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の完成。

●授業の概要
博士論文における各章の内容や相互の連関、研究テーマと結論の独創性などについて精査する。

●授業計画
年間を通じて博士論文の完成を目指して、その内容を議論する。

●準備学習の内容
研究史を無視せずに、博士論文の執筆に励む。

●テキスト
適宜指示する。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
博士論文の完成度
課題の実施状況については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習VA	■単位 4	■担当教員名 渡部　あさみ

●授業の到達目標及びテーマ
　博士論文作成に向けて、テーマを設定し、計画を立てる。

●授業の概要
　博士論文の分野とする先行研究を調査・収集して研究動向を把握し、テーマを決める。博士論文作成の計画と準備を行う。

●授業計画
　年間を通じて対象分野・テーマに関する文献を読み、内容について分析と考察を行う。2 学期にはテーマを決め、博士論文の作成計画を立てる。

●準備学習の内容
指定の資料を事前に読んでおくこと。

●テキスト
資料プリントを配布する。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習VB	■単位 4	■担当教員名 渡部　あさみ

●授業の到達目標及びテーマ
　博士論文作成のための計画を再度点検し、テーマと計画を確定する。さらに先行研究調査とその検討を進め、計画を実行していく。

●授業の概要
　テーマに関する文献講読を進め、論点を明確にしていく。博士論文の計画を再度点検し、見直した上で進めていく。学会発表および学会誌への論文投稿に向けて準備し、必要な指導を受ける。

●授業計画
　年間を通じて関連する文献をさらに読み進め、博士論文の論点を明確にしていく。年度内の学会発表および学会誌への論文投稿に向けて準備を進める。

●準備学習の内容
指定の資料を事前に読んでおくこと。

●テキスト
資料プリントを配布する。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習VC	4	渡部　あさみ

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の作成

●授業の概要
博士論文の計画に従って作成し、完成を目指す。

●授業計画
各章ごとに指導を受けて検討を重ね、全体の完成を目指して作成を進める。

●準備学習の内容
指定の資料を事前に読んでおくこと。

●テキスト
資料プリントを配布する。

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
[非開講] 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習VIA	4	ブシャー　ジェレミ

●授業の到達目標及びテーマ
社会言語学研究分野における博士論文の設計、および研究指導を行う。

●授業の概要
社会言語学の分野における重要な研究と理論的傾向に焦点を当てる。学生の博士研究論文の発展の基礎を形成する。学術論文や研究発表の作成、および博士課程の修了に関するガイダンスを提供する。

●授業計画
毎週、社会言語学の主要な参考文献と学生の博士研究論文に関連する参考文献を読み、批評的に議論することに専念する。社会言語学における実践的な研究方法論が議論され、学生の博士研究論文に応用する。

●準備学習の内容
文献を講読し、批評的な解釈を策定する。

●テキスト
履修者と相談の上、文献を指定する。

●参考書
特に指定しない。

●学生に対する評価
議論により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
［非開講］ 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦB	4	ブシャー　ジェレミ

●授業の到達目標及びテーマ

社会言語学研究分野における博士論文の設計、および研究指導を行う。

●授業の概要

社会言語学の分野における重要な研究と理論的傾向に焦点を当てる。学生の博士研究論文の発展の基礎を形成する。学術論文や研究発表の作成、および博士課程の修了に関するガイダンスを提供する。

●授業計画

毎週、社会言語学の主要な参考文献と学生の博士研究論文に関連する参考文献を読み、批評的に議論することに専念する。社会言語学における実践的な研究方法論が議論され、学生の博士研究論文に応用する。

●準備学習の内容

文献を講読し、批評的な解釈を策定する。

●テキスト

履修者と相談の上、文献を指定する。

●参考書

特に指定しない。

●学生に対する評価

議論により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
［非開講］ 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦC	4	ブシャー　ジェレミ

●授業の到達目標及びテーマ

社会言語学研究分野における博士論文の設計、および研究指導を行う。

●授業の概要

社会言語学の分野における重要な研究と理論的傾向に焦点を当てる。学生の博士研究論文の発展の基礎を形成する。学術論文や研究発表の作成、および博士課程の修了に関するガイダンスを提供する。

●授業計画

毎週、社会言語学の主要な参考文献と学生の博士研究論文に関連する参考文献を読み、批評的に議論することに専念する。社会言語学における実践的な研究方法論が議論され、学生の博士研究論文に応用する。

●準備学習の内容

文献を講読し、批評的な解釈を策定する。

●テキスト

履修者と相談の上、文献を指定する。

●参考書

特に指定しない。

●学生に対する評価

議論により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦA	4	森川　慎也

●授業の到達目標及びテーマ

英語圏文学を対象領域とする。先行研究となる文献を幅広く蒐集し、研究動向を把握した上で、研究テーマとアプローチを設定する。よって、(1) 先行研究の考察、(2) 先行研究に関する概要作成、(3) 研究テーマ・アプローチの確定の3点が目標となる。ただし、(1)と(2)については次年度以降も継続して行う。

●授業の概要

・研究計画書を作成する。
・英語圏文学の領域における複数の博士論文を参照し、研究テーマや先行研究の把握の仕方について学ぶ。
・自らが取り組もうとしている研究テーマに関連した先行研究を調べ、文献を蒐集し、文献一覧を作成する。一通り文献を入手した後に、各文献につき概要を作成する。各文献の概要を作成した段階で、先行研究の問題点を洗い出し、その傾向と新たな課題設定を行う。
・先行研究の把握と並行して研究アプローチを決める。

●授業計画

上記概要の各段階を一つ一つ確認しながら進めていく。

●準備学習の内容

学期の初めに研究計画書を作成し、そのスケジュールに沿って進めていく。

●テキスト

指定テキストはないが、先行研究における重要な文献については担当教員とディスカッションをしながら読み進める。

●参考書

博士論文を執筆する上で参考になる論文作法のテクストを数種類紹介する。

●学生に対する評価

平常点と研究の進捗状況に応じて評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦB	4	森川　慎也

●授業の到達目標及びテーマ

博士論文の章立てを決めた上で、各章の執筆作業に取り掛かる。目標は、博士論文の草稿を書き上げること。並行して、学会等で研究発表を行い、発表後には発表原稿を加筆修正した上で、学術誌に投稿し査読を経る。

●授業の概要

・博士論文の章立てを決める。
・各章の執筆作業に取り掛かり、各章を仕上げていく。
・学会で研究発表を行う。
・発表原稿を加筆・修正した上で、学術誌に投稿する。
・博士論文全体の草稿を仕上げる。

●授業計画

上記の概要の各段階を一つ一つ確認しながら進めていく。

●準備学習の内容

学期の初めに研究計画書を作成し、そのスケジュールに沿って進めていく。

●テキスト

執筆した章から順にその内容を検討していく。

●参考書

特に指定しない。

●学生に対する評価

平常点と研究の進捗状況に応じて評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米言語・思想文化論文指導特殊演習Ⅶ C	■単位 4	■担当教員名 森川　慎也

●授業の到達目標及びテーマ

学会での研究発表、学術誌への投稿を継続し、博士論文を完成させる。

●授業の概要

主査のチェックを受けながら章ごとに草稿を書き直し、完成させる。また副査にも論文を読んでいただく。

●授業計画

夏休みを目処に論文を完成させるスケジュールで進める。

●準備学習の内容

学期の初めに研究計画書を作成し、そのスケジュールに沿って進めていく。

●テキスト

執筆した章から順にその内容を検討していく。

●参考書

特に指定しない。

●学生に対する評価

平常点と博士論文の完成度により評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠA	4	柴田　崇

●授業の到達目標及びテーマ
　博士論文で取り上げる領域の知識を習得するとともに、当該領域の研究動向を把握する。

●授業の概要
　博士論文で取り上げる領域の知識を身につけ、あわせて研究動向を掴むために文献を読解する。

●授業計画
　文献を読解する。文献講読には、当該文献が書かれた文脈を再現する作業が必須である。ここでの「文脈」とは、物理的時間や地理的空間以上の意味を持つ。顕在的、および潜在的に著者に影響を与えた事象を特定しつつ、テクストを読解するスキルを身につける。

●準備学習の内容
文献を読み、発表を準備する。

●テキスト
履修者と相談して決める。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
準備を含めた発言の質に拠る。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠB	4	柴田　崇

●授業の到達目標及びテーマ
　博士論文のテーマを絞り込む。

●授業の概要
　広く読む多読と深く読む精読を往復しながら、博士論文で取り上げるのに相応しい論点を特定する。

●授業計画
　前半は主に、博士論文のテーマの絞り込みを念頭に関連領域の文献を読む。
　後半は主に、絞り込んだテーマに関する文献を読みつつ論点を整理し、博士論文の論点を明確化する。

●準備学習の内容
指定したテクストを読み、発表を準備する。

●テキスト
履修者と相談して決める。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
準備を含めた発言の質。およびテーマ絞込み作業の到達度。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ＩＣ

■単位
4

■担当教員名
柴田　崇

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の完成

●授業の概要
博士論文の完成を支援する。

●授業計画
論文の添削を通じて、適宜、必要文献の指示や講読を行う。

●準備学習の内容
受講者の進捗に応じて授業で取り扱う素材を準備する。

●テキスト
特になし。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
受講者の研究に対する姿勢に拠る。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA

■単位
4

■担当教員名
大森　一輝

●授業の到達目標及びテーマ
アメリカ史研究の到達点を把握する。

●授業の概要
アメリカ史の史学史を分野ごとにサーベイした文献を丁寧に読みつつ、現在何が課題になっているのかを理解し、自分の研究をその中に位置づける。

●授業計画
研究状況をあらためて幅広く確認し、自分のオリジナリティを打ち出せるようにすると同時に、欠落や飛躍を把握し、さらなるリサーチによって補強・発展させるべき論点を明確にする。

授業計画は、概ね次の通り。

テキストは、必要な部分を前期に読む。

並行して、年度初めから資料調査計画を立て、夏には実際にアメリカの図書館・文書館・行政機関等で文献調査を行うよう指導する。

後期は、持ち帰った資料の分析に取り組む。その際、テキストも参照しながら、先行研究における史料の使い方を再度検討し、新しい資料の／資料の新しい「読み方」を模索する。

そのうえで、これまでの研究を専門誌に発表する準備として、12 月までに論文の「設計図」を作る。

●準備学習の内容
テキストを丁寧に読むだけでなく、そこに挙げられている関連文献にもあたることが求められる。また、それぞれの分野の日本語の研究論文を毎回１つは事前に読むこと（読むべきものについては、リスト化して別途指示する）。

●テキスト
Eric Foner and Kisa McGirr, eds., American History Now (Temple University Press, 2011).

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
授業への積極的参加の姿勢と準備状況。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	4	大森　一輝

●授業の到達目標及びテーマ
日本人アメリカ史研究者による重厚な研究書を読み、博士論文のイメージをつかむ。

●授業の概要
テキストはいずれも博士論文を基にした研究書である。これを読むことで、学位論文に必要とされる先行研究批判・資料分析・論証などの水準を会得する。

●授業計画
目標は二段構えになる。授業計画は、概ね次の通り。

まず、前期は、前年度から引き続き、これまでの研究を学会誌に投稿するために、原稿を作成する。

その際には、テキストを「部分的に」参照しながら、個別実証論文としての自分の仕事の新しさをピンポイントで主張するよう心がける。

後期は、さらにそれを発展させて、より大きな構図の中での自分の研究の意義を見定めつつ、具体的な作業としては、博士論文のまとめ方を考える。

その際には、テキストを「総合的に」参照しながら、自分の博士論文が、人類に対していかなる知的貢献をなし得るのかを常に意識する。

●準備学習の内容
この２冊も「先行研究」であり、乗り越えるべき対象であることを忘れずに、批判的に読み進めることが求められる。毎回、何を補うべきか、どこを発展させるべきかを事前に考えておくこと。

●テキスト
村田勝幸『〈アメリカ人〉の境界とラティーノ・エスニシティ―「非合法移民問題」の社会文化史』(東京大学出版会、2007 年)
貴堂嘉之『アメリカ合衆国と中国人移民―歴史のなかの「移民国家」アメリカ』(名古屋大学出版会、2012 年)

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
準備と参加の姿勢。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	4	大森　一輝

●授業の到達目標及びテーマ
アメリカ史に関わる博士論文の完成を指導する。

●授業の概要
博士学位を取得するためではなく、学問の世界に大きく貢献できるような論文の作成を目指す。

●授業計画
テーマ設定・先行研究批判・仮説・資料収集・分析・実証・論述という一連の流れを、できるかぎり説得的なものにするための方法を指導する。

授業計画は、概ね次の通り。

前期で、実証すべき点とその可能性を明らかにし、資料の（再）収集・分析までを終える。

夏休みに草稿をまとめる。

後期は、論理構成を見直して堅固なものにしつつ、個々の論証の精度を上げるべく加筆修正を施し、年内には原稿をまとめる。

●準備学習の内容
資料リストの作成や所在の確認などの基礎作業は、早めに自分で取り組むことが望ましい。

●テキスト
特になし。

●参考書
個別にアドヴァイスする。

●学生に対する評価
論文の完成度。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	■単位 4	■担当教員名 小松　かおり

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文作成に向けて、テーマを設定し、調査計画を立てる。平行して、先行研究を集め、読解する。

●授業の概要
研究テーマを設定し、文化人類学・生態人類学または隣接分野の先行研究を読み、先行研究について授業で発表する。
授業中にディスカッションしながら、文化人類学・生態人類学の知識を深め、予備調査計画を立てる。

●授業計画
４月と５月は、テーマ設定と調査計画の策定。平行して、参考文献リストを作成。
６月以降は、リストにしたがって、参考文献を読みながら、調査計画を詰める。
夏以降、予備調査をおこないながら、テーマを修正する。
学年末に、レポートを作成。

●準備学習の内容
研究テーマに沿った参考文献を探し、それを読んでまとめておくこと。

●テキスト
なし

●参考書
適宜、指示する。

●学生に対する評価
授業への参加と発表内容50%,レポート50%。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	■単位 4	■担当教員名 小松　かおり

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の作成のため、テーマに沿って調査計画を立て、実行する。

●授業の概要
調査計画を立て、実行する。持ち帰った資料を整理し、論文の構成を決める。

●授業計画
研究計画にしたがって、調査計画を立て、調査を実行する。
平行して、参考文献を読み進め、研究の位置づけをする。

●準備学習の内容
調査計画、調査報告、資料の整理、追加で必要な文献のまとめ。

●テキスト
なし

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
授業への参加と研究の進み方の総合評価。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	4	小松　かおり

●授業の到達目標及びテーマ
博士論文の作成。

●授業の概要
調査資料と先行文献を用いて、博士論文を作成する。

●授業計画
論文を書き進め、章ごとに検討して修正する。

●準備学習の内容
論文の執筆。

●テキスト
なし

●参考書
適宜紹介する。

●学生に対する評価
授業への参加と研究の進み方の総合評価。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	4	仲松　優子

●授業の到達目標及びテーマ
フランス史関連領域における博士論文のテーマ設定に向けて、関係する知識を習得することを目指す。また、文書館等における史料調査の方法について理解する。

●授業の概要
フランス史関連領域における博士論文のテーマ設定に向けて、研究史の整理を行い、同時に使用している史料について理解を深める。

●授業計画
年間をつうじて、文献の講読を行う。また、研究史の整理を随時発表してもらう。これらをとおして研究の論点と博士論文執筆に向けて史料の概略を把握する。

●準備学習の内容
文献を読み、レジュメを作成する。また、自らの研究テーマについて発表してもらう。

●テキスト
授業時に指示する。

●参考書
授業時に紹介する。

●学生に対する評価
文献講読の準備および研究発表の内容について評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	4	仲松　優子

●授業の到達目標及びテーマ
フランス史関連領域における博士論文のテーマを設定する。

●授業の概要
フランス史関連領域における博士論文のテーマを設定するために、文献の講読を引き続き行いながら、研究史の整理を行う。また、史料についても理解を深め、博士論文で用いる史料を決定していく。

●授業計画
1 年間をとおして、文献を読みながら、研究史をおさえる。フランス史関連領域における博士論文のテーマと使用する史料について、研究発表を行う。

●準備学習の内容
文献を講読し、研究発表の準備をする。

●テキスト
授業時に指示する。

●参考書
授業時に紹介する。

●学生に対する評価
文献講読の準備および研究発表の内容について評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名	■単位	■担当教員名
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	4	仲松　優子

●授業の到達目標及びテーマ
フランス史関連領域の博士論文の完成。

●授業の概要
博士論文の完成に向けて指導する。

●授業計画
博士論文の完成に向けて、草稿を検討していく。

●準備学習の内容
博士論文の執筆。

●テキスト
なし。

●参考書
授業時に適宜紹介する。

●学生に対する評価
研究に対する取り組み方と進捗状況。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 ［非開講］ 欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習VA	■単位 4	■担当教員名 仲丸　英起

●授業の到達目標及びテーマ
　近世・近代イギリス史に関する研究史を整理し、博士論文全体のテーマを設定する。

●授業の概要
　履修者の関心に従ってどのようなトピックスが調査可能であるのか探求し、これの積み上げによって解明しうる問題を博士論文全体のテーマとして設定する。

●授業計画
　修士論文の成果を踏まえ、履修者の関心のある領域の研究史において不足している点・修正すべき点を整理する。その上で、こうした問題点を是正するのに必要な議論を立てるためにどのような史料が利用可能か探索する。

●準備学習の内容
研究史上重要な文献を読み、発表のためのレジュメを作成する。

●テキスト
特になし。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
授業への参加度と、研究の進展度により総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 ［非開講］ 欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習VB	■単位 4	■担当教員名 仲丸　英起

●授業の到達目標及びテーマ
　近世・近代イギリス史に関する調査計画を実行する。

●授業の概要
　履修者各自のテーマに沿って史料を収集し、これを解読してそれぞれのトピックスについての議論を立てる。

●授業計画
　史料から各自の問題関心に沿って読み取った事実を研究史に即して解釈し、これを報告する。

●準備学習の内容
議論の流れが分かるようにレジュメを作成する。

●テキスト
特になし。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
授業への参加度と、研究の進展度により総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 ［非開講］ 欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習VC	■単位 4	■担当教員名 仲丸　英起

●授業の到達目標及びテーマ
近世・近代イギリス史に関する博士論文の完成。

●授業の概要
博士論文の完成に向けての指導を行う。

●授業計画
博士論文全体の完成に向けて、各章ごとに検討してゆく。

●準備学習の内容
博士論文の執筆。

●テキスト
特になし。

●参考書
適宜指示する。

●学生に対する評価
授業への参加度と、研究の進展度により総合的に評価する。
課題の実施結果については個々にコメントする。

■授業科目名 論文指導Ⅰ・Ⅱ	■単位 各2	■担当教員名 各指導教員（主査）

●授業の到達目標及びテーマ

到達目標：当該専門分野において、自立した研究者として研究活動を行うにたる高度な能力・知見・倫理的規範等の獲得

テーマ：博士論文の完成

●授業の概要

本授業は、社会人特例入学者のうち長期履修制度を利用する学生を対象として、受講生各人が論文指導特殊演習A・B・Cにおける学修・研究成果をふまえ、年度初めに主査と副査の指導のもとに提出する博士論文研究計画届に基づき、博士論文を完成させるために必要な指導を行うものである。

●授業計画

受講生各人の研究計画と論文の進捗度にしたがい、研究史の整理と先行研究の検証、史資料の調査、仮説・課題設定、論文構成（目次案）・形式等について指導を行うと共に、論文草稿に対する質疑応答を行う。

●準備学習の内容

研究計画に応じた作業を行うと共に、副査に対しても適宜、自身の研究に対する意見を求めること。

●テキスト

特になし。

●参考書

適宜、紹介する。

●学生に対する評価

研究計画および到達目標の達成度によって評価する。

研究科諸規程

◈

北海学園大学大学院学則

昭和45年3月26日　制定

目　　次

第１章　総則（第１条－第７条）
第２章　入学，転入学，再入学，転学及び留学（第８条－第14条）
第３章　休学，退学及び除籍（第15条－第17条）
第４章　教育方法等（第18条－第25条）
第５章　課程の修了要件及び学位の授与（第26条－第29条）
第６章　賞罰（第30条・第31条）
第７章　授業料等，授業料等の免除（第32条・第33条）
第８章　運営組織（第34条－第38条）
第９章　研究生，法務研究員，委託生，特別聴講学生，聴講生，科目等履修生及び外国人学生（第39条－第46条）
第10章　附属施設（第47条）
第11章　雑則（第48条・第49条）
附則

第１章　総　　則

（目　　的）

第１条　北海学園大学大学院（以下「本大学院」という。）は，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥をきわめて，文化の進展に寄与することを目的とする。

（自己評価等）

第２条　本大学院は，その教育研究水準の向上を図り，その目的及び社会的使命を達成するため，教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価に関する事項については，別に定める。

（認 証 評 価）

第２条の２　本大学院は，前条の措置に加え，教育研究等の総合的な状況について，政令で定める期間ごとに，文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

２　削除

３　第１項に関する事項については，別に定める。

（ファカルティ・ディベロップメント及びスタッフ・ディベロップメント）

第２条の３　本大学院は，授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

２　本大学院は，教育研究活動等の適切かつ効果的な運用を図るため，その教育職員及び事務職員に必要な知識及び技能を習得させ，並びにその能力及び資質を向上させるための研修（前項に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

（情 報 公 開）

第２条の４　本大学院は，教育研究活動等の状況について，刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって積極的に情報を提供するものとする。

（大学院の課程）

第３条　本大学院に，修士課程及び博士（後期）課程を置く。

２　専門職学位課程を修了した者が博士（後期）課程に進学する場合，専門職学位課程を，修士課程と同等のものとして扱う。

（修士課程）

第３条の２　修士課程は，広い視野に立って精深な学識を授け，専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

（博士（後期）課程）

第３条の３　博士（後期）課程は，専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い，又はその他の専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

第３条の４　削除

（研究科，専攻，入学定員及び収容定員）

第４条　本大学院修士課程に，次の研究科及び専攻を置き，入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

研　究　科	専　　攻	入学定員	収容定員
経済学研究科	経済政策専攻	15人	30人
経営学研究科	経 営 学 専 攻	７人	14人
法学研究科	法 律 学 専 攻	７人	14人
	政 治 学 専 攻	５人	10人
文学研究科	日本文化専攻	５人	10人
	英米文化専攻	５人	10人
工学研究科	建設工学専攻	６人	12人
	電子情報生命工学専攻	６人	12人

２　本大学院博士（後期）課程に，次の研究科及び専攻を置き，入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

研　究　科	専　　攻	入学定員	収容定員
経済学研究科	経済政策専攻	３人	９人
経営学研究科	経 営 学 専 攻	３人	９人
法学研究科	法 律 学 専 攻	２人	６人
	政 治 学 専 攻	２人	６人
文学研究科	日本文化専攻	２人	６人
	英米文化専攻	２人	６人
工学研究科	建設工学専攻	２人	６人
	電子情報生命工学専攻	２人	６人

３　削除

４　削除

５　研究科に関する規則は，別に定める。

（標準修業年限及び最長修業年限）

第４条の２　修士課程の標準修業年限は２年とし，４年を超えて在学することができない。

２　博士（後期）課程の標準修業年限は３年とし，６年を超えて在学することができない。

３　第25条に基づく特例学生のうち，標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは，その計画的な履修（以下，「長期履修」という。）を認めることができる。

４　前項の規定により長期履修を認めることのできる期間は修士課程３年，博士（後期）課程５年とする。長期履修に関する事項は，各研究科で別に定める。

５　削除

６　削除

７　削除

（学年及び授業時間）

第５条　本大学院の学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終わる。

２　１年間の授業を行う期間は，定期試験等の期間を含め，35週にわたることを原則とする。

（学　　期）

第６条　学年を次の２期に分ける。

前期　４月１日から９月30日まで

後期　10月１日から翌年３月31日まで

（休　業　日）

第７条　本大学院において授業及び研究指導を行わない日は，次のとおりとする。ただし，特別の必要がある場合は，この限りでない。

(1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(2) 日曜日

(3) 創立記念日　５月16日

(4) 春季休業日

(5) 夏季休業日

(6) 冬季休業日

２　前項第４号から第６号までに掲げる休業日は，別に定める。

3　臨時休業日は，そのつど定める。

第２章　入学，転入学，再入学，転学及び留学

（入学の時期）

第８条　本大学院の入学の時期は，毎年４月とする。

（入 学 資 格）

第９条　本大学院の修士課程に入学することができる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　学校教育法第83条の大学を卒業した者

⑵　外国において，学校教育における16年の課程を修了した者

⑶　大学院及び大学の専攻科の入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定（昭和28年２月７日文部省告示第５号）で文部科学大臣が指定した者

⑷　専修学校の専門課程（修業年限が四年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

⑸　学校教育法第104条第１項の規定により学士の学位を授与された者

⑹　大学に３年以上在学し，本大学院において，所定の科目，単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

⑺　その他本大学院において，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

2　本大学院の博士（後期）課程に入学することができる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第１項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省令第９号）第５条の２に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者。

⑵　外国の大学において前号と同等又は同等以上の学力を有する者

⑶　大学院の入学に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者の指定（平成元年９月１日文部省告示第118号）で文部科学大臣が指定した者

⑷　その他本大学院において，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

（入学の願出）

第10条　本大学院に入学を志願する者は，所定の書類に別表第４に定める入学検定料を添えて，学長に願い出なければならない。転入学についても，同じとする。

（転　入　学）

第11条　転入学を志願する者は，前条に掲げるもののほか，現に在学する大学院を置く大学の学長の許可書を添付しなければならない。

（再　入　学）

第12条　正当な理由で退学した者が，再入学を願い出たときは，研究科委員会の議を経て，学長が許可することができる。

（転　　学）

第13条　他の大学院に転学しようとする者は，転学願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。

（留　　学）

第13条の２　学生は，学長の許可を得て，外国の大学院又はそれに相当する教育・研究機関等に留学し，必要な研究指導等を受けることができる。

2　留学を志望する者は，所定の留学許可願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。

3　留学期間は，原則として１年以内とする。ただし，研究及び教育上特に必要があると認められるときには，その期間を延長することができる。

4　前項の留学期間は，第４条の２第１項から第４項までの標準修業年限に算入する。

5　留学に関する規程は，別に定める。

（入学の許可）

第14条　本大学院に入学し，再入学し，又は転入学しようとする者については，選考を行い，研究科委員会の議を経て，合格者を決定する。

2　前項による合格者のうち，指定期日までに，別表第４に掲げる入学金等を納入し，所定の入学手続を完了した者に，学長は，入学の許可を与える。

第３章　休学，退学及び除籍

（休　　学）

第15条　疾病その他特別の事情により，長期にわたり学修できず，所定様式の休学願を研究科長に提出した者は，研究科委員会の議を経て，学長の許可により，当該年度に限り，休学することができる。

２　学年の始めにおいて既に標準修業年限を満たしている者が，疾病その他特別の事情により休学を願い出る場合には，研究科委員会の議を経て，学長の許可により，前期の終わりまで休学することができる。

３　前二項の規定にかかわらず，疾病その他特別の事情により休学の願い出がある場合には，研究科委員会の議を経て，学長の許可により，引き続き前期の終わり又は年度の終わりまで，休学することができる。

４　引き続き休学できる期間は，当初の休学期間を含めて２ヶ年を限度とする。

５　学生は，休学理由が消滅し，休学期間が満了するときは，学長の許可を得て復学することができる。

６　休学期間は，在学する課程の標準修業年限と同じ年数を超えることはできない。

７　休学期間は，在学期間に算入しない。

（退　　学）

第16条　病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする者は，理由を明記した退学願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。

（除　　籍）

第17条　次の各号の一に該当する者については，学長は，研究科委員会の議を経て，除籍するものとする。

⑴　修士課程にあっては第４条の２第１項，博士（後期）課程にあっては同条第２項の在学期間を超えるとき。

⑵　削除

⑶　死亡したとき

⑷　行方不明になったとき

⑸　授業料等の納入を怠り，督促を受けて，なお納入しないとき

⑹　休学期間満了前に，復学，退学又は休学の願い出がないとき

⑺　入学を辞退したとき

２　前項第４号，第５号又は第６号により除籍された者が復籍を願い出たときは，第12条の規定を準用する。

第４章　教育方法等

（授業科目及び単位数）

第18条　本大学院に開設する修士課程及び博士（後期）課程の授業科目及び単位数は，研究科に応じ別表第１及び第２に掲げるとおりとする。ただし，他の大学院との間の単位互換制度の協定に基づき認定単位数を別に定める場合は，この限りではない。

（授業及び研究指導）

第19条　本大学院修士課程及び博士（後期）課程の教育は，授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行う。

第19条の２　削除

（履修方法等）

第19条の３　各研究科における研究指導及び履修に関する規定は，別に定める。

２　学生は，指導教授の承認を得たうえで，研究科委員会の議を経て，本大学院の他の研究科又は北海学園大学の学部の授業科目を履修することができる。

（単位の計算方法）

第20条　授業科目の単位計算方法は，１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じて次の基準により計算するものとする。

⑴　講義及び演習については，15時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実習については，30時間の授業をもって１単位とする。

（授 業 期 間）

第21条　各授業科目の授業は，15週にわたる期間を単位として行うものとする。

（授業の方法）

第22条　授業は，講義，演習及び実習のいずれかにより，又はこれらの併用により行うものとする。
2　本大学院は，前項に規定する授業科目について，教育上利益と認めるときは，文部科学大臣が別に定めるところにより，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
（指 導 教 授）
第23条　修士課程及び博士（後期）課程の学生の研究指導に当るため，各学生に指導教授を定める。
2　前項の指導教授は，研究科委員会において定める。
（他の大学院における授業科目の履修等）
第24条　本大学院は，教育上有益と認めるときは，学生が他の大学院の授業科目を履修することを認めるものとする。
2　学生が他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は，15単位を超えない範囲で，本大学院において修得したものとみなす。
3　前２項の規定は，学生が外国の大学院に留学する場合について，準用する。
（入学前の既修得単位等の認定）
第24条の２　研究科において，教育上有益と認めるときは，本大学院に入学した学生が，本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなし，別に定める認定の基準により研究科委員会の議を経て認定することができる。
2　前項により与えることのできる単位数は，修士課程又は博士（後期）課程の学生にあっては，15単位を超えないものとする。
3　前項の単位は，修士課程及び博士（後期）課程学生の，第４条の２第１項及び第２項に定める標準修業年限の短縮を伴わない。
4　削除
第24条の３　第24条第２項及び前条第２項で修得したものとみなすことのできる単位数は，合わせて20単位を超えないものとする。
（教育方法の特例）
第25条　研究科においては，教育上特別の必要があると認められる場合には，夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第５章　課程の修了要件及び学位の授与

（単位の授与及び評価）
第26条　本大学院においては，所定の授業科目を履修した者に対して試験の上単位を与える。
2　試験は，原則として学年末又は学期末に行う。
3　授業科目の成績の評価は，秀（Ｓ），優（Ａ），良（Ｂ），可（Ｃ），不可（Ｄ）の５種とし，秀，優，良，可を合格とする。ただし，この成績の評価になじまない一部の科目の評価は，合否の２種とし，合を合格とする。
第26条の２　削除
（修士課程及び博士（後期）課程の修了要件）
第27条　修士課程の修了の要件は，本大学院の修士課程に２年以上在学し，経済学研究科及び文学研究科にあっては32単位以上，経営学研究科，法学研究科及び工学研究科にあっては30単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，研究科が当該修士課程の目的に応じ，大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。
　ただし，在学期間に関しては，本大学院に入学する前に修得した単位数，その修得に要した期間その他を勘案し本大学院の修士課程の一部を履修したものと認められるときは，１年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。
2　博士（後期）課程の修了要件は，本大学院の博士（後期）課程に３年以上在学し，法学研究科，文学研究科にあっては12単位以上，経済学研究科，経営学研究科及び工学研究科にあっては14単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，大学院の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。
　ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，博士（後期）課程に１年以上在学すれば足りるものとする。
3　大学院設置基準第３条第３項の規定により標準修業年限を１年以上２年未満とした修士課程を修了した者及

び同第16条第１項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件については，「修士課程における在学期間に３年を加えた期間」と「３年（修士課程に２年以上在学し，当該課程における在学期間を含む。）」とする。

４　第２項及び前項の規定にかかわらず，学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第156条の規定により大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位〔学位規則（昭和28年文部省令第９号）第５条の２に規定する専門職学位をいう。〕を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が，博士課程の後期３年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は，大学院（専門職大学院を除く。以下この項において同じ。）に３年〔専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第18条第１項の法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年〕以上在学し，必要な研究指導を受けた上，当該研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，大学院に１年（標準修業年限が１年以上２年未満の専門職学位課程を修了した者にあっては，３年から当該１年以上２年未満の期限を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

第27条の２　削除

（学位の授与）

第28条　修士課程又は博士（後期）課程を修了した者には，北海学園大学学位規則の定めるところにより，修士又は博士の学位を授与する。

２　本大学院の博士（後期）課程を修了しない者であっても，博士論文を提出し，その審査及び試験に合格して，本大学院博士（後期）課程修了者と同等以上の学力があると認められる場合には，博士の学位を授与することができる。

３　北海学園大学学位規則は，別に定める。

（教育職員免許状の資格の取得）

第29条　教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

２　本大学院の研究科の専攻において，当該所要資格を取得できる教育職員の免許状の種類は，次のとおりとする。

研究科	専攻	教育職員の免許状の種類	（免許教科）
経済学研究科	経済政策専攻	中学校教諭専修免許状	社会
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	地理歴史
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	公民
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	商業
経営学研究科	経営学専攻	高等学校教諭専修免許状	商業
法学研究科	法律学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	公民
同上	政治学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	公民
文学研究科	日本文化専攻	中学校教諭専修免許状	国語
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	国語
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	地理歴史
同上	英米文化専攻	中学校教諭専修免許状	英語
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	英語
同上	同上	高等学校教諭専修免許状	地理歴史
工学研究科	建設工学専攻	高等学校教諭専修免許状	工業

３　教育職員の免許状授与の所要資格を取得するための必要な事項は，別に定める。

第６章　賞　　罰

（表　　彰）

第30条　学生で人物学業ともに優秀な者を，研究科委員会の議を経て，学長が表彰することができる。

（奨学制度）

第30条の２　学生育英のため，奨学制度を設ける。

２　奨学生規程は，別に定める。

（個人の秘密を守る義務）
第30条の３　学生は，本大学院の実習教育等を通して知り得た個人の秘密を漏らしてはならない。
２　法令による証人等となり前項の秘密に属する事項を発表する場合には，あらかじめ学長の許可を得なければならない。
（懲　　戒）
第31条　学生が本大学院の学則もしくは北海学園大学の諸規程に違反し，又は学生の本分に反する行為があったときは，研究科委員会の議を経て，学長がこれを懲戒することができる。
２　懲戒は，譴責，停学及び退学とする。
３　前項の退学は，次の各号の一に該当する学生に対して行うことができる。
⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
⑵　学力不振で成業の見込みがないと認められる者
⑶　本大学院の実習教育等を通して知り得た個人の秘密を漏らした者
⑷　その他学生としての本分に反した者

第７章　授業料等，授業料等の免除

（授 業 料 等）
第32条　学生は，別表第４に掲げる額の入学金，授業料，教育充実費及び実験実習費を，別に定めるところにより，納入しなければならない。
２　第４条の２第３項の長期履修の学生が履修期間を短縮して修了する場合，残存期間の授業料，教育充実費及び実験実習費を納入する。
３　特別の事情により，授業料，教育充実費及び実験実習費の納入が困難な場合は，学生は，別に定めるところにより，当該納入金を延納することができる。
４　休学者は，その期間中の授業料，教育充実費及び実験実習費の納入を免除する。ただし，別表第４による各分納期の途中で休学，退学する場合は，その期の授業料，教育充実費及び実験実習費の納入を免除しない。
５　本大学院学則第４条の２に定める標準修業年限又は修了年限（修士課程３年の長期履修及び博士（後期）課程５年の長期履修）を超えて在学する者が９月に課程を修了した場合は，別表第４に掲げる納入金のうち，第２期分の授業料・教育充実費・実験実習費を免除する。なお，９月修了に関しては研究科の定めるところによる。
（入学検定料等の不返還）
第33条　既に納入した入学検定料，入学金，授業料，教育充実費及び実験実習費は，返還しない。

第８章　運営組織

（学　　長）
第34条　学長は，校務をつかさどり，所属職員を統督する。
（研究科委員会）
第35条　研究科に，研究科委員会を置く。
２　研究科委員会は，その研究科の授業科目を担当する専任の教員をもって組織する。
３　削除
４　研究科委員会は，研究科長が招集し，その議長となる。
５　研究科長は，研究科委員会が必要と認めるときは，他の職員の出席を求め，意見を聴くことができる。ただし，この職員は，議決に加わることはできない。
（研 究 科 長）
第35条の２　研究科に，研究科長を置く。
２　研究科長は，その研究科の専任教授をもって充て，研究科を統括する。
３　研究科長の任期は，２年とする。ただし，再任を妨げない。
４　その選出方法及び職務については，別に定める。
（研究科委員会の審議事項）
第36条　研究科委員会は，その研究科に関する次の各号に掲げる事項を審議する。
⑴　研究科の組織に関する事項

⑵　教育研究の指導に関する事項
⑶　教員の選考に関する事項
⑷　学生の入学，留学，休学，退学，その他の学籍に関する事項
⑸　学生の表彰及び懲戒に関する事項
⑹　試験及び修士論文又は博士論文の審査に関する事項
⑺　その他その研究科に関する重要な事項

２　研究科委員会は，前項に掲げる事項のうち第１号から第６号までの事項及びその他学長が定める事項について，学長に意見を述べるものとする。

第36条の２　削除

第36条の３　第36条の決定が他の研究科に著しい関連がある場合には，各研究科は大学院委員会の承認を得るものとする。

（大学院委員会）

第37条　本大学院に，大学院委員会を置く。

２　大学院委員会は，各研究科長及び各研究科委員会において委員の互選によって選任した２人の委員をもって組織する。

ただし，特別の事由のある場合は，この限りでない。

３　研究科委員会の委員の互選によって選任された委員の任期は，２年とする。

４　大学院委員会は，学長が招集し，その議長となる。

第38条　大学院委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

⑴　教育研究の基本に関する事項
⑵　学位の授与に関する事項
⑶　学則その他の重要な規則の制定又は改廃に関する事項
⑷　将来の計画に関する事項
⑸　その他本大学院に関する重要な事項

（事 務 組 織）

第38条の２　本大学院は，大学院の事務を遂行するため，事務組織を設ける。

２　事務組織及び事務分掌については，別に定める。

第９章　研究生，法務研究員，委託生，特別聴講学生，聴講生，科目等履修生及び外国人学生

（研　究　生）

第39条　本大学院において，大学院修士課程，博士（後期）課程又は法科大学院の課程の修了者で特定事項につき研究を行なおうとする者があるときは，学長は，学生の教育に支障のない限り，研究科委員会の選考を経て，研究生として入学を許可することができる。

２　前項に定めるもののほか，研究生に関し必要な事項は，大学院委員会の議を経て，学長が定める。

（法務研究員）

第40条　本学法科大学院を修了した者が司法試験を受験するために引き続き本学の施設・図書等の利用を希望する場合には，学長は，学生の教育に支障のない限り，法学研究科委員会の議を経て，法務研究員として，これを許可することができる。

２　前項の法務研究員に関し必要な事項は，別に定める。

（委　託　生）

第41条　公の機関又は団体等から，本大学院において研究指導を受けさせるため，その職員を委託されたときは，学長は，学生の教育に支障のない限り，研究科委員会の選考を経て，委託生として，これを許可することができる。

２　第39条第２項の規定は，委託生について準用する。

（特別聴講学生）

第42条　本大学院において，特定の授業科目を履修する他の大学院の学生があるときは，本大学院の学生の教育に支障のない限り，当該他大学院との協議に基づき，特別聴講学生として，その履修を認めることができる。

２　前項に定めるもののほか，特別聴講学生に関し必要な事項は，大学院委員会の議を経て，学長が定める。

（聴　講　生）

第43条　本大学院の特定の授業科目の聴講を希望する者があるときは，学長は，学生の教育に支障のない限り，

研究科委員会の議を経て，聴講生として，これを許可することができる。
2　聴講生が授業科目の試験に合格したときは，証明書を交付する。
（科目等履修生）
第43条の2　本大学院の修士課程の特定の授業科目の履修を希望する者があるときは，学長は，学生の教育に支障のない限り，研究科委員会の議を経て，科目等履修生として，これを許可することができる。
2　前項に定めるもののほか，科目等履修生に関し必要な事項は，大学院委員会の議を経て，学長が定める。
（外国人学生）
第44条　外国人で第９条各号の一に該当する者の入学の願い出があるときは，学長は，研究科委員会の選考を経て，外国人学生として，入学を許可することができる。
2　外国人の入学手続については，別に定めるところによる。
（受 講 料 等）
第45条　研究生，特別聴講学生，聴講生，科目等履修生及び委託生は，別表第５に掲げる金額を納入しなければならない。
2　単位互換協定校又は海外との学生交流協定に基づく特別聴講学生の入学金，受講料，実験実習費及び入学検定料は所定の手続きを経て不徴収とすることができる。
3　外国人学生の納入金は，別表第４及び第５に掲げる金額と同額とする。
（適 用 除 外）
第46条　研究生，委託生，特別聴講学生，聴講生及び外国人学生については，この章で定めるもののほかは，この学則を準用する。ただし，研究生，委託生及び聴講生については，第５章の規定を，特別聴講学生及び科目等履修生については，第27条から第28条までの規定を準用しない。

第10章　附属施設

（研　究　所）
第47条　本大学院の各研究科に研究所を置くことができる。
2　研究所に関する規程は，別に定める。

第11章　雑　　則

（準　　則）
第48条　本学則において特に定めがない事項については，北海学園大学学則を準用する。
（学則の改廃）
第49条　本学則の改廃は，大学院委員会の議を経て学長が行い，理事会の承認を得るものとする。

附　則
この学則は，昭和45年４月１日から施行する。
附　則
この学則は，昭和48年４月１日から施行する。
附　則
この学則は，昭和51年４月１日から施行する。
附　則
この学則は，昭和56年４月１日から施行する。
附　則
この学則は，昭和60年４月１日から施行する。
附　則
1　この学則は，昭和61年４月１日から施行する。
2　第４条中，法学研究科法律学専攻の総定員「14人」とあるのは，昭和62年３月31日までは，「７人」と読み替えるものとする。
附　則
この学則は，昭和63年４月１日から施行する。
附　則
この学則は，平成元年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成３年12月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成４年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成７年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成８年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成９年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成10年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成11年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成12年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成14年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成15年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成16年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成17年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成19年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成21年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成22年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成23年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成25年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成26年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は，平成28年４月１日から施行する。

2　第４条第１項の規定にかかわらず平成28年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成28年度

研究科・修士課程	専　　攻	入学定員（人）	収容定員（人）
経済学研究科	経済政策専攻	15	30
経営学研究科	経営学専攻	7	14
法学研究科	法律学専攻	7	14
	政治学専攻	5	10
文学研究科	日本文化専攻	5	10
	英米文化専攻	5	10
工学研究科	建設工学専攻	6	12
	電子情報工学専攻	－	6
	電子情報生命工学専攻	6	6

附　則

1　この学則は，平成 29 年４月１日から施行する。

2　第４条第１項の規定にかかわらず平成 29 年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成 29 年度

研究科・修士課程	専　　攻	入学定員（人）	収容定員（人）
経済学研究科	経済政策専攻	15	30
経営学研究科	経営学専攻	7	14
法学研究科	法律学専攻	7	14
	政治学専攻	5	10
文学研究科	日本文化専攻	5	10
	英米文化専攻	5	10
工学研究科	建設工学専攻	6	12
	電子情報工学専攻	－	－
	電子情報生命工学専攻	6	12

附　則

1　この学則は，平成 30 年４月１日から施行する。

2　第４条第１項および同条第２項の規定にかかわらず平成 30 年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成 30 年度

研究科・修士課程	専　　攻	入学定員（人）	収容定員（人）
経済学研究科	経済政策専攻	15	30
経営学研究科	経営学専攻	7	14
法学研究科	法律学専攻	7	14
	政治学専攻	5	10
文学研究科	日本文化専攻	5	10
	英米文化専攻	5	10
工学研究科	建設工学専攻	6	12
	電子情報工学専攻	－	－
	電子情報生命工学専攻	6	12

研究科・博士課程	専　　攻	入学定員（人）	収容定員（人）
経 済 学 研 究 科	経済政策専攻	3	9
経 営 学 研 究 科	経営学専攻	3	9
法 学 研 究 科	法律学専攻	2	6
	政治学専攻	2	6
文 学 研 究 科	日本文化専攻	2	6
	英米文化専攻	2	6
工 学 研 究 科	建設工学専攻	2	6
	電子情報生命工学専攻	2	2

3　第4条第3項の規定にかかわらず，平成30年度から平成32年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成30年度

研究科・専門職学位課程	専　　攻	入学定員（人）	収容定員（人）
法 務 研 究 科	法務専攻	—	36

平成31年度

研究科・専門職学位課程	専　　攻	入学定員（人）	収容定員（人）
法 務 研 究 科	法務専攻	—	18

平成32年度

研究科・専門職学位課程	専　　攻	入学定員（人）	収容定員（人）
法 務 研 究 科	法務専攻	—	—

備考　法務研究科は，平成30年度から募集停止となるため収容定員のみの表示とする。

4　法務研究科の入学に関する規定は，平成30年度から適用しない。

附　則

1　この学則は，平成31年4月1日から施行する。

2　第4条第1項および同条第2項の規定にかかわらず平成31年度の入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

平成31年度

研究科・修士課程	専　　攻	入学定員（人）	収容定員（人）
経 済 学 研 究 科	経済政策専攻	15	30
経 営 学 研 究 科	経営学専攻	7	14
法 学 研 究 科	法律学専攻	7	14
	政治学専攻	5	10
文 学 研 究 科	日本文化専攻	5	10
	英米文化専攻	5	10
工 学 研 究 科	建設工学専攻	6	12
	電子情報工学専攻	−	−
	電子情報生命工学専攻	6	12

研究科・博士課程	専　　攻	入学定員（人）	収容定員（人）
経 済 学 研 究 科	経済政策専攻	3	9
経 営 学 研 究 科	経営学専攻	3	9
法 学 研 究 科	法律学専攻	2	6
	政治学専攻	2	6
文 学 研 究 科	日本文化専攻	2	6
	英米文化専攻	2	6
工 学 研 究 科	建設工学専攻	2	6
	電子情報生命工学専攻	2	4

附　則

この学則は，令和２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，令和３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，令和４年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，令和５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，令和６年４月１日から施行する。

附　則

この学則は，令和７年４月１日から施行する。

別表第1

4　文学研究科

(1)　日本文化専攻

授業科目	単位数	備考
言語･思想文化科目		
日本文学特殊講義Ⅰ	4	
日本文学特殊講義演習ⅠA	4	
日本文学特殊講義演習ⅠB	4	
日本文学特殊講義Ⅱ	4	
日本文学特殊講義演習ⅡA	4	
日本文学特殊講義演習ⅡB	4	
日本文学特殊講義Ⅲ	4	
比較文学特殊講義Ⅰ	4	
比較文学特殊講義演習ⅠA	4	
比較文学特殊講義演習ⅠB	4	
比較文学特殊講義Ⅱ	4	
比較文学特殊講義演習ⅡA	4	
比較文学特殊講義演習ⅡB	4	
日本思想特殊講義Ⅰ	4	
日本思想特殊講義演習ⅠA	4	
日本思想特殊講義演習ⅠB	4	
日本思想特殊講義Ⅱ	4	
日本思想特殊講義演習ⅡA	4	
日本思想特殊講義演習ⅡB	4	
日本語研究特殊講義Ⅰ	4	
日本語研究特殊講義演習ⅠA	4	
日本語研究特殊講義演習ⅠB	4	
日本語研究特殊講義Ⅱ	4	
日本語研究特殊講義演習ⅡA	4	
日本語研究特殊講義演習ⅡB	4	
日本語研究特殊講義Ⅲ	4	
日本語研究特殊講義演習ⅢA	4	
日本語研究特殊講義演習ⅢB	4	
日本語研究特殊講義Ⅳ	4	
比較言語研究特殊講義jⅠ	4	
比較言語研究特殊講義演習jⅠA	4	
比較言語研究特殊講義演習jⅠB	4	
歴史･環境文化科目		
日本史特殊講義Ⅰ	4	
日本史特殊講義演習ⅠA	4	
日本史特殊講義演習ⅠB	4	
日本史特殊講義Ⅱ	4	
日本史特殊講義演習ⅡA	4	
日本史特殊講義演習ⅡB	4	
日本史特殊講義Ⅲ	4	
環境文化特殊講義ｊⅠ	4	
環境文化特殊講義演習ｊⅠA	4	
環境文化特殊講義演習ｊⅠB	4	
環境文化特殊講義ｊⅡ	4	
環境文化特殊講義演習ｊⅡA	4	
環境文化特殊講義演習ｊⅡB	4	
環境文化特殊講義ｊⅢ	4	
論文指導		
論文指導	2	長期履修生のみ。修了要件に算入しない。

(2)　英米文化専攻

授業科目	単位数	備考
言語･思想文化科目		
英米文学特殊講義Ⅰ	4	
英米文学特殊講義演習ⅠA	4	
英米文学特殊講義演習ⅠB	4	
英米文学特殊講義Ⅱ	4	
英米文学特殊講義演習ⅡA	4	
英米文学特殊講義演習ⅡB	4	
英語研究特殊講義Ⅰ	4	
英語研究特殊講義演習ⅠA	4	
英語研究特殊講義演習ⅠB	4	
英語研究特殊講義Ⅱ	4	
英語研究特殊講義演習ⅡA	4	
英語研究特殊講義演習ⅡB	4	
英語研究特殊講義Ⅲ	4	
英語研究特殊講義演習ⅢA	4	
英語研究特殊講義演習ⅢB	4	
英語研究特殊講義Ⅳ	4	
英語研究特殊講義演習ⅣA	4	
英語研究特殊講義演習ⅣB	4	
欧米思想特殊講義Ⅰ	4	
欧米思想特殊講義演習ⅠA	4	
欧米思想特殊講義演習ⅠB	4	
欧米思想特殊講義Ⅱ	4	
欧米思想特殊講義演習ⅡA	4	
欧米思想特殊講義演習ⅡB	4	
欧米思想特殊講義Ⅲ	4	
欧米思想特殊講義演習ⅢA	4	
欧米思想特殊講義演習ⅢB	4	
歴史･環境文化科目		
欧米史特殊講義Ⅰ	4	
欧米史特殊講義演習ⅠA	4	
欧米史特殊講義演習ⅠB	4	
欧米史特殊講義Ⅱ	4	
欧米史特殊講義演習ⅡA	4	
欧米史特殊講義演習ⅡB	4	
欧米史特殊講義Ⅲ	4	
欧米史特殊講義演習ⅢA	4	
欧米史特殊講義演習ⅢB	4	
欧米史特殊講義Ⅳ	4	
環境文化特殊講義eⅠ	4	
環境文化特殊講義演習eⅠA	4	
環境文化特殊講義演習eⅠB	4	
環境文化特殊講義eⅡ	4	
環境文化特殊講義演習eⅡA	4	
環境文化特殊講義演習eⅡB	4	
環境文化特殊講義eⅢ	4	
論文指導		
論文指導	2	長期履修生のみ。修了要件に算入しない。

別表第2

4　文学研究科

(1)　日本文化専攻

授業科目	単位数	備考
言語・思想文化科目		
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅠA	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅠB	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅠC	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅡA	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅡB	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅡC	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅢA	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅢB	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅢC	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅣA	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅣB	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅣC	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅤA	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅤB	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅤC	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅥA	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅥB	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅥC	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅦA	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅦB	4	
日本言語･思想文化論文指導特殊演習ⅦC	4	
歴史･環境文化科目		
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅠA	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅠB	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅠC	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅡA	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅡB	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅡC	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅢA	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅢB	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅢC	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅣA	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅣB	4	
日本歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅣC	4	
論文指導		
論文指導Ⅰ	2	長期履修生のみ。修了要件に算入しない。
論文指導Ⅱ	2	長期履修生のみ。修了要件に算入しない。

(2)　英米文化専攻

授業科目	単位数	備考
言語･思想文化科目		
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅠA	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅠB	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅠC	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅡA	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅡB	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅡC	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅢA	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅢB	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅢC	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅣA	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅣB	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅣC	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅤA	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅤB	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅤC	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅥA	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅥB	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅥC	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅦA	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅦB	4	
欧米言語･思想文化論文指導特殊演習ⅦC	4	
歴史・環境文化科目		
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅠA	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅠB	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅠC	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅡA	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅡB	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅡC	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅢA	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅢB	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅢC	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅣA	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅣB	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅣC	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅤA	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅤB	4	
欧米歴史･環境文化論文指導特殊演習ⅤC	4	
論文指導		
論文指導Ⅰ	2	長期履修生のみ。修了要件に算入しない。
論文指導Ⅱ	2	長期履修生のみ。修了要件に算入しない。

北海学園大学大学院研究生規程

第１条　北海学園大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第39条に基づき，研究生に関する事項を定める。
第２条　研究生を志願することができる者は，つぎの各号の一に該当する者とする。
⑴　大学院修士課程又は博士（後期）課程を修了した者
⑵　大学院専門職学位課程を修了した者
⑶　志願する研究科において，前号に掲げる者と同等以上の学力があると認めた者
第３条　研究生の入学時期は，原則として学年又は学期の始めとする。ただし，特別の事由があるときはこの限りでない。
第４条　研究生を志願する者は，所定の願書に，大学院学則別表第５の１に定める審査料を添えて，志願する研究科に提出しなければならない。
第５条　研究生の選考は，志願をした研究科で行い，研究科委員会の議を経て，合格者を決定する。
第６条　研究生の選考に合格した者のうち，指定期日までに，大学院学則別表第５の１に定める受講料等を納入し，所定の手続きを完了した者に，学長は，入学の許可を与える。
２　前項の受講料等のほか，必要に応じ研究実費を納入させることができる。
第７条　研究生の在学期間は，原則として入学日からその年度末までとする。ただし，引き続き在学の願い出があったときは，研究科委員会の議を経て，在学期間の延長を許可することができる。
第８条　研究生は，指導教員の指導をうけて研究に従事するものとする。
２　指導教員は，その研究科の授業科目を担当する専任の教員とする。
第９条　研究生は，指導教員が必要と認めたときは，研究科の授業に担当教員の許可を得て出席することができる。
第10条　研究科が必要と認めたときは，研究生のための特別な講座を設けることができる。
第11条　研究科長は，研究生の願い出により，研究証明書を交付することができる。
第12条　研究生が退学しようとするときは，退学願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。
第13条　研究生について，本規程に規定のない事項については，大学院学則を準用する。
ただし，第５章の規定は除く。

附　則
この規程は，昭和63年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成７年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成20年４月１日から施行する。

了解事項
１　第７条に定める在学期間は，研究科においてこれを定める。
２　第10条に定める講座については，大学院学生等の聴講を認めることがある。
聴講料については別に定める。

附　則
この規程は，平成20年８月１日から施行する。
附　則
この規程は，令和２年４月１日から施行する。

北海学園大学大学院委託生規程

第１条　北海学園大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第41条に基づき，委託生の取扱いをつぎのように定める。

第２条　委託生を志願することのできる者は，つぎの各号の一に該当する者とする。

⑴　大学を卒業した者

⑵　志願する研究科において，前号に掲げる者と同等以上の学力があると認めた者

第３条　委託生の入学時期は，学年又は学期の始めとする。

第４条　委託生を願い出る者は，所定の願書に大学院学則別表第５の３に定める入学検定料を添えて，志願する研究科に提出しなければならない。

第５条　委託生については，各研究科委員会の議を経て，合格者を決定する。

第６条　委託生が，指定された期限内に，大学院学則別表第５の３に定める受講料等を納入して所定の手続きを完了したとき，合格した委託生に対して，学長は入学の許可を与える。

２　前項の受講料等のほか，研究に必要な費用を納入させることができる。

第７条　委託生の在学期間は，原則として１年とする。ただし，委託生の願い出により，研究科委員会の議を経て，在学期間の延長を許可することができる。

第８条　委託生は，指導教員の指導をうけて研究するものとする。

第９条　研究科委員会が必要と認めるときは，委託生のための特別な講座を設けることができる。

第10条　研究科委員会が必要と認めるときは，委託生の願い出により，委託修了証明書及び委託受講証明書を交付することができる。

第11条　委託生が退学するときは，委託者は研究科に所定の退学願を提出し，研究科委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。

第12条　委託生については，本規程に規定のない事項については，大学院学則（ただし，第５章は除く。）を準用する。

附　則

この規程は，平成３年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成６年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成７年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

北海学園大学大学院科目等履修生規程

第１条　北海学園大学大学院（以下「本大学院」という。）学則第43条の２第２項に基づき，科目等履修生に関する事項を定める。

第２条　科目等履修生を志願することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。

⑴　学校教育法第83条の大学を卒業した者

⑵　外国において，学校教育における16年の課程を修了した者

⑶　大学院及び大学の専攻科の入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定（昭和28年２月７日文部省告示第５号）で文部科学大臣が指定した者

⑷　学校教育法第104条第１項の規定により学士の学位を授与された者

⑸　その他本大学院において，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

２　教育職員の専修免許状授与の所要資格を得るに必要な授業科目を履修するために科目等履修生を志願することのできる者は，教育職員免許法別表第３により，中学校教諭一種免許状又は高等学校教諭一種免許状を有し，かつ，一種免許状を取得後に３年以上の教育職員の在職年数を有する者とする。

第３条　科目等履修生の入学の時期は，学年の始めとする。

第４条　科目等履修生を志願する者は，次の各号に定める書類に，大学院学則別表第５の６に定める入学検定料を添えて，学長に願い出なければならない。

⑴　科目等履修生入学願書

⑵　科目等履修生入学出願理由書

⑶　最終学校の成績証明書及び卒業証明書

⑷　科目等履修生カード

２　第２条第２項に基づき志願する者は，前項各号に掲げる書類のほか，中学校教諭一種又は高等学校教諭一種の教育職員免許状授与証明書及び中学校教諭一種又は高等学校教諭一種の免許状取得後３年以上の教育職員の在職年数を証明する書類に，大学院学則別表第５の６に定める入学検定料を添えて，学長に願い出なければならない。

第５条　科目等履修生の選考は，志願をした研究科で行い，研究科委員会の議を経て，合格者を決定する。

第６条　科目等履修生の選考に合格した者のうち，指定期日までに，大学院学則別表第５の６に定める入学金及び受講料等の納入金を納入し，所定の入学手続を完了した者に，学長は，入学の許可を与える。

第７条　科目等履修生が履修できる期間は，許可した年度に限るものとする。

第８条　科目等履修生が履修することのできる授業科目は，本大学院学生の教育に支障のない限り，研究科が許可するものとする。

第９条　科目等履修生が１年間に履修できる単位数は，研究科の定めるところによる。

第10条　科目等履修生は，その履修した授業科目につき，試験に合格したうえで単位の認定を受けることができる。

２　修得単位の認定は，科目等履修生を選考した研究科で行い，研究科委員会の議を経て，決定する。

３　合格した授業科目については，本人の願い出により，単位修得証明書又は科目等履修生証明書を交付することができる。

第11条　科目等履修生が退学しようとするときは，理由を明記した退学願を研究科長に提出し，研究科委員会の議を経て，学長の許可を受けなければならない。

第12条　科目等履修生が，本大学院の学則に違反し，又はその本分に反する行為があったときは，研究科委員会の議を経て，学長は，科目等履修生の許可を取り消すものとする。

第13条　科目等履修生について，本規程で定めるもののほかは，本大学院の学則（ただし，第27条，第28条の規定を除く。）その他本大学院の学生に関する規定を準用する。

附　則

この規程は，平成７年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

北海学園大学大学院文学研究科規則

第１条　本規則は，北海学園大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第４条第５項により文学研究科（以下「本研究科」という。）に関する事項を定める。

第２条　本研究科に修士課程を置き，専攻を日本文化専攻と英米文化専攻とする。

２　本研究科に博士（後期）課程を置き，専攻を日本文化専攻と英米文化専攻とする。

３　日本文化専攻は，暮らしのかたちである文化を己の目でみつめ，己の心に根ざした思いを問い質す営みをとおし，日本文化の創造的発展を担いうる人物の養成を目的とする。英米文化専攻は，ヨーロッパ社会が生み育てた近代文明を根底から問う営みをとおし，日本文化を創造的に覚醒しうる人物の養成を目的とする。

４　本研究科の科長は，博士（後期）課程の専任教員より選出される。

第３条　本研究科に入学できる者は，大学院学則第９条各号に該当する者で，本研究科の行う選考に合格した者とする。

第４条　大学院学則第11条又は第12条に該当する者が，本研究科に転入学又は再入学を願い出た場合は，選考のうえ入学を許可することができる。

第5条　本研究科の授業科目及び単位は，大学院学則別表第１の４文学研究科⑴日本文化専攻及び⑵英米文化専攻並びに同別表第２の４文学研究科⑴日本文化専攻及び⑵英米文化専攻とし，履修に関する事項については，別に定める。

ただし，他の大学院との間の単位互換制度の協定に基づき，認定単位数を定める場合は，その定めによる。

２　北海学園大学の学部の授業科目の履修を希望する学生があるときは，本研究科委員会の議を経て，許可することができる。

第６条　大学院学則第23条により，学生の指導教授は，本研究科委員会が定める。本研究科委員会は，特別な理由がある場合には，指導教授を変更することができる。

第７条　修士（文学）の学位は，大学院学則第27条第１項に定められた修了要件をみたした者について，本研究科委員会の議を経て，大学院委員会で認証のうえ授与する。

２　博士（文学）の学位は，大学院学則第27条第２項に定められた修了要件又は第28条第２項に定められた要件をみたした者について，本研究科委員会の議を経て，大学院委員会で認証のうえ授与する。

第８条　本研究科修士課程の授業科目中１科目又は数科目の聴講を願い出る者があるときは，本研究科委員会の議を経て，聴講生としてこれを許可することができる。

第９条　本研究科修士課程の特定の授業科目の履修を希望する者があるときは，学生の教育に支障がない限り，本研究科委員会の議を経て，科目等履修生としてこれを許可することができる。

第10条　特定の授業科目を履修して単位を修得しようとする他大学大学院の学生があるときは，本研究科委員会の議を経て，特別聴講学生としてこれを許可することができる。

２　前項の単位の修得については，大学院学則第26条を準用する。

第11条　研究指導を受けようとする大学院修士課程修了者又は博士（後期）課程修了者若しくは単位修得満期退学者があるときは，本研究科委員会の議を経て，研究生としてこれを許可することができる。

第12条　前４条の許可は，学期又は学年ごとに行う。

第13条　国費外国人留学生の受入れに関する事項は，本規則の規定にかかわらず，実施機関の定めるところによる。

附　則

この規則は，平成11年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成15年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成17年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成19年６月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成23年４月１日から施行する。

附　則

1　この規則は，平成24年４月１日から施行する。

2　本規則第５条第１項に規定する平成24年４月１日施行の大学院学則別表第１の４⑴は，平成22年度入学生から適用する。

附　則

この規則は，平成25年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

1　この規則は，平成28年４月１日から施行する。

2　本規則第５条第１項に規定する平成28年４月１日施行の大学院学則別表は，平成27年度入学生から適用する。

附　則

1　この規則は，平成30年４月１日から施行する。

2　本規則第５条第１項に規定する平成30年４月１日施行の大学院学則別表第１の４⑵は，平成27年度入学生から適用する。

附　則

1　この規則は，平成31年４月１日から施行する。

2　本規則第５条第１項に規定する平成31年４月１日施行の大学院学則別表第１の４⑵は，平成27年度入学生から適用する。

附　則

1　この規則は，令和３年４月１日から施行する。

2　本規則第５条第１項に規定する令和３年４月１日施行の大学院学則別表第１の４⑴は，平成27年度入学生から適用する。

附　則

1　この規則は，令和５年４月１日から施行する。

2　本規則第５条第１項に規定する令和５年４月１日施行の大学院学則別表第２の４⑵は，平成27年度入学生から適用する。

北海学園大学大学院文学研究科履修規程

第１条　本規程は，北海学園大学大学院学則（以下「大学院学則」という）第19条の３第１項により，文学研究科（以下「本研究科」という。）の研究指導及び履修に関する事項を定める。

第２条　修士課程の標準修業年限は２年，博士（後期）課程の標準修業年限は３年とする。

２　前項の規定にかかわらず，大学院学則第４条の２第４項により長期履修の期間は，修士課程３年，博士（後期）課程５年とする。長期履修にかかわる取扱いは，「文学研究科長期履修の取扱いに関する内規」に定める。

３　学生は，修士課程には４年，博士（後期）課程には６年をこえて在学することはできない。

４　修士課程の在学期間に関しては，本研究科に入学する前に修得した単位数，その修得に要した期間その他を勘案し本研究科の修士課程の一部を履修したものと認められるときは，１年を超えない範囲で本研究科が定める期間在学したものとみなすことができる。

第３条　学生は，在学期間中に所定の授業科目を履修し，修士課程にあっては32単位以上，博士（後期）課程にあっては12単位以上を修得しなければならない。

２　学生は，定められた期間内に修士論文又は博士論文を研究科長に提出しなければならない。

第４条　修士課程の学生は，指導教授の担当する講義４単位及び演習計８単位（１～２年次開講）を必修科目とし，博士（後期）課程の学生は，指導教授の担当する特殊研究計12単位（１～３年次開講）を必修科目とする。

２　学生は，指導教員以外の演習を履修する場合には，あらかじめ担当教員の許可を受けなければならない。但し，指導教員以外の演習の履修は８単位までとする。

３　本研究科修士課程の他専攻授業科目については，指導教授及び本研究科委員会の承認を得て，本研究科修了に必要な単位として上限なく履修することができる。

４　学生は，指導教授及び本研究科委員会の承認を得て，他の研究科の授業科目を履修することができる。但し，本項の規定により履修した授業科目の単位のうち本研究科修了に必要な単位として認められるのは，15単位を限度とする。

５　学生は，指導教授及び本研究科委員会の承認を得て，北海学園大学（以下「本大学」という。）の学部の授業科目を履修することができる。但し，本項の規定により履修した本大学の単位修得の認定は，本大学の学則に基づいて行うものとする。

第５条　大学院学則第25条に基づき教育方法の特例で入学した学生（以下「社会人学生」という）は，在学期間の全期間にわたって夜間で履修することができる。

第６条　学生は，学年の始めに指導教授の指導を受けて履修科目を定め，所定の手続きにより，指定された期間に履修登録をおこなわなければならない。但し，他の大学院との間の単位互換制度の協定に基づき授業科目を履修する場合は，あらかじめ本研究科委員会に願い出て，許可を受けなければならない。

２　大学院学則第15条第１項及び第３項に基づいて後期から翌年度の前期の終わりまで休学する学生が，休学前に履修していた通年科目を復学年度の後期に引き続き履修する場合（継続履修）の取扱いは，「文学研究科継続履修内規」の定めによる。

第７条　転入学生が他の大学院で履修して修得した単位の認定については，15単位を限度として本研究科委員会が行う。

２　第４条第４項及び前１項で修得したものとみなすことができる単位数は，合わせて20単位を超えないものとする。

第８条　修士論文の提出期限は，原則として，毎年１月10日までとし，博士論文の提出期限は，毎年12月10日までとする。ただし，第２条の標準修業年限を越えて在学し，第３条１項に定められた単位を前年度中に修得し，必要な研究指導を受けており，かつ，９月修了を希望する者は，原則として，修士論文の提出期限を毎年７月10日とし，博士論文の提出期限を毎年６月10日とする。

２　修士論文又は博士論文は,指導教授の指導を受けて作成し,定められた期間内に正１通，副２通に履歴書２通を添えて研究科長に提出しなければならない。

第９条　大学院学則第28条第２項に定める博士の学位を受けようとする者の論文提出期限は，原則として毎年６月10日又は12月10日までとする。

第10条　所定の単位を修得し，かつ，修士論文又は博士論文を提出した者につき，提出された論文を中心として口頭又は筆記による最終試験を行う。

第11条　教員の異動，長期にわたる外国出張，その他やむをえない事情のあるときは，本研究科委員会の議を経て，適宜の措置を講じることができる。

附　則

この規程は，平成11年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成17年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成18年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成20年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成25年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成31年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，令和３年４月１日から施行する。

北海学園大学学位規則

昭和45年３月26日　制定

（授与する学位）

第１条　北海学園大学（以下「本大学」という。）が授与する学位は，次のとおりとする。

経済学部１部		経　済　学　科	学士（経済学）
		地域経済学科	学士（経済学）
経済学部２部		経　済　学　科	学士（経済学）
		地域経済学科	学士（経済学）
経営学部１部		経　営　学　科	学士（経営学）
		経営情報学科	学士（経営学）
経営学部２部		経　営　学　科	学士（経営学）
法 学 部 １部		法　律　学　科	学士（法　学）
		政　治　学　科	学士（法　学）
法 学 部 ２ 部		法　律　学　科	学士（法　学）
		政　治　学　科	学士（法　学）
人文学部１部		日本文化学科	学士（文　学）
		英米文化学科	学士（文　学）
人文学部２部		日本文化学科	学士（文　学）
		英米文化学科	学士（文　学）
工　学　部		社会環境工学科	学士（工　学）
		建　築　学　科	学士（工　学）
		電子情報工学科	学士（工　学）
		生 命 工 学 科	学士（工　学）
経済学研究科	経済政策専攻	修士（経済学）	博士（経済学）
経営学研究科	経 営 学 専 攻	修士（経営学）	博士（経営学）
法学研究科	法 律 学 専 攻	修士（法　学）	博士（法　学）
	政 治 学 専 攻	修士（政治学）	博士（政治学）
文学研究科	日本文化専攻	修士（文　学）	博士（文　学）
	英米文化専攻	修士（文　学）	博士（文　学）
工学研究科	建設工学専攻	修士（工　学）	博士（工　学）
	電子情報生命工学専攻	修士（工　学）	博士（工　学）

（学位の授与の要件）

第２条　学士の学位は，本大学を卒業した者に授与する。

２　修士の学位は，本大学の大学院（以下「本大学院」という。）の修士課程を修了した者に授与する。

３　博士の学位は，本大学院の博士（後期）課程を修了した者に授与する。

４　前項の規定にかかわらず，博士の学位は，本大学院博士（後期）課程を修了しない者であっても，博士論文を提出して，その審査に合格し，かつ，その関係専攻分野に関し本大学院博士（後期）課程修了者と同等以上の学力を有することを試験により確認された場合には，授与することができる。

５　本大学院の博士（後期）課程に所定の修業年限以上在学し，所定の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けて退学した者が，再入学せずに論文を提出するときは，前項の規定によるものとする。ただし，退学したときから３年以内に提出する場合に限り，審査手数料の納入を免除する。

６　削除

（論文の提出）

第３条　修士論文は，在学第２年次以降において，各研究科において指定する期間内に，研究科長に提出しなければならない。

２　博士論文は，在学第３年次以降において，各研究科において指定する期間内に，研究科長に提出しなければならない。

3　前条第４項の規定により博士の学位の授与を申請する者は，所定の博士学位申請書，研究業績一覧表，博士論文の要旨，履歴書及び別に定める審査手数料を添えて，博士論文を研究科長に提出しなければならない。
4　提出する論文は１編とし，３通を提出するものとする。
5　提出した論文及び納入した審査手数料は，返還しない。
（論文の審査及び試験）
第４条　修士論文の審査及び試験は，「学位規則」（昭和28年文部省令第９号）第３条に定めるところを基準として行うものとする。
2　博士論文の審査及び試験は，「学位規則」（昭和28年文部省令第９号）第４条に定めるところを基準として行うものとする。
3　論文の審査及び試験に関し必要な事項は，研究科委員会の議を経て，研究科長が定める。
（論文の審査）
第５条　修士論文及び博士論文の審査は，研究科の審査委員会が行う。
2　前項の審査委員会は，原則として，当該研究科委員会に所属する３人の委員をもって構成する。第２条第２項，第３項に定める学位論文の審査のための審査委員会には，学位申請者の指導教授を加えるものとする。
3　第２条第２項，第３項に定める学位論文の審査は，原則として在学期間内に終了するものとし，第２条第４項及び第５項に定める博士論文の審査は，その提出日から１年以内に終了するものとする。
（試　　験）
第６条　試験は，審査委員が筆記又は口頭で行う。
2　試験は，修士論文又は博士論文の内容を中心として行う。
3　第２条第４項に定める学力を確認するための試験は，博士論文の内容，関連する専攻分野の科目及び外国語について行う。ただし，学位申請者の経歴，研究上の業績から優れた学力が認められる場合は，関連する専攻分野の科目及び外国語についての試験を免除することができる。
（審査等の報告）
第７条　修士論文又は博士論文の審査及び試験が終了したときは，審査委員会は，その結果を，修士論文又は博士論文及び試験の要旨を記載した書面により研究科委員会に報告しなければならない。
2　審査を終了した修士論文又は博士論文は，おおむね１週間，研究科委員会の委員に対して公開するものとする。
3　研究科長は，研究科委員会の委員に対し，修士論文又は博士論文の提出者の氏名，修士論文又は博士論文の題目，公開の期間及び期日と場所その他必要な事項を，公開期間前７日までに書面をもって通知しなければならない。
（合格又は不合格の決定）
第８条　修士論文及び博士論文並びに試験の合格又は不合格は，研究科委員会において決定する。
2　前項の研究科委員会は，委員総数の３分の２以上の者が出席しなければ，開催することができない。
3　第１項の合格の決定は，研究科委員会の委員の無記名投票により出席者の３分の２以上の者が賛成することを必要とする。
（合格者の報告）
第９条　修士論文及び博士論文並びに試験の合格者が決定したときは，研究科長は，遅滞なく，その旨を学長に報告しなければならない。
2　前項の報告には，修士論文又は博士論文の審査及び試験の結果の要旨並びに履歴書２通を添付しなければならない。
（学位の授与及び学位記）
第10条　学長は，教授会の議を経て，本大学学則第 32 条の定める単位を修得した者に，第１条に該当する学士の学位を授与する。
2　学長は，大学院委員会の議を経て，修士論文又は博士論文の審査及び試験の合格者に対し，第１条に該当する学位を授与する。
3　削除
4　学位記は，別記様式のとおりとする。
（論文要旨等の公表）
第11条　本大学は，博士の学位を授与したときは，当該博士の学位を授与した日から３ケ月以内に，その学位論文の内容の要旨及び審査結果の概要をインターネットの利用により公表するものとする。
2　博士の学位を授与された者は，当該博士の学位を授与された日から１年以内に，当該博士の学位の授与に係

る論文の全文を公表しなければならない。ただし，当該博士の学位を授与される前にすでに公表している場合は，この限りではない。

3　前項の規定にかかわらず，博士の学位を授与された者は，やむをえない理由がある場合には，本大学の承認を得て，当該博士の学位授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において，本大学は，その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

4　博士の学位を授与された者が行う前２項の規定による公表は，本大学の機関リポジトリHOKUGA（以下「HOKUGA」という。）を活用して，インターネットによるものとする。

5　前項の規定にもかかわらず，博士の学位を授与された者がHOKUGA以外の形態によって公表する場合には，本大学が授与した学位に係る論文またはその要旨である旨を明記しなければならない。

（学位の取消）

第12条　学位を授与された者が，次の各号の一に該当するときは，学長は，教授会又は大学院委員会の議を経て，授与した学位を取り消すものとする。

⑴　不正な方法により学位を受けた事実が判明したとき

⑵　学位を授与された者にその名誉を汚辱する行為があったとき

2　前項の規定により学位を取り消された者は，その学位記を本大学に返さなければならない。

（規則の改正）

第13条　この規則の改正は，本大学協議会又は本大学大学院委員会の議を経て行う。

附　則

この規則は，昭和45年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，昭和61年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成３年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成３年12月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成４年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成５年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成７年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成８年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成10年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成11年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成12年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成13年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成14年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成15年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成17年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成19年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成26年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成28年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成30年４月１日から施行する。

附　則

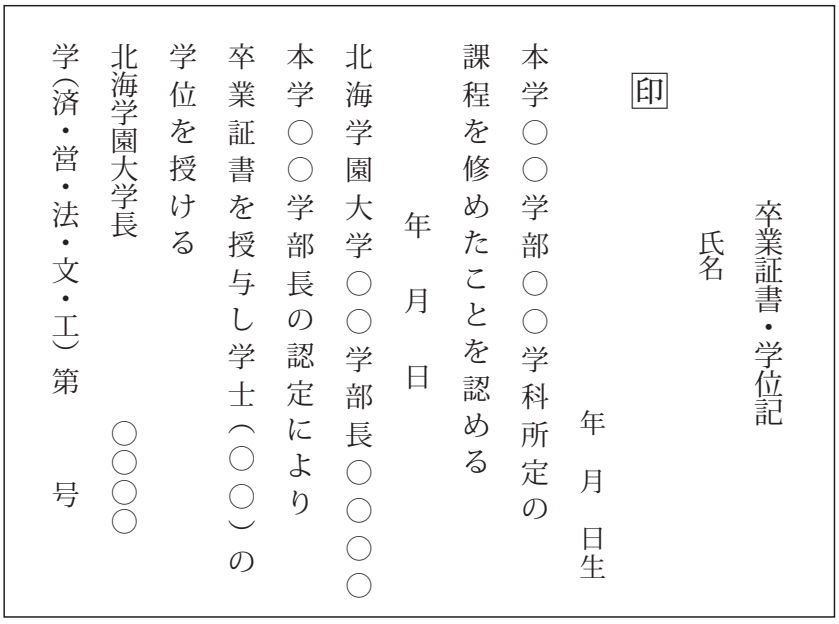
この規則は，令和２年４月１日から施行する。

附　則

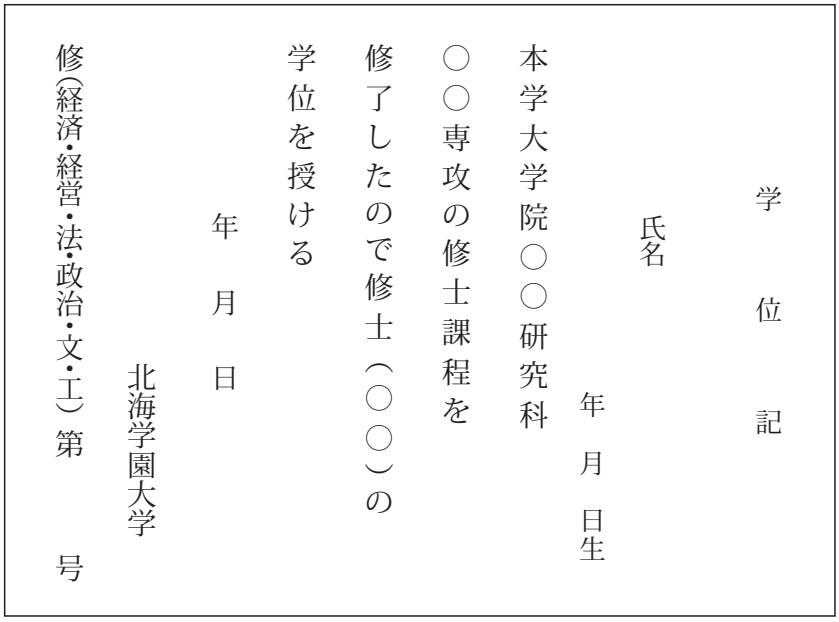
この規則は，令和６年４月１日から施行する。

別記様式

1　（本学を卒業した場合の卒業証書・学位記）



2　（修士課程を修了した場合の学位記）



3　（博士（後期）課程を修了した場合の学位記）

学位記

氏名

年月日生

本学大学院○○研究科

○○専攻の博士課程を

修了したので博士（○○）の

学位を授ける

年月日

北海学園大学

博（経済・経営・法・政治・文・工）甲第　号

4　（論文提出による場合の学位記）

学位記

氏名

年月日生

本学に学位論文を提出し

所定の審査及び試験に合格

したので博士（○○）の

学位を授ける

年月日

北海学園大学

博（経済・経営・法・政治・文・工）乙第　号

5　削除

北海学園大学大学院学位論文審査手数料の取り扱いに関する規程

第１条　この規程は，北海学園大学学位規則第３条第３項に基づき審査手数料に関する事項を定める。

第２条　審査手数料は，次のとおりとする。

１　博士（後期）課程において３年以上在学し，所定の研究指導を受けた者で，退学後３年を超えて学位論文を提出する者。　　１００，０００円

ただし，学位規則第２条第５項該当者は納入を免除する。

２　本学卒業生，本学大学院修士課程修了者，本学園教職員。　　１００，０００円

３　学外者。　　２００，０００円

第３条　審査手数料は，提出された学位論文審査願により受理され，学位申請書提出時に納入するものとする。

第４条　既納の審査手数料は，これを還付しない。

附　則

この規程は，平成16年４月１日より施行する。

北海学園大学大学院文学研究科
修士学位申請論文指導要項

（目的）

第1条　本要項は，北海学園大学大学院文学研究科修士課程において所定の年限以上在学して所定の単位を修得し，かつ必要な研究指導をうけて，修士（文学）の学位を取得するための指針を示すものである。

（論文の基準）

第2条　論文は，当該専攻分野について高度な研究能力を示すものとする。

（研究題目と指導）

第3条　学位申請論文（以下「論文」という。）提出予定者は，毎年４月の所定の期日までに，研究題目を決めて届け出なければならない。届け出のあった研究題目に対応する指導は，文学研究科委員会で決定する。なお，研究題目に変更のあった場合には直ちに届け出なければならない。

（修士論文中間報告会）

第4条　文学研究科委員会は，修士論文中間報告会を開催し，論文提出予定者に研究内容の中間発表をさせるものとする。

２　修士論文中間報告会は，毎年，定例的に開催し，研究科長が指名する修士課程担当教員が運営にあたる。

（論文提出の期限）

第5条　論文の提出期限は，原則として，第２年次以降の毎年１月 10 日とする。ただし，本研究科履修規程第２条の標準修業年限を越えて在学し，同第３条第１項及び同第４条第１項に定められた単位を前年度中に修得し，必要な研究指導を受けており，かつ，９月修了を希望する者は，原則として，毎年７月 10 日を期限に提出できるものとする。

（論文の提出）

第6条　論文提出者は，原則として，論文要旨（2,000 字程度）を付した論文（A4 版　審査用３部，製本用として別途指定する部数）に所定の学位論文審査願等の必要書類を添えて，所定の期日までに文学研究科長に提出しなければならない。

（その他）

第7条　論文指導に関する必要な事項は，文学研究科委員会の議を経て決定する。

附　則

この申合せは，平成 13 年 10 月 25 日から施行し，平成 13 年４月１日から適用する。

附　則

この要項は，従前の申合せを改正し，平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

この要項は，平成 20 年４月１日から施行する。

附　則

この要項は，平成 24 年４月１日から施行する。

附　則

この要項は，平成 27 年４月１日から施行する。

北海学園大学大学院文学研究科
課程博士学位申請論文指導要項

（目的）

第1条　本要項は，北海学園大学大学院文学研究科博士（後期）課程において所定の年限以上在学して所定の単位を修得し，かつ必要な研究指導を受けて，博士（文学）の学位を取得するための指針を示すものである。

（指導教員の責務）

第2条　指導教員は，論文提出予定者の研究状況につき,年次ごとに博士（後期）課程担当教員を構成員とする研究科委員会に報告するものとする。

（論文の基準）

第3条　論文は，当該専攻分野について研究者として自立しうる高度な研究能力を示すものとする。

（研究題目と指導）

第4条　学位申請論文（以下「論文」という。）提出予定者は，毎年４月の所定の期日までに，研究題目を決めて届け出なければならない。届け出のあった研究題目に対応する指導は，博士（後期）課程担当教員を構成員とする研究科委員会で決定する。なお，研究題目に変更のあった場合には直ちに届け出なければならない。

（博士論文指導研究演習）

第5条　文学研究科委員会は，博士論文指導研究演習を開催し，論文提出予定者に年1回以上の研究発表をなしうる場を用意する。

２　博士論文指導研究演習は，毎学期定例的に開催し，研究科長が指名した博士（後期）課程担当教員が運営にあたる。

３　研究発表者は，発表終了後1か月以内に論文にまとめて指導教員に提出し，指導と助言を受けるものとする。

（論文提出の期限）

第6条　論文の提出期限は，原則として，第３年次以降の毎年12月10日とする。ただし，本研究科履修規程第２条の標準修業年限を越えて在学し，同第３条第1項及び同第４条1項に定められた単位を前年度中に修得し，必要な研究指導を受けており，かつ，9月修了を希望する者は，原則として，毎年6月10日を期限に提出できるものとする。

（論文の提出）

第7条　論文提出者は,原則として，論文要旨（2,000字程度）を付した論文（A4版　審査用3部，製本用として別途指定する部数）に所定の学位論文審査願等の必要書類を添えて，所定の期日までに文学研究科長に提出しなければならない。

（論文要旨等の公表）

第8条　学位を授与された者は，北海学園大学学位規則第11条に基づいて，論文要旨等を公表しなければならない。

（その他）

第9条　論文指導に関する必要な事項は，博士（後期）課程担当教員を構成員とする研究科委員会の議を経て決定する。

附　則

この要項は，平成13年6月28日から施行し,平成13年４月1日から適用する。

附　則

この要項は，平成19年４月1日から適用する。

附　則

この要項は，平成20年４月1日から施行する。

附　則

この要項は，平成24年４月1日から施行する。

附　則

この要項は，平成27年４月1日から施行する。

附　則

この要項は，平成31年４月1日から施行する。

北海学園大学大学院文学研究科
博士学位申請論文（論文博士）提出要項

（目的）

第1条　本要項は，北海学園大学大学院学則及び北海学園大学学位規則に関する北海学園大学大学院文学研究科（以下「本研究科」という。）における博士学位申請論文（以下「論文」という。）の提出についての細目を定める。

（論文の基準）

第2条　論文は，当該専攻分野について研究者として自立しうる高度な研究能力を示すものとする。

（提出資格）

第3条　論文を提出することができる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

⑴　大学院の修士課程を修了した者で，５年以上の研究歴（修士課程の２年の在学期間を含む。）を有する者。

⑵　大学を卒業した者で，６年以上の研究歴を有する者。

⑶　その他本研究科において前２号と同等以上の研究歴を有する者と認めた者。

２　前項の各号のいずれかに該当する者は，事前に本研究科博士（後期）課程担当教員に申し出ることとする。

（論文提出の期限）

第4条　論文の提出期限は，原則として，毎年２回，６月 10 日，12 月 10 日とする。

（論文の提出）

第5条　論文提出者は，原則として，論文要旨（2,000 字程度）を付した論文（A4 版　審査用３冊，製本用として別途指定する部数）に所定の学位論文審査願等の必要書類及び審査手数料を添えて，所定の期日までに文学研究科長に提出しなければならない。

２　北海学園大学大学院の博士（後期）課程に所定の年限以上在学し，所定の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けて退学した者が，再入学せずに，退学したときから３年以内に提出する場合に限り，審査手数料の納入を免除する。

３　提出した論文及び審査手数料は，返還しない。

（試験の方法）

第6条　試験は，論文の内容を中心に筆記又は口頭で行う。

２　北海学園大学学位規則第２条第４項に定める学力を確認するための試験は，論文の内容，関連する専攻分野の科目及び外国語について行う。ただし，学位申請者の経歴，研究上の業績から優れた学力が認められる場合は，関連する専攻分野の科目及び外国語についての試験を免除することがある。

３　口頭による試験は，原則として公開で行う。

（論文要旨等の公表）

第7条　学位を授与された者は，北海学園大学学位規則第 11 条に基づいて，論文要旨等を公表しなければならない。

附　則

この要項は，平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

この要項は，平成 20 年４月１日から施行する。

附　則

この要項は，平成 27 年４月１日から施行する。

文学研究科長期履修の取扱いに関する内規

（趣　旨）

第１条　本内規は，北海学園大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第４条の２第４項，北海学園大学文学研究科規則（以下「研究科規則」という。）第５条及び文学研究科履修規程（以下「研究科履修規程」という。）第２条第２項に基づき，長期履修にかかわる取扱いを定める。本内規に定めのない事項については，大学院学則，研究科規則及び研究科履修規程による。

（長期履修の申し出時期）

第２条　長期履修を希望する者は，出願時に申し出なければならない。

２　前項の規定により申し出があったときには，文学研究科委員会（以下「本研究科委員会」という。）の議を経てこれを認めることができる。

（履　修）

第３条　学生は，標準修業年限を超えた在学期間は，「論文指導」の授業科目を履修しなければならない。

（長期履修期間の短縮）

第４条　長期履修の教育課程にある者が長期履修期間の短縮を願い出た場合には，本研究科委員会の議を経てこれを認めることができる。ただし，短縮して在学する期間は標準修業年限以上でなければならない。

２　前項の願い出の時期は希望修了年度の前年度の2月の定められた日とする。

（雑　則）

第５条　その他，長期履修の取扱いに関する必要な事項は，本研究科委員会において定める。

附　則

本内規は，平成 23 年 4 月 1 日より施行する。

附　則

本内規は，平成 24 年 4 月 1 日より施行する。

附　則

本内規は，平成 28 年 4 月 1 日より施行する。

文学研究科継続履修内規

（目的）

第１条　この規程は，大学院学則第 15 条第 3 項に基づいて休学する本研究科学生が，休学前に履修していた通年科目について，復学年度の第２学期に引き続き履修する場合（以下「継続履修」という）に関する事項を定める。但し，復学年度の第２学期からの新規履修登録については認めない。

（継続履修願）

第２条　継続履修を希望する学生は，休学を願い出る際に，当該履修科目の継続履修願を授業科目の担当者の承諾を得て研究科長に提出しなければならない。

（前半期の評価）

第３条　継続履修の願い出のあった授業科目担当者は，その科目の前半期の評価をしなければならない。

（継続履修登録）

第４条　継続履修願を提出した学生は，復学年度の所定の期日までに願い出に基づいた継続履修登録を行うことにより，継続履修することができる。

ただし，復学年度において，次に掲げる場合に該当するときは，この限りでない。

⑴　継続履修を願い出た授業科目が開講されていない場合

⑵　継続履修を願い出た授業科目が時間割上重複した場合

⑶　授業内容が著しく異なる場合

附　則

この規程は，平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この規程は，平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

北海学園大学　研究活動の基本精神及び行動規範

令和３年９月１日
学長決定

北海学園大学（以下「本学」という。）は，研究活動上の不正行為を防止するため，本学において研究を実施する全ての者（以下「研究者」という。）が遵守すべき基本精神及び行動規範を次のとおり定める。

（基本精神）

１．本学の研究者は，学問の自由の下，自由な発想に基づく学術研究を尊び，研究成果が人類の平和的発展や福祉・文化の向上に寄与する一方で，人類の様々な営みや世界観に多大な影響を与えることを常に認識し，研究の目的，方法，内容及び結果をたえず自省しなければならない。
２．本学の研究者は，学術研究の遂行に当たり，自己の良心と信念に従い，常に厳正な態度で臨まなければならない。
３．本学の研究者は，研究活動を自ら点検し，これを社会に開示するとともに説明責任を果たさなければならない。
４．本学の研究者は，学術研究の信頼保持のために研究活動の不正に対し，常に真摯な態度で臨まなければならない。
５．本学の研究者は，研究の実施，研究費の使用等に当たり，法令及び関係規則を遵守しなければならない。

（行動規範）

１．本学の研究者は，誇りと使命を自覚し，研究活動において不正を行わない，関与しないことはもとより，高い倫理観をもって研究活動の透明性と説明性を自律的に保証するよう努めなければならない。
２．本学の研究者は，学術研究によって生み出される知見の正確さ及び正当性を，科学的に示す最善の努力をするとともに，研究者コミュニティ，特に自らの専門領域における研究者相互の評価に積極的に参加しなければならない。
３．本学の研究者は，研究活動の実施に際して，学生に対し，指導的立場に立つ者として，常に研究活動の本質及びそれに基づく研究作法や研究者倫理に関する事項を指導することにより，研究に対する国民の信頼を堅持しその負託に応えなければならない。
４．本学の研究者は，責任ある研究の実施と不正の防止を可能にする公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し，自らの所属組織の研究環境の質的向上に積極的に取り組まなければならない。
５．本学の研究者は，研究への協力者の人格及び人権を尊重し，待遇に配慮しなければならない。

北海学園大学　研究活動上の不正行為に関する規程

第１章　総則

（趣　旨）

第１条　この規程は，北海学園大学（以下「本学」という。）における研究活動上の不正行為の防止及び不正行為が生じた場合の適正な対応について必要な事項を定める。

（定　義）

第２条　この規程において「研究活動上の不正行為」（以下「不正行為」という。）とは，故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる，次の各号に掲げる行為をいう。

⑴　捏造：存在しないデータ，研究結果等を作成すること。

⑵　改ざん：研究資料・機器・過程を変更する操作を行い，データ，研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

⑶　盗用：他の研究者のアイディア，分析・解析方法，データ，研究結果，論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。

⑷　虚偽申請：事実と異なる内容，肩書又は他人の氏名を用いて応募すること。

⑸　研究費の不正使用：架空の取引による代金の引出し，実体の伴わない出張旅費や謝金の引出し等，研究費を不適切に使用すること。

⑹　二重投稿：印刷物，電子出版物を問わず，既発表の論文又は他の学術雑誌に投稿中の論文と本質的に同じ論文を投稿すること。

⑺　不適切なオーサーシップ：論文著作者が適正に公表されていないこと。

⑻　第１号ないし第７号に掲げる行為の証拠隠滅又は立証妨害

（不正行為に該当しない行為）

第３条　この規程において，次に掲げる行為は不正行為に該当しない。

⑴　悪意のない誤り（科学的に適切な方法により正当に得られた研究成果が結果的に誤りであった場合を含む。）

⑵　意見の相違

（適用範囲）

第４条　この規程は，本学で行われる全ての研究活動に適用され，これらに携わる全ての教職員，研究員及び学生等（以下「研究者等」という。）を対象とする。

（研究者等の責務）

第５条　研究者等は，研究活動上の不正行為やその他不適切な行為を行ってはならず，また，他者による不正行為の防止に努めなければならない。

２　研究者等は，本学が実施する研究倫理教育を受講しなければならない。

３　研究者等は，研究活動の正当性の証明手段を確保するとともに，第三者による検証可能性を担保するため，実験・観察記録ノート，実験データその他の研究資料等（以下「研究データ」という。）を一定期間適切に保存・管理し，開示の必要性及び相当性が認められる場合には，これを開示しなければならない。

４　前項に規定する研究データの保存期間は，次の各号のとおりとする。

⑴　論文等の形で発表された研究成果のもととなった実験データ等の研究資料は，当該論文等の発表から 10 年間を原則とする。

⑵　論文等の形で発表された研究成果に関わる試料や標本等の有体物は，５年間を原則とする。ただし，保存が不可能ないしは著しく困難である，保存のためのコストやスペースが膨大になる等，社会通念上やむを得ない理由がある場合はこの限りではない。

⑶　特許等に関わる研究データは，30 年を原則とする。

５　法令等において，前項各号の期間を超える保存期間が定められているときは，当該法令等の定めによる。

６　論文等の形で学外に発表されない卒業研究等は，必ずしも第３項及び第４項に規定する限りではないが，可能な限りこれらに準じて取り扱うことが望ましい。

（最高管理責任者）

第６条　本学を統括し，不正行為の防止に努めるとともに，不正行為が発生した場合の対応について最終責任を負う者として最高管理責任者を置き，学長をもって充てる。

（統括管理責任者）

第７条　最高管理責任者を補佐し，研究活動に係る不正行為の相談，告発の受付，疑いが生じたときの調査実施全般を統括する者として統括管理責任者を置き，副学長（総務担当）をもって充てる。

２　統括管理責任者は，公正な研究活動を推進するために適切な措置を講じる。

（研究倫理教育責任者）

第８条　研究倫理の向上及び不正行為の防止に関する責任を負う者として研究倫理教育責任者を置き，学部長，研究科長，開発研究所長及び事務部長をもって充てる。

２　研究倫理教育責任者は，自己の管理監督又は指導する部局において，研究者等に対し，研究倫理教育を定期的に実施しなければならない。

第２章　告発・相談

（通報窓口）

第９条　不正行為に関する告発又は告発の意思を明示しない相談（以下「告発等」とする。）を受ける窓口（以下「通報窓口」という。）を事務部庶務課に置く。

２　不正行為が存在すると疑う者は，前項に規定する通報窓口に，書面，ＦＡＸ，電子メール，電話等により告発又は相談することができる。ただし，当該告発等の事案に関わる利害関係者が通報窓口に関与していると思われる場合は，統括管理責任者をもって通報窓口に代えることができる。

（告発等の取扱い）

第 10 条　通報窓口は，告発等を受け付けたときは，速やかに統括管理責任者に報告する。

２　前項の報告を受けた統括管理責任者は，当該告発等に対し，第 14 条に規定する予備調査を行うか否かを決定し，その旨を告発者又は相談者（匿名の告発者又は相談者を除く。）に通知するとともに，最高管理責任者に報告する。なお，予備調査を行う必要がないと決定したときは，その理由を付さなければならない。

３　告発は原則として顕名により行われ，不正行為を行ったとする研究者・グループ，不正行為の態様等事案の内容が明示され，かつ不正とする科学的合理的根拠が示されていなければならない。

４　匿名による告発があった場合，その内容が前項と同等のものであると判断されるときは，顕名による告発があった場合に準じて取り扱う。

５　統括管理責任者は，告発された事案について，本学が調査を行うべき機関に該当しないときは，該当する研究機関等に当該告発を回付する。また，本学のほかにも調査を行う研究機関等が想定される場合は，該当する研究機関に当該告発について通知する。

６　統括管理責任者は，報道や学会等の研究者コミュニティにより不正行為の疑いが指摘された場合，匿名による告発があった場合に準じて取り扱う。

７　統括管理責任者は，告発の意思を明示しない相談があったときは，その内容を確認し，相当の理由があると認めたときは，当該相談者に対して告発の意思があるか否か確認する。

８　統括管理責任者は，不正行為が行われようとしている又は不正行為を求められているという告発等については，その内容を確認し，相当の理由があると認めたときは，被告発者に警告を行う。

（秘密保持義務）

第 11 条　この規程に定める相談・告発及び調査等に携わる全ての者は、その職務上知り得た情報を漏らしてはならない。

２　最高管理責任者は，調査中の事案について，調査結果の公表まで，告発者及び被告発者の意に反して調査関係者以外に情報が漏洩することのないよう，秘密の保持を徹底させなければならない。

３　最高管理責任者は，調査中の事案に関する情報が調査関係者以外に漏洩した場合，告発者及び被告発者の了解を得て，調査中であっても，調査事案について公に説明することができる。ただし，告発者又は被告発者等の責に帰すべき事由により漏洩したときは，当該者の了解は不要とする。

（告発者の保護）

第 12 条　最高管理責任者は，悪意に基づく告発であることが判明しない限り，単に告発したことを理由に，告発者に対し，解雇，降格，減給その他不利益な取扱いをしてはならない。

２　最高管理責任者は，告発したことを理由とする告発者の職場環境の悪化や差別待遇が起きないようにするために，適切な措置を講じなければならない。

（被告発者の保護）

第 13 条　最高管理責任者は，相当な理由なしに，単に告発がなされたことのみをもって，被告発者の研究活動を部分的又は全面的に禁止したり，解雇，降格，減給その他不利益な取扱いをしたりしてはならない。

２　最高管理責任者は，告発されたことを理由とする被告発者の職場環境の悪化や差別待遇が起きないようにするた

めに，適切な措置を講じなければならない。

第３章　調査

（予備調査）

第 14 条　統括管理責任者は，第 10 条第 1 項で受け付けた告発に対し，告発内容の合理性及び調査可能性等について予備調査を行うため，予備調査委員会を設置する。

2　予備調査委員会は，統括管理責任者を委員長とし，被告発者が所属する部局の長及び部局の長が指名する者若干名をもって構成する。

3　告発者又は被告発者と直接の利害関係がある者は，委員から除外する。

4　予備調査委員会は，調査結果を最高管理責任者に報告する。報告を受けた最高管理責任者は，告発を受け付けた日から起算して 30 日以内に本調査を行うか否かを決定する。

（配分機関等への報告・協議）

第 15 条　最高管理責任者は，本調査を行うことを決定した場合，その実施方針，調査対象者及び方法等について，文部科学省又は文部科学省が所管する独立行政法人から配分される競争的資金を中心とした公募型資金を配分する機関（以下「配分機関」という。），関係機関及び関係省庁に報告し，協議しなければならない。

2　最高管理責任者は，本調査を行う必要がないと決定した場合，その旨を配分機関，関係機関及び関係省庁に報告するとともに，告発者に通知する。この場合，最高管理責任者は予備調査に係る資料等を保存し，その事案に係る配分機関，関係機関及び告発者の求めに応じ開示しなければならない。

（調査委員会）

第 16 条　最高管理責任者は，本調査を行うことを決定した場合，速やかに調査委員会を設置する。

2　調査委員会は，次の各号に掲げる者をもって構成する。

⑴　統括管理責任者

⑵　被告発者が所属する部局の長

⑶　事務部長

⑷　統括管理責任者が指名する外部有識者

3　前項第 4 号に規定する外部有識者は，４名以上とする。

4　告発者又は被告発者と直接の利害関係がある者は，委員から除外する。

5　調査委員会に委員長を置き，統括管理責任者をもって充てる。

6　調査委員会に副委員長を置き，被告発者が所属する部局の長をもって充てる。

7　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故があるときは，その職務を代行する。

8　調査委員会が必要であると認める場合は，委員以外の者の出席を求め，意見等を聞くことができる。

（議　事）

第 17 条　調査委員会は，委員の３分の２以上が出席しなければ，議事を開き，議決をすることができない。

2　調査委員会の議事は，出席した委員の過半数で決し，可否同数のときは委員長の決するところによる。

（本調査の通知）

第 18 条　最高管理責任者は，告発者及び被告発者に対して，本調査を行うこと及び調査委員の氏名・所属を通知し，調査への協力を求める。

2　前項の通知を受けた告発者及び被告発者は，当該通知を受けた日から起算して７日以内に，書面により，最高管理責任者に対して調査委員に関する異議を申し立てることができる。

3　最高管理責任者は，前項の異議申立てがあった場合，その内容が妥当であると判断したときは，当該異議申立てに係る調査委員を交代させるとともに，その旨を告発者及び被告発者に通知する。

（本調査の実施）

第 19 条　調査委員会は，本調査の実施を決定した日から起算して 30 日以内に，本調査を開始する。

2　調査委員会は，告発において指摘された当該研究に係る論文，実験・観察ノート，生データその他資料の精査及び関係者のヒアリング等の方法により，本調査を行う。

3　調査委員会は，被告発者による弁明の機会を設けなければならない。

4　調査委員会は，被告発者に対し，再実験等の方法によって再現性を示すことを求めることができる。また，被告発者から再実験等の申し出があり，調査委員会がその必要性を認める場合は，それに要する期間及び機会並びに機器の使用等を保証する。

5　告発者，被告発者及びその他当該告発に係る事案に関係する者は，本調査に誠実に協力しなければならない。

（証拠の保全）

第 20 条　最高管理責任者は，本調査を実施するに当たって，告発された事案に係る研究活動に関して，証拠となる資料等を保全する措置をとる。

2　告発された事案に係る研究活動が行われた研究機関が本学でない場合，最高管理責任者は，告発された事案に係る研究活動に関して，証拠となる資料等を保全する措置をとるよう，当該研究機関に依頼する。

3　最高管理責任者は，前 2 項の措置に必要な場合を除き，被告発者の研究活動を制限してはならない。

（調査における研究又は技術上の情報の保護）

第 21 条　調査委員会は，本調査に当たっては，調査対象における公表前のデータ，論文等の研究又は技術上秘密とすべき情報が，調査の遂行上必要な範囲外に漏洩することのないよう，十分配慮しなければならない。

（配分機関等への調査協力）

第 22 条　最高管理責任者は，配分機関，関係機関及び関係省庁の求めがあった場合，調査の終了前であっても，調査の進捗状況報告及び調査の中間報告を提出する。

2　最高管理責任者は，配分機関，関係機関及び関係省庁の求めがあった場合，調査に支障がある等，正当な事由がある場合を除き，当該事案に係る資料の提出又は閲覧，現地調査に応じる。

第 4 章　認定

（認定の手続き）

第 23 条　調査委員会は，本調査を開始した日から起算して 150 日以内に調査した内容をまとめ，次の各号に掲げる事項を認定し，直ちに最高管理責任者に報告する。

⑴　不正行為が行われたか否か

⑵　不正行為と認定された場合はその内容，不正行為に関与した者とその関与の度合い，不正行為が行われたと認定された研究活動に係る論文等の各著者の当該論文等及び当該研究活動における役割

⑶　不正行為が行われなかったと認定される場合であって，告発が悪意に基づくものであることが判明したときは，その旨

2　前項第 3 号の認定を行うに当たっては，調査委員会は，告発者による弁明の機会を設けなければならない。

3　最高管理責任者は，告発を受け付けた日から起算して 210 日以内に，調査結果，不正発生要因，不正に関与した者が関わる他の研究費における管理・監査体制の状況，再発防止計画等を含む最終報告書を，配分機関，関係機関及び関係省庁に提出しなければならない。また，期限までに調査が完了しない場合であっても，調査の中間報告を同様に提出しなければならない。

4　調査委員会は，調査の過程であっても，不正の事実が一部でも確認された場合には，速やかに認定し，最高管理責任者に報告する。報告を受けた最高管理責任者は，配分機関，関係機関及び関係省庁に報告する。

（認定の方法）

第 24 条　調査委員会は，本調査によって得られた，物的・科学的証拠，証言，被告発者の自認等の諸証拠を総合的に判断して，不正行為か否かを認定する。

2　調査委員会は，被告発者による自認を唯一の証拠として不正行為を認定することはできない。

3　調査委員会は，被告発者の説明及びその他の証拠によって，不正行為であるとの疑いを覆すことができないときは，不正行為と認定することができる。また，被告発者が生データや実験・観察ノート，実験試料・試薬等，本来存在するべき基本的な要素の不足により，不正行為であるとの疑いを覆すに足る証拠を示せないときも同様とする。

（調査結果の通知）

第 25 条　最高管理責任者は，認定を含む調査結果を告発者及び被告発者に通知し，被告発者が本学以外の機関に所属している場合は，当該所属機関にも通知する。

2　最高管理責任者は，悪意に基づく告発と認定した場合，告発者の所属機関にも通知する。

（不服申立て）

第 26 条　不正行為が行われたと認定された被告発者又は告発が悪意に基づくものと認定された告発者（被告発者の不服申立ての審議の段階で悪意に基づく告発と認定された者を含む。）は，前条の通知を受けた日から起算して 14 日以内に，最高管理責任者に対し不服申立てをすることができる。ただし，その期間内であっても，同一理由による不服申立てを繰り返すことはできない。

2　不服申立ての審査は，第 16 条に規定する調査委員会が行う。

3　前項に規定する審査について，最高管理責任者は，調査委員会の構成の変更等を必要とする相当の理由があると認める場合，委員を交代又は追加することができる。

4　調査委員会は，不服申立ての趣旨，理由等を勘案し，再調査を行うか否かを速やかに決定する。

5　調査委員会は，当該事案の再調査を行うまでもなく，不服申立てを却下することを決定した場合には，直ちに最高

管理責任者に報告する。報告を受けた最高管理責任者は，不服申立て人に対し，その決定を通知する。その際，当該不服申立てが，当該事案の引き延ばしや認定に伴う各措置の先送りを主な目的とすると調査委員会が判断した場合は，以後の不服申立てを受け付けないことを併せて通知する。

6　調査委員会は，再調査を行うことを決定した場合には，直ちに最高管理責任者に報告する。報告を受けた最高管理責任者は，不服申立て人に対し，その決定を通知する。

7　最高管理責任者は，被告発者から不服申立てがあったときは被告発者が所属する機関及び告発者に通知し，告発者から不服申立てがあったときは告発者が所属する機関及び被告発者に通知する。また，配分機関，関係機関及び関係省庁に報告する。不服申立ての却下及び再調査開始の決定をしたときも同様とする。

（再調査）

第 27 条　前条の不服申立てに対し再調査を行うことを決定した場合，調査委員会は，不服申立て人に対し，先の調査結果を覆すに足る資料の提出等を求めることとし，その協力が得られないときは，再調査を行わず，審査を打ち切ることができる。その場合，調査委員会は，直ちに最高管理責任者に報告する。報告を受けた最高管理責任者は，不服申立て人に対し，その決定を通知する。

2　調査委員会は，不服申立てを受けた日から起算して 50 日（告発が悪意に基づくものと認定された告発者から不服申立てがあった場合は，当該不服申立てを受けた日から起算して 30 日）以内に調査結果を覆すか否かを決定し，その結果を最高管理責任者に報告する。報告を受けた最高管理責任者は，不服申立て人に対し，その決定を通知する。

3　最高管理責任者は，第 1 項又は第 2 項の報告に基づき，速やかに再調査結果をまとめ，被告発者から不服申立てがあったときは被告発者が所属する機関及び告発者に通知し，告発者から不服申立てがあったときは告発者が所属する機関及び被告発者に通知する。また，配分機関，関係機関及び関係省庁に報告する。

（公　表）

第 28 条　不正行為に関する公表は，最高管理責任者が行う。

2　不正行為が行われたと認定した場合において，当該不正行為が故意又は重大な過失によるものであるときは，原則として，不正行為を行った者の氏名，不正行為の内容及びその他必要な事項を公表する。

3　不正行為が行われなかったと認定した場合は，原則として，当該認定に係る公表は行わない。ただし，認定前に当該事案が外部に漏洩していた場合は，不正行為が行われていなかったこと及びその他必要な事項を公表する。

4　告発が悪意に基づき行われたと認定した場合は，原則として，当該告発者の氏名及びその他必要な事項を公表する。

第 5 章　措置

（不正使用等に対する措置）

第 29 条　不正行為が行われたと認定した場合又は告発が悪意に基づき行われたと認定した場合で，処分を行うことが必要であると認められたときは，最高管理責任者は法令，『学校法人北海学園就業規則』又は学則等に基づき必要な措置を講じる。

2　最高管理責任者は，認定された不正行為において，私的流用など悪質性が高い場合には，刑事告発や民事訴訟など法的な手続きをとる。

3　研究者等による研究費の不正な使用又は管理により研究費を返還する必要が生じた場合は，当該研究者等がその返還金全額を負担することを原則とする。

（研究費の返還・執行停止等）

第 30 条　最高管理責任者は，必要に応じて，被告発者等の調査対象となっている者に対し，調査対象制度の研究費の一時的執行停止を命じる。

2　最高管理責任者は，不正行為を行った者に対し，不正行為が行われたと認定した研究活動に係る研究費について，不正行為の重大性，悪質性及び不正行為の関与の度合に応じて全額又は一部を返還させる。

3　最高管理責任者は，不正行為を行った者に対し，不正行為が行われたと認定した研究活動に係る研究費について，不正行為の学術的・社会的影響度，悪質度及び不正行為の関与の度合に応じて執行停止を命じる。

4　最高管理責任者は，不正行為を行った者に対し，不正行為が行われたと認定した論文等の取下げを勧告する。

（競争的資金への応募資格の停止等の措置）

第 31 条　最高管理責任者は，不正行為を行った者に対し，不正行為が行われたと認定した場合は，競争的資金への応募資格の停止等の措置を講じる。

第 6 章　雑則

（改　廃）

第 32 条　この規程の改廃は，協議会の議を経て最高管理責任者がこれを行う。

附　則

1　この規程は，令和３年９月１日から施行する。

2　平成 29 年４月１日施行の北海学園大学の研究活動における行動規範及び不正行為の対応に関する規程は，これを廃止する。

3　平成 29 年４月１日施行の競争的研究資金等の不正使用に係る事案の取扱いに関する内規は，これを廃止する。

附　則

この規程は，令和４年４月１日から施行する。

特別聴講学生（単位互換制度）について

単位互換制度とは単位互換協定を締結している大学院研究科相互において院生が相手研究科の授業科目を履修することを求めた制度です。本研究科では北海道大学大学院文学院と協定を締結しております。具体的な履修方法については、２月後半に案内します。

北海道大学大学院文学院と北海学園大学大学院文学研究科との特別聴講学生に関する協定書

北海道大学大学院文学院と北海学園大学大学院文学研究科との間において両大学院の学生が，相互に相手大学院の授業科目を履修し，単位を修得することを認めることとし，次の事項について協定する。

１．聴講の許可
　両大学院は，相互に相手大学院の学生が自大学院の授業科目を履修し，単位の修得を希望するときは，所定の手続きを経てその聴講を許可するものとする。
２．授業科目
　聴講を許可する授業科目は，当該年度の開講科目のうち，授業担当教員が聴講を認める科目とし，聴講許可にあたっては，あらかじめ指導教員及び授業担当教員の了承を得て，大学院の長が承認したものとする。
３．単位数
　修得単位数は，各履修者において 12 単位を超えないものとする。
４．身分
　両大学院は，相互に相手大学院の学生を特別聴講学生として受け入れるものとする。
５．受入れ人数
　各年度５名程度までとする。
６．受入れの手続き
　各年度のはじめを目処に，募集要項により通知するものとする。
７．成績の通知及び単位の認定
　両大学院は，特別聴講学生が聴講した授業科目の単位及び成績について，学期末に相手大学院に報告するものとし，修得単位の認定は，各々の大学院において行う。
８．検定料，入学料及び授業料
　特別聴講学生に係る検定料，入学料及び授業料は，相互の大学院において不徴収とする。
９．事務処理等
　この協定の実施について必要な事項は，両大学院の協議により処理するものとする。
10．協定の有効期間
　この協定の有効期間は，令和５年４月１日から５年間とし，両大学院の相互の承認により，更新，変更又は廃止することができるものとする。

成　績　照　会

成績照会とは成績に疑問のある時に問い合わせる制度です。今年度履修した科目の成績に関して，照会が可能です。照会を希望する場合は，申請期間内に所定の申請用紙を文学研究科窓口で受け取り，期日までに提出してください。その後，申請に基づき適正に調査した上で回答します。
※原則，申請期間を過ぎての申請は受け付けられませんので，十分注意してください。

【成績照会申請期間】
2026 年 3 月 21 日（土）～ 2026 年 3 月 25 日（水）

修士・博士論文研究計画届

この計画書は，修士論文・博士論文作成のために，どのような準備をしているかを問うものである。指導教員（主査・副査）の承諾を得た後，2025 年 4 月 19 日（土）までに文学研究科事務室へ提出のこと（添付メールで提出する場合は，jinbun@hgu.jp まで）。

学生番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学　年＿＿＿＿

研究テーマ（仮題）

主査
職　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

副査
職　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

副査
職　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【研究計画】
（例）本研究は，--- の --- について

【　記　入　例　】
論文を完成させるために，補強すべき作業内容を時系列的に簡潔に記入のこと。
（例）
2025 年 12 月までに関係文献資料を整理
2025 年 5 月までに目次と論文概要を整理
8 月までに第 1 次稿を完成させ，予備審査を受ける
2026 年 1 月 10 日　修士論文提出

学会での発表
（例）【研究発表】
2025 年 5 月　連歌連句　連詩の構造
－やまと歌にみる共同性－
北海道人文学会
2026 年 2 月　右大臣実朝の祈願―「金槐和歌集」を中心に―史学会
（例）【論文等】
2026 年 9 月　連歌にみる座と一味同心
論文（単著）北海道人文学　NO. 7
研究ノート，紹介，書評

【修士２年，博士３年用】

修士・博士論文題目届

指導教員（主査・副査）の承諾を得た後，2025 年 9 月 30 日（火）までに文学研究科事務室へ提出のこと（添付メールで提出する場合は，jinbun@hgu.jp まで）。

学生番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学　年＿＿＿＿

論文題目（変更不可）

主査
職　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

副査
職　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

副査
職　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【研究計画】
（例）本研究は，--- の --- について

【　記　入　例　】
論文を完成させるために，補強すべき作業内容を時系列的に簡潔に記入のこと。

（例）
- 2025 年 12 月までに関係文献資料を整理
- 2025 年 5 月までに目次と論文概要を整理
  8 月までに第 1 次稿を完成させ，予備審査を受ける
- 2026 年 1 月 10 日　修士論文提出

学会での発表
（例）【研究発表】
- 2025 年 5 月　連歌連句　連詩の構造
  －やまと歌にみる共同性－
  北海道人文学会
- 2026 年 2 月　右大臣実朝の祈願―「金槐和歌集」を中心に―史学会

（例）【論文等】
- 2026 年 9 月　連歌にみる座と一味同心
  論文（単著）　北海道人文学　NO. 7
  研究ノート，紹介，書評

【修士２年，博士３年用（９月期)】

修士・博士論文題目届

指導教員（主査・副査）の承諾を得た後、2025 年 4 月 19 日（土）までに文学研究科事務室へ提出すること（添付メールで提出する場合は、jinbun@hgu.jp まで)。

学生番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学　年＿＿＿＿

論文題目（変更不可）

主査
職　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

副査
職　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

副査
職　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【研究計画】

（例）本研究は，--- の --- について

【　記　入　例　】

論文を完成させるために，補強すべき作業内容を時系列的に簡潔に記入のこと。

（例）
- 2025 年 12 月までに関係文献資料を整理
- 2025 年 5 月までに目次と論文概要を整理
  8 月までに第 1 次稿を完成させ，予備審査を受ける
- 2026 年 1 月 10 日　修士論文提出

学会での発表

（例)【研究発表】
- 2025 年 5 月　連歌連句　連詩の構造
  －やまと歌にみる共同性－
  北海道人文学会
- 2026 年 2 月　右大臣実朝の祈願—「金槐和歌集」を中心に—史学会

（例)【論文等】
- 2026 年 9 月　連歌にみる座と一味同心
  論文（単著） 北海道人文学　NO. 7
  研究ノート，紹介，書評

学 位 論 文 審 査 願

年　　月　　日

文学研究科長

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

北海学園大学大学院文学研究科

修士課程＿＿＿＿＿ 文化専攻＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿年度入学　学生番号＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

北海学園大学学位規則第３条第1項の規定により、修士（文学）の学位論文に下記の書類を添えて提出しますので、審査願います。

なお、審査に合格した論文の公開・処分等については北海学園大学大学院文学研究科に一任します。

記

1．論　　文　3通

2．履 歴 書　2通

北海学園大学大学院	受　理　番　号		修　士　課　程

受　　付

学　位　論　文　審　査　願

年　　月　　日

文学研究科長

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

北海学園大学大学院文学研究科

博士（後期）課程＿＿＿＿＿文化専攻＿＿＿＿＿

＿＿＿＿年度入学　学生番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

北海学園大学学位規則第３条第２項の規定により、修士（文学）の学位論文に下記の書類を添えて提出しますので、審査願います。

記

１．論　　文　3通

２．履 歴 書　2通

北海学園大学大学院	受　理　番　号		博　士　課　程

受　　付

学　位　論　文　審　査　願

年　　月　　日

文学研究科長

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

北海学園大学学位規則第３条第３項の規定により、博士（文学）の学位論文に下記の書類を添えて提出しますので、審査願います。

記

１．論　　文　3通

２．履 歴 書　2通

北海学園大学大学院	受　理　番　号		論　文　博　士

受　　付
（審査手数料） 正規　減額　免除 20　10

許　　諾　　書　（修士論文）

令和　　年　　月　　日

北海学園大学大学院

＿＿＿＿＿＿ 研究科長　様

下記の学位論文（修士論文）について，図書館資料として閲覧に供する際に，下記の要件にしたがって、利用を許諾します。

記

1．論文題目 ： ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．提出年月日 ： 令和　　年　　月　　日

3．学位論文の閲覧について，許諾する。

4．学位論文の複写について，全頁複写を許諾する。

フリガナ
氏　　名 ： ＿＿＿＿＿＿＿＿印（署名）　　学生番号　＿＿＿＿＿＿＿＿

研 究 科 ： ＿＿＿＿＿＿＿＿　　専　　攻　＿＿＿＿＿＿＿＿

指導教員 ： ＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先：住所　〒 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号 ： ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

E-mail ： ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

〔個人情報の取扱について〕　学位論文に関する問い合わせのために使用いたします。

－ －

＜備　考＞　研究科所見

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学　長	大学院事務部長	研究科長	事務長	係	係

学位論文公表申請書

北海学園大学長様

この度,貴学より博士の学位を授与されましたので,貴学機関リポジトリ HOKUGA を活用して当該博士の学位に係る下記論文を公表してくださいますようお願いいたします。

学位論文のタイトル

（外国語訳）

学位の種類

博　士　（　　）

学位の授与年月日

年　　月

学位記番号

公表の形態（いずれかにチェック）

□　全文　　□　要約

要約による公表がやむを得ない事由

要約による公表についての研究科長所見　（研究科長氏名：　　）

年　　月　　日

氏　　名　　㊞

ローマ字綴り

履　歴　書

（　　年　月　日現在）

フリガナ 氏　名　　印 ローマ字氏名	本籍（国籍） 都・道・府・県
西暦　年　月　日生（　）歳	現住所 電話（　）

学歴（大学以上）	年　月　入学 年　月　卒業	
	年　月　入学 年　月　修了	
	年　月　入学 年　月　修了	
	年　月 年　月	
	年　月 年　月	
学位	年　月 年　月	学士（　）
	年　月 年　月	修士（　）
	年　月 年　月	博士（　）

年　月	職　歴
・　・　自 ・　・　至	
・　・　自 ・　・　至	
・　・　自 ・　・　至	
・　・　自 ・　・　至	
・　・　自 ・　・　至	
・　・　自 ・　・　至	

年　月	その他学会活動等

（備考）記入するにあたっては、黒ペン・黒ボールペンを使用してください。

北海学園大学大学院文学研究科

業績目録等

（　　年　月　日現在）

著書・学術論文・作品等の名称（項目別に分けて記載すること。）	発行所、発表雑誌等の名称、その他	発行または発表 年　月
上記以外の著書　　件、　論文　　件		

（注）著書・学術論文等の名称の欄は、原則として最近５年間位の業績

北海学園大学大学院文学研究科

院生研究図書費について

下記の要領により、研究活動に資するための研究図書が購入できます。

Ⅰ．予算：一人　　48,000 円

【購入できる研究図書】 研究に使用する資料　⇒　図書・雑誌・CD‐ROM・DVD等。
図書館レファレンスカウンターにて、ILL（文献複写・相互貸借図書）にも利用できます。

※電子辞書やワード・エクセル等のアプリケーションソフトは購入できません。
※研究・論文執筆に関係のない資料の購入や、購入した資料の売買等本来の趣旨とは異なる行動が見受けられた場合は、該当の個人だけではなく大学全体としてこの制度を見直すことになりますので、留意してください。

Ⅱ．購入方法

【書店で購入または発注する場合】　※学生証が必要です。

下記のいずれかを利用してください。

①大学生協

購入または発注（取寄せ）⇒生協書籍部で研究図書と金額明細書の受取り

②紀伊國屋サロン 〈豊平キャンパス6号館地下1階〉

購入または発注（取寄せ）⇒紀伊國屋サロンで研究図書と金額明細書の受取り

③紀伊國屋書店札幌本店 〈JR札幌駅南口すぐ〉

選書　⇒レジカウンターに持っていく（学生証提示）⇒3日後（土日祝は含まず）、豊平キャンパスの紀伊國屋サロンで研究図書と金額明細書の受取り

【図書館を通して購入する場合】

「大学院生研究費　図書購入申込書」（G-PLUS！のキャビネット、または図書館で入手可）に必要事項を記入し、以下の場所へ提出してください。納品連絡後の受取りとなります。

豊平キャンパス

【提出先】図書館２階サービス・カウンター　【受取り場所】図書館地下１階所定配架場所

山鼻キャンパス

【提出先＆受取り場所】工学部図書室カウンター

〈注意〉

※研究図書受取りの際、金額明細書が渡されます。予算管理は各自で行い、予算を超過しないよう充分注意してください。
※超過した金額を私費で購入することはできません（例えば研究図書費の残額が1,000円だった場合、私費で200円支払って1,200円の資料を購入することはできません）。
※休学期間中の購入はできません（在学中に納品となるよう注文してください）。前期又は後期休学の場合、在学中の半期は予算48,000円を使用できます。
※長期履修の場合、年度ごとに予算48,000円を使用できます。
※現在流通している書籍を古書として購入することはできません。
※古書の発注には別途送料がかかります。
※大学生協では古書の取扱いをしておりません。絶版書籍等の発注は、紀伊國屋サロンまたは図書館で承ります（希望指定の書店で古書の購入はできません）。
※購入した研究図書は、他者に譲渡および転売等することを禁じます。

Ⅲ．図書の購入期限について

図書の最終購入・発注期限は、**令和７年 12 月５日（金）**です。期限以降、購入・発注はできません。

洋書・古書に関しては、納期に時間がかかるため、遅くともこの１ヶ月前には発注するようにしてください。

なお、納品が来年１月末日までに間に合わない場合は研究図書費での購入ができませんので、早めの購入を心がけてください。図書館を通して発注した場合も同様です。

※ご不明な点は、図書館事務室、又はメール（lib@hgu.jp）にてお問い合わせください。